ISEKI

# 乗用田植機

# さなえ

# 取扱説明書

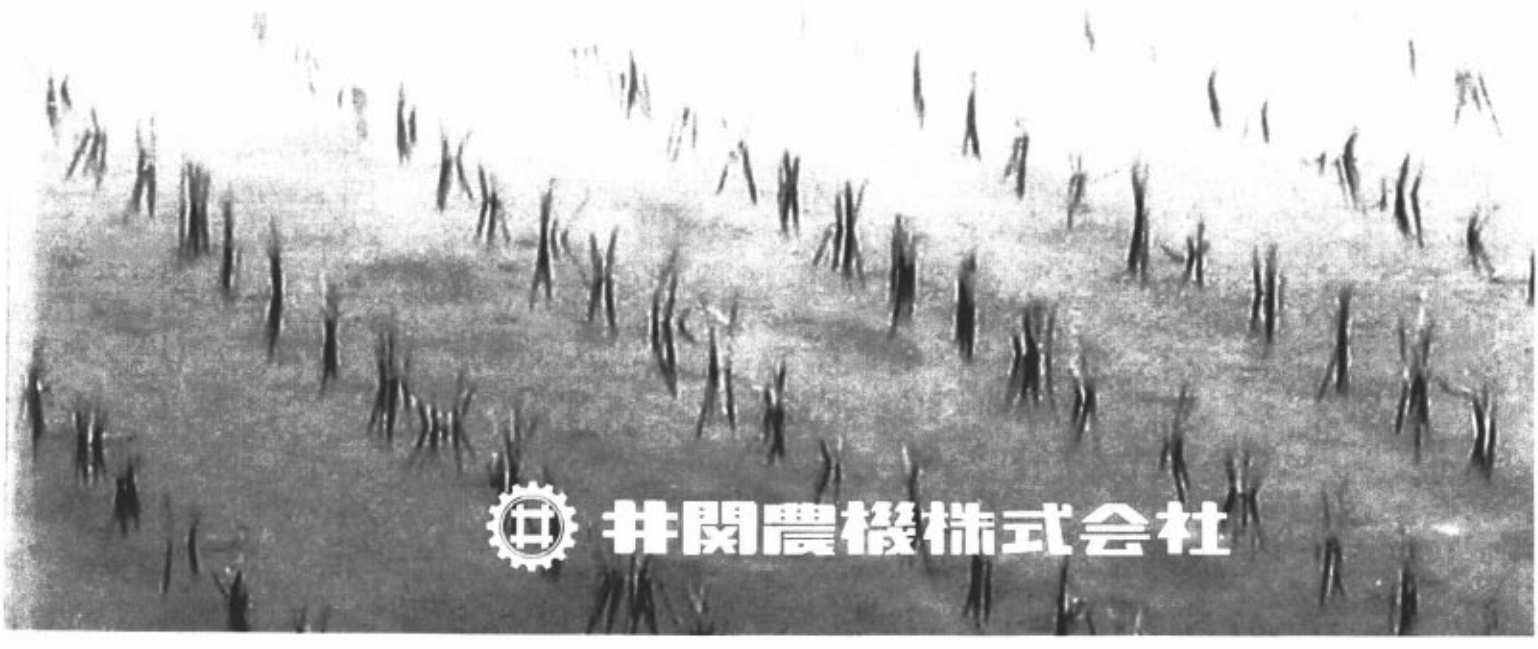
## PZ 70・60・50
## PZ 70L・60L・50L

## ご注意

◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。

◆記載内容を十分理解してから、乗用田植機の取扱いを開始してください。

◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できるよう乗用田植機の近くに保管してください。



井関農機株式会社

# 田植機重要ポイント

**1. ほ場まで移動するときは、**

**トラック等に載せて運搬します。**

**2. 燃料を補給するときは、**

**火気厳禁とします。**

**エンジンを停止し冷機状態で行います。**

**3. エンジンを始動するときは、**

**ブレーキペダルを「ロック」主変速レバーを「止」で行います。**

**周囲の状況を確認してから行います。**

**4. トラックへ積み降ろしするときは、**

**強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。**

**スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。**

**5. ほ場へ出入りするときは、**

**スピードを落としあぜに直角に走行します。**

**6. 田植機や作業機を点検整備するときは、**

**必ず平たんな広い場所で、油圧ロックをし、エンジンを止めます。**

**7. 補助者と共同作業を行うときは、**

**合図をし状況を確認します。**

**この機械をお使いになるときは復唱してください。**

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも、本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

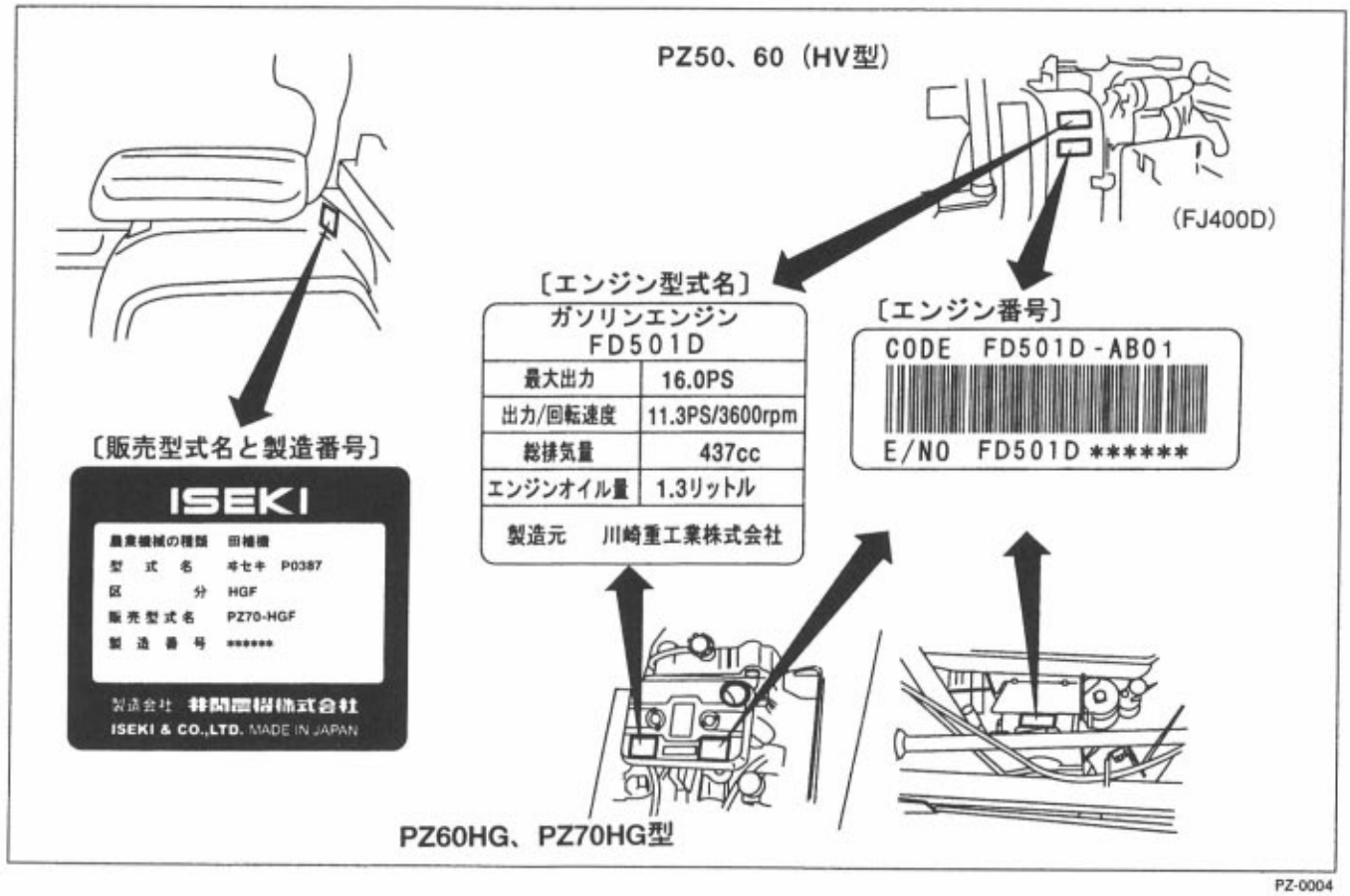
# 重要なお知らせ

- このたびは、ヰセキ田植機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、稲の苗を植付けるための作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 井関農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、ヰセキ田植機（以降田植機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この田植機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や田植機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、田植機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および田植機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 田植機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- この田植機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この田植機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の田植機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本田植機を譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は田植機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本田植機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、田植機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買い上げ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買い上げ先」へお問い合せください。

# 型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の田植機について併記しています。
お買い上げいただいた田植機の型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

## ■銘板の位置




PZ-0004

## ■上記（例）の販売型式名　PZ70-HGF

## ■装備内容

| | | 基本型式 | | 植付部 | | | | | | 施肥機 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | HV | HG | R | A | AS | C | 7 | L | F | M |
| エンジン | FJ400D（最大 13.5ps） | ○ | | | | | | | | | |
| | FD501D（最大 16.0ps） | | ○ | | | | | | | | |
| さなえZターン | | ○ | ○ | | | | | | | | |
| ロングホイルベース | | | ○<br>(6条) | | | | | | | | |
| 条間 33cm | | | | | ○ | ○ | | | | | |
| 植付株数（株） | 35 ～ 75 | | | | ○ | | | | | | |
| | 65 ～ 90 | | | | | ○ | | | | | |
| 枕地一行程 | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| マイコンローリング | | | | ○ | | | | | | | |
| さなえZロータ | | | | | | | | | ○ | | |
| 側条施肥 | 粒 状 | | | | | | | | | ○ | |
| | ペースト | | | | | | | | | | ○ |

# 警告表示について

本田植機を正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。
また、田植機で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

## ■表示の説明

| | |
|---|---|
| ⚠ 危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注意 | その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。 |
| 注意 | その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。 |
| 補足 | 知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。 |

## ■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

| | | |
|---|---|---|
| (例) | 注意の喚起 | この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。(左図の場合は爆発注意) |
| (例) | 禁止行為 | この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。(左図の場合は火気厳禁) |
| (例) | 強制行為 | この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。(左図の場合はメガネ着用) |

# 目　次


重要なお知らせ……i
型式と装備内容について……ii
警告表示について……iv
目次……v

## 1. 使用上のポイント

1.1　非特殊自動車としての取り扱い……1
1.2　使用上のご注意……1
1.2.1　運転者の条件……1
1.2.2　作業をする前に……2
1.2.3　エンジンの始動と発進……3
1.2.4　走行するときは……4
1.2.5　トラックへの積み·降ろし……7
1.2.6　作業中は……9
1.2.7　夜間作業の禁止について……10
1.2.8　点検·整備……10
1.2.9　格納·保管時は……13
1.3　電装関係を取り扱うときは……14
1.3.1　電気配線点検時の注意事項…14
1.3.2　バッテリー取り扱い時の注意事項……15
1.3.3　ブースタケーブル使用時の注意事項……16
1.3.4　バッテリー液の注意事項……17
1.4　警告ラベルについて……17
1.5　警告ラベル貼付位置……18
1.5.1　走行部……18
1.5.2　植付部……20

## 2. 保証とサービスについて

2.1　商品の保証……21
2.2　サービスネット……21
2.3　補修用部品供給年限について……21

## 3. 各部の名称とはたらき

3.1　各部の名称……22
3.2　計器およびスイッチのはたらき……25
3.2.1　スイッチのはたらき……25
3.2.2　計器のはたらき……29
3.3　レバー、ペダル、シート関係の取り扱い…32
3.3.1　主変速レバー……32
3.3.2　Zシフトグリップ（主変速レバーに付いているグリップ）……33
3.3.3　アクセルペダル……34
3.3.4　副変速レバー……34
3.3.5　チョークノブ……35
3.3.6　ブレーキペダル……35
3.3.7　ロック解除ペダル……36
3.3.8　前輪デフロックペダル……36
3.3.9　チルトレバー……37
3.3.10　座席の調節……37
3.3.11　さなえZターン自動スイッチ…38
3.3.12　株数切替レバー……38
3.3.13　株数副変速レバー……38
3.3.14　畦クラッチレバー……39
3.3.15　苗取量調節レバー……39
3.3.16　植付深さ調節レバー……39
3.3.17　横送りレバー……40
3.3.18　苗押え……40
3.3.19　苗ストッパ……41
3.3.20　ロータ……41
3.3.21　ロータ高さ調節レバー……41
3.3.22　ロータケース……42
3.3.23　伝動軸……42

## 4. 作業前点検

4.1　給油、注油箇所の点検と補給……44
4.1.1　燃料……45
4.1.2　エンジンオイル……46
4.1.3　冷却水（PZ60HG、70HG型）…48

4.1.4 チェンジミッションオイル（全型式）……49
4.1.5 植込杆……50
4.1.6 リードメタル……50
4.1.7 グリース注入箇所（グリースニップル）……51
4.1.8 オイル注油箇所……52

## 5. 運転のしかた

**5.1 エンジンの始動と停止のしかた……56**
5.1.1 エンジンの始動……56
5.1.2 エンジンの停止……58
**5.2 発進、停止、駐車のしかた……59**
5.2.1 発進のしかた……59
5.2.2 停止のしかた……60
5.2.3 駐車のしかた……61
**5.3 移動、運搬のしかた……62**
5.3.1 走行のしかた……62
5.3.2 苗のせ台の収納（PZ70型）…65
5.3.3 トラックへの積み・降ろしのしかた……67
5.3.4 運搬中の固定方法……70
**5.4 ほ場への出入りのしかた……71**
5.4.1 ほ場への入りかた……72
5.4.2 ほ場からの出かた……73

## 6. 植付作業のしかた

**6.1 ほ場の準備……74**
6.1.1 代かき……74
6.1.2 水深……75
6.1.3 きょう雑物……75
**6.2 植付作業前の準備……76**
6.2.1 植付株数（株間）の決めかた…76
6.2.2 株数副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた…78
6.2.3 植付深さの調節……80
6.2.4 横送り量の調整……81
6.2.5 苗取量の調節……82
6.2.6 油圧感度調節……83
6.2.7 抵抗棒の調節……84
6.2.8 整地板の調整……85
**6.3 植付作業の手順……86**
6.3.1 枕地一行程植えのしかた……89
6.3.2 枕地のとりかた……90
6.3.3 さなえZターンを使った旋回のしかた……91
6.3.4 さなえZターンを使わない旋回のしかた……92
6.3.5 電動マーカの使いかた……93
6.3.6 電動マーカ両出しのしかた…93
6.3.7 バックリフトの使いかた……94
6.3.8 苗の補給……95
6.3.9 苗押えの調節……96
6.3.10 ロータの動かしかた……97
6.3.11 ロータの高さ調節……97
6.3.12 植えじまい……98
6.3.13 残り苗の取り出し……99
6.3.14 安全クラッチが作動したとき……100

## 7. 点検整備

**7.1 定期的な点検整備……101**
7.1.1 点検、給油、調整一覧表……102
7.1.2 エンジンオイルの交換……105
7.1.3 エンジンオイルフィルタの交換……107
7.1.4 冷却水の点検……108
7.1.5 ラジエータホース（PZ70、60HG型）……109
7.1.6 ラジエータの清掃（PZ70、60HG型）……111
7.1.7 エアクリーナエレメントの洗浄……111
7.1.8 点火プラグの清掃……112

7.1.9 燃料フィルタの清掃……114
7.1.10 油圧オイルフィルタの交換
……114
7.1.11 油圧サクションフィルタの清掃
……115
7.1.12 リヤミッションオイル給油…116
7.1.13 植付クラッチケースの給油…117
7.1.14 バッテリーの点検と交換…118
7.1.15 ヒューズの交換……120
7.1.16 スローブローヒューズの交換
……121
7.1.17 ランプの交換……122
7.1.18 フィンガ(13.5/Z)……122
7.1.19 植込フォークの点検·交換…122

**8. 格納時の手入れ**

**8.1 日常の格納……123**
**8.2 長期格納……123**

**9. 不調時の処置**

**9.1 不調と処置……126**
**9.2 ロータ仕様機の不調と処置……128**
**9.3 植付部ローリングの応急処置(R型)…129**
**9.4 コントローラによる設定変更と
異常表示について……130**

**10. 付表**

**10.1 推奨潤滑油一覧表……132**
**10.2 主要諸元……133**
**10.3 ロータ仕様……136**
**10.4 機能装備一覧表……137**
**10.5 標準付属品一覧表……138**
**10.6 主な消耗部品一覧表……139**
**10.7 注文部品一覧表……143**

# 1. 使用上のポイント

本章では、田植機を効率よく正しくお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しています。十分に熟読されて、正しい作業を行ってください。

## 1.1 非特殊自動車としての取り扱い

この田植機は、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として、道路走行車両の型式認定を受けていません。したがって、道路を走行することは、違法行為になります。移動する場合は、トラック等に載せて運搬してください。

## 1.2 使用上のご注意

記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

### 1.2.1 運転者の条件

**⚠警告**

**こんなときは、運転をしないでください。**

- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**

※ 誤動作しやすく思わぬ事故の原因になります。

**作業に適した服を着用してください。**

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

※ 機械に巻き込まれたり、すべって転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**⚠警告**

**機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。**

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※ **作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行ってください。**

特に、ブレーキは、忘れないでください。

## 1.2.2 作業をする前に

**⚠警告**

**無理のないゆとりある作業計画をたててください。**

※ 無理な作業計画は、あせり等から傷害事故を引き起こすことがあります。

**作業する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検は必ず行ってください。**

特に、ブレーキは、忘れないでください。

※ 点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり走行中や作業中の傷害事故につながります。

**保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。**

※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。

**⚠危険**

**燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。**

※　守らないと、火災の原因となります。

## 1.2.3　エンジンの始動と発進

**⚠危険**

**室内でエンジンを運転するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。**

※　換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

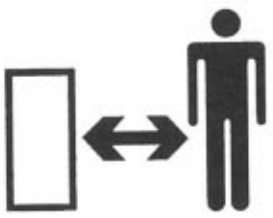
**エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、ブレーキペダル、主変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。**

※　確認を怠ると、急発進したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**発進するときは、周囲の状況を確認して、ゆっくり発進してください。**

特に子供に注意してください。

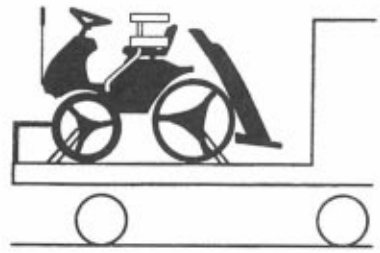
※　急発進すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



## 1.2.4 走行するときは

**⚠警告**

**ほ場等への移動は、必ずトラック等に載せて移動してください。**
この田植機は、自動車としての認定を受けていません。
※ 道路を乗用走行することは違法行為になります。



**ステアリング（ハンドル）やブレーキは、正しく操作し、わき見運転や片手運転をしないでください。**
※ 接触事故や、転倒事故につながるおそれがあります。

**ブレーキペダルを踏むときは、まず主変速レバーでエンジン回転を低速にしてから、踏み込んでください。**
※ 守らないと、ブレーキが効かず衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。

**田植作業以外のときは、必ずデフロックペダルを解除してあるか確認してください。**
※ 解除していないと衝突、転落事故を引き起こすおそれがあります。

## ⚠警告

**田植機の上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。**

※　守らないと、人が転落するおそれがあります。

**高速で急旋回しないでください。**

※　急旋回すると転倒事故につながるおそれがあります。

**凸凹の激しい場所、地面の軟弱な場所、傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた適切な速度で走行してください。**

※　守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

**坂道では、急な旋回をしないでください。**

※　急旋回すると、転倒事故の原因となります。

## ⚠警告

**坂道では決して、副変速レバーを「PTO」状態にしないでください。**
坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけてください。

**側溝のある農道や両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落とし十分注意して走行してください。**
※ 守らないと、路肩が崩れて転倒するおそれがあります。

**田植機から離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチ（キー）を抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。**
**また、止めるところは、地面の硬い広い場所を選んでください。**
※ 田植機が、自然に動き出したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

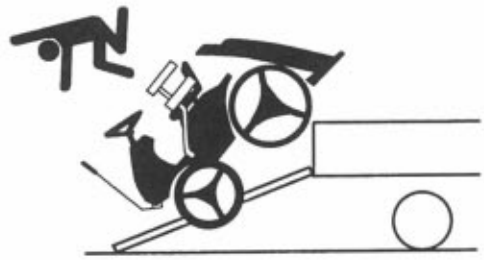
**田植機を草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしないでください。**
※ 排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し、火災の原因となるおそれがあります。

## 1.2.5　トラックへの積み・降ろし

### ⚠警告

**積み込むトラックは、エンジンを止めて、Zシフトレバーを「植付速」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。**

※　守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

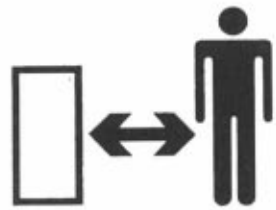


### ⚠注意

**誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。**

田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください。

※　守らないと、傷害事故の原因となります。



### ⚠警告

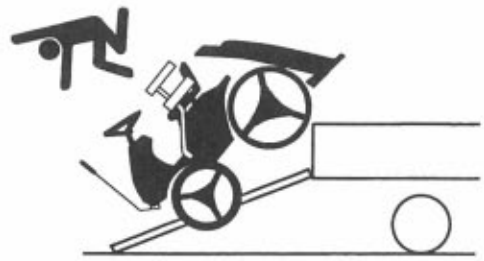
**積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。**

※　守らないと、転落事故の原因となります。

## ⚠警告

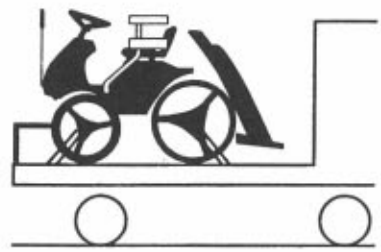
**ステアリング（ハンドル）を左右に大きくきったり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。**

※　守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。



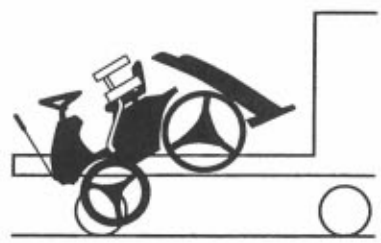
**トラック等で運搬するときは必ずロープ等で荷台に固定してください。**

※　守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



**運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ブレーキはしないでください。**

※　守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



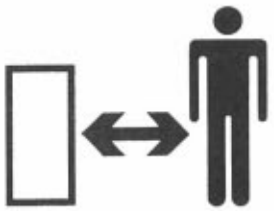
## 1.2.6　作業中は

気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

**⚠警告**

**作業中は、作業者以外の人を田植機に近づけないでください（特に子供）。**

※　田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



**作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、お互いに合図してから行ってください。**

※　守らないと、傷害事故の原因となります。

**あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くして低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。**

※　斜めになると、スリップや転倒の原因となります。

**あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。**

※　使用しなかった場合、衝撃で田植機を破損させたり、転倒することがあります。

**運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリー端子等の通電部等には手を触れないでください。**

※　傷害事故の原因となります。

## 1.2.7 夜間作業の禁止について

**⚠危険**

**夜間作業は危険なので行わないでください。**

※ この田植機は、ライトを装着していますが、暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。

## 1.2.8 点検・整備

**⚠警告**

**取扱説明書に従って定期点検を実施してください。**

※ 田植機を長持ちさせるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。

**点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。**

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。**

※ 暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## ⚠警告

**点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキ（ブレーキペダルを踏み込みロック）をかけ、植付部を降ろすか植付部の油圧を「油圧ロック」位置にしてから行ってください。**

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

**点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。**

※ 間に合せの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良により傷害事故を引き起こします。

**エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。**

エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等の原因となります。

**ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。**

運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

**点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。**

※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。

## ⚠警告

**指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。**

※　守らないと、故障や事故の原因となります。

**点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。**

※　外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。

**傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。**

※　万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

## 1.2.9 格納・保管時は

### ⚠危険

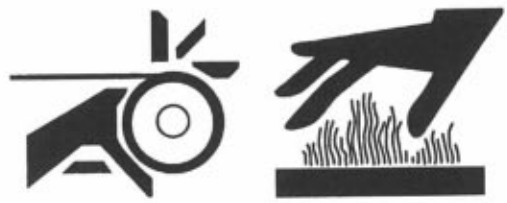
**燃料は必ず抜きとってください。**
(☞ 124ページ)
※ 怠ると、燃料が変質するばかりでなく引火等で火災の原因となります。

### ⚠警告

**作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。**
※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

**長期格納する場合は、バッテリーケーブルを外しておいてください。**
※ 外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となります。

**田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。**
※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると傷害事故を引き起こすおそれがあります。



# 1.3 電装関係を取り扱うときは

## 1.3.1 電気配線点検時の注意事項

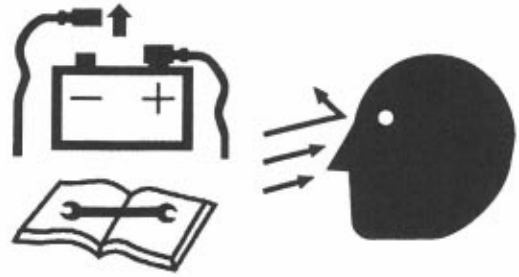
### ⚠警告

**電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。**

※ エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして、傷害事故の原因となります。

**接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリーの⊖コードを外して行ってください。**

※ これを怠ると、火花がとんだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。




**傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。**

※ 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあります。

**バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、取り除いてください。**

※ これを怠ると火災の原因となります。

## 1.3.2 バッテリー取り扱い時の注意事項

### ⚠危険

**ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行ってください。**

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。

**バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。**

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。

※ 失明や、やけどをするおそれがあります。
もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

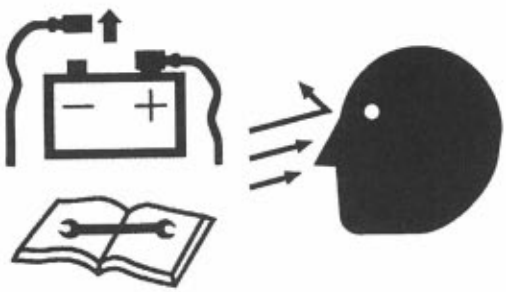
**バッテリーの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。**

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

### ⚠警告

**バッテリーコード（端子）を取り外すときは、⊖のコードを先に取り外してください。バッテリーコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けてください。**

※ 守らないと、ショートして火花がとぶおそれがあります。



## 1.3.3 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

**⚠警告**

**ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。**

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。**

※ 通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損するおそれがあります。

## 1.3.4 バッテリー液の注意事項

バッテリー液量の点検は作業前に必ず実施してください。

**⚠危険**

**バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電しないでください。**

※ バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

**バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けないでください。**

※ 容器内の各部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

**ハイドロメータの色が透明のとき、補充電をしてエンジンを始動させないでください。**

※ 引火爆発のおそれがあります。

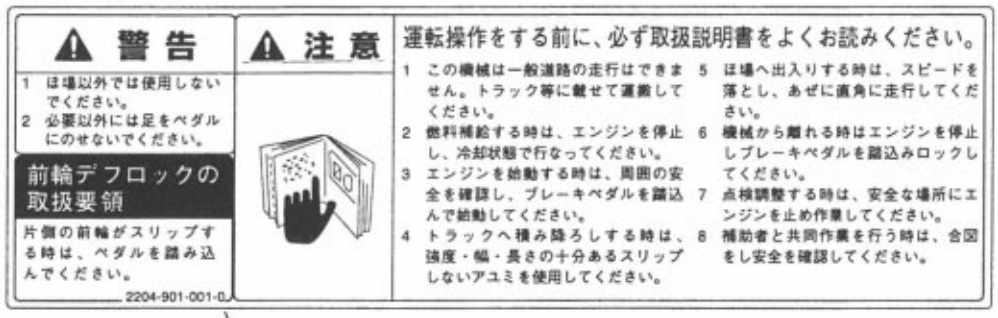
## 1.4 警告ラベルについて

- 本田植機には、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。警告ラベルは、お買い上げ先へご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルをお買い上げ先へご注文ください。
- ラベルには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

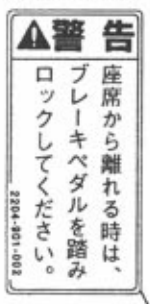
# 1.5 警告ラベル貼付位置

## 1.5.1 走行部

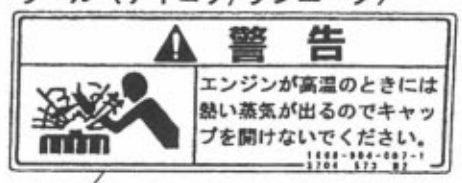
ラベル(チュウイ/ドライブ)
2204-901-001-0

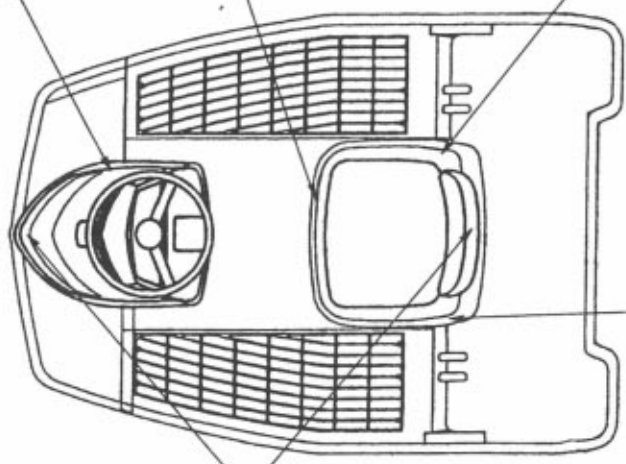



ラベル(ケイコク/ペダル)
2204-901-002




1668-904-007 (HG型)
ラベル (ケイコク/ラジエータ)

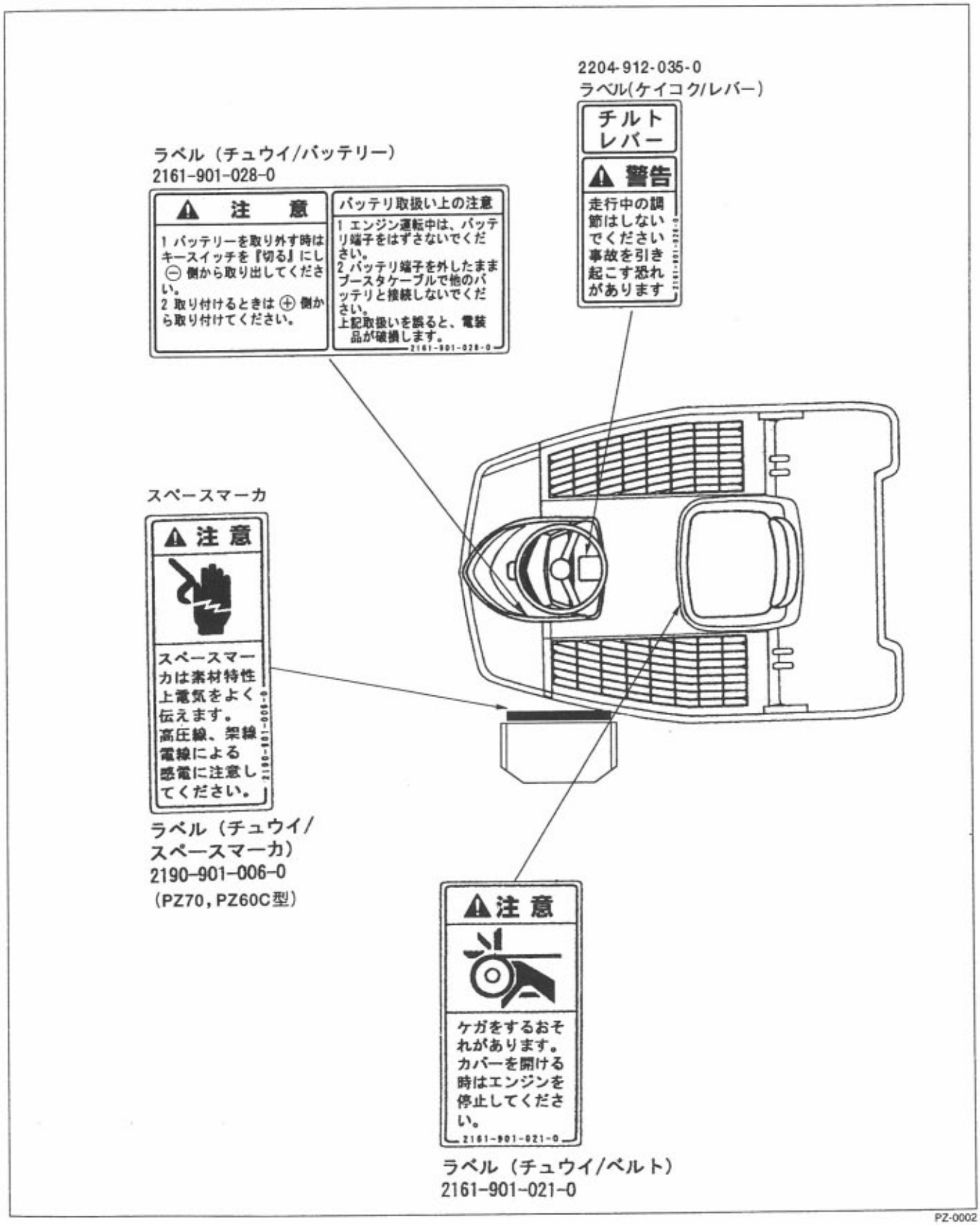


ラベル (ケイコク/マフラ)
1675-905-007-0

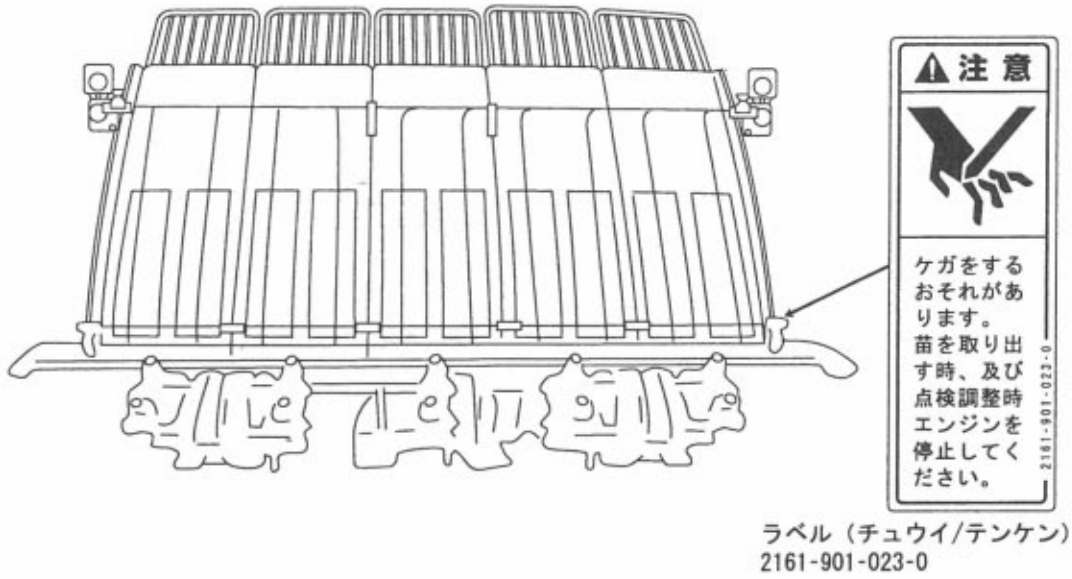
ラベル (キケン/カキゲンキン)
2161-901-038-0

PZ-000


2204-912-035-0
ラベル(ケイコク/レバー)
チルト
レバー
⚠ 警告
走行中の調節はしないでください事故を引き起こす恐れがあります
ラベル（チュウイ/バッテリー）
2161-901-028-0
⚠ 注 意
1 バッテリーを取り外す時はキースイッチを『切る』にし ⊖ 側から取り出してください。
2 取り付けるときは ⊕ 側から取り付けてください。
バッテリ取扱い上の注意
1 エンジン運転中は、バッテリ端子をはずさないでください。
2 バッテリ端子を外したままブースタケーブルで他のバッテリと接続しないでください。
上記取扱いを誤ると、電装品が破損します。
2161-901-028-0
スペースマーカ
⚠ 注 意
スペースマーカは素材特性上電気をよく伝えます。
高圧線、架線電線による感電に注意してください。
2190-901-006-0
ラベル（チュウイ/スペースマーカ）
2190-901-006-0
（PZ70，PZ60C型）
⚠ 注 意
ケガをするおそれがあります。
カバーを開ける時はエンジンを停止してください。
2161-901-021-0
ラベル（チュウイ/ベルト）
2161-901-021-0

PZ-0002

# 1.5.2 植付部




ラベル（チュウイ/テンケン）
2161-901-023-0

PZ-000

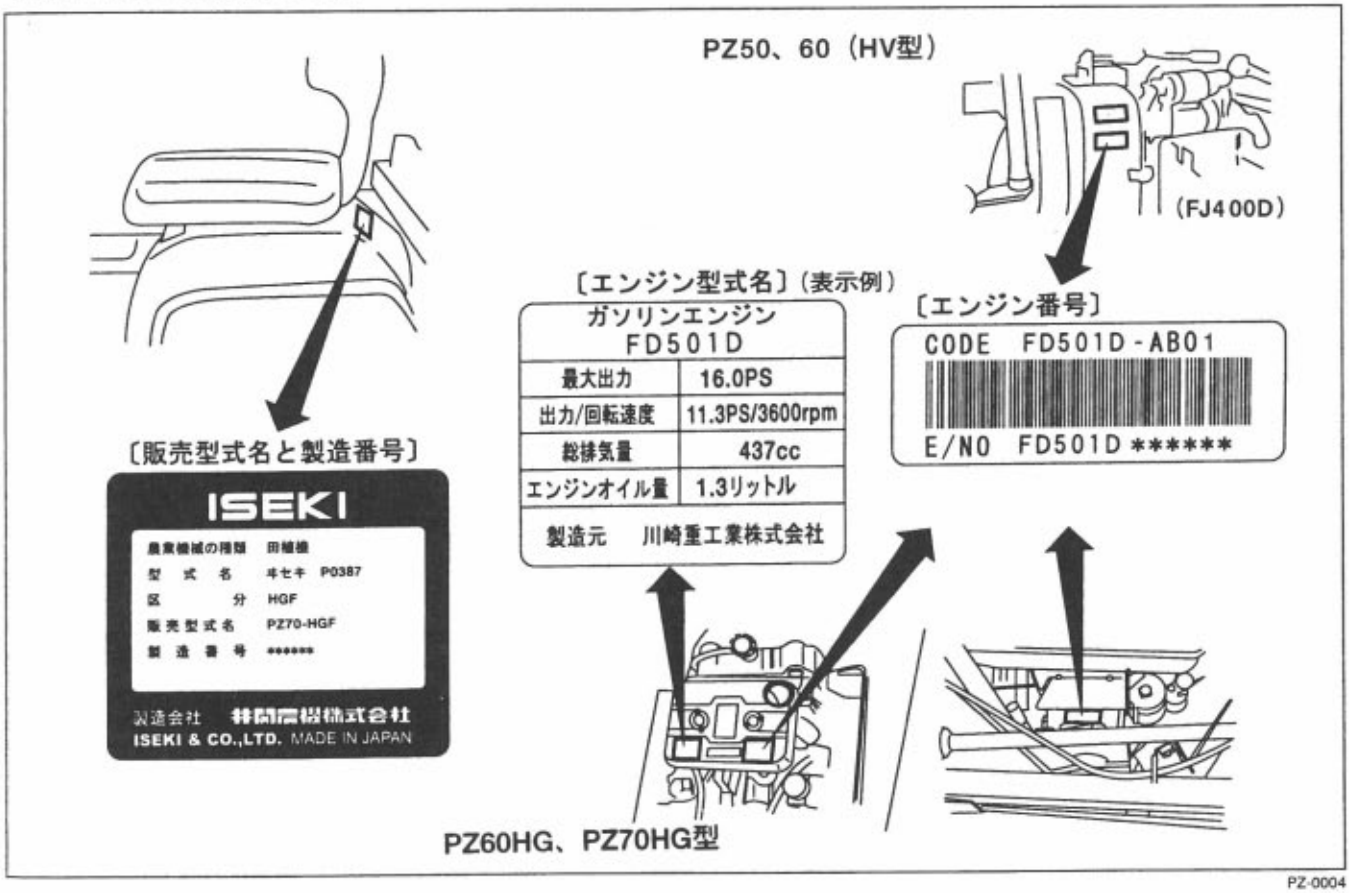
# 2. 保証とサービスについて

## 2.1 商品の保証

この商品には、イセキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

## 2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命はお買い上げ先へお気軽にご相談ください。
その際は、
(1) 販売型式名と製造番号
(2) エンジン型式とエンジン機関番号
をあわせてご連絡ください。



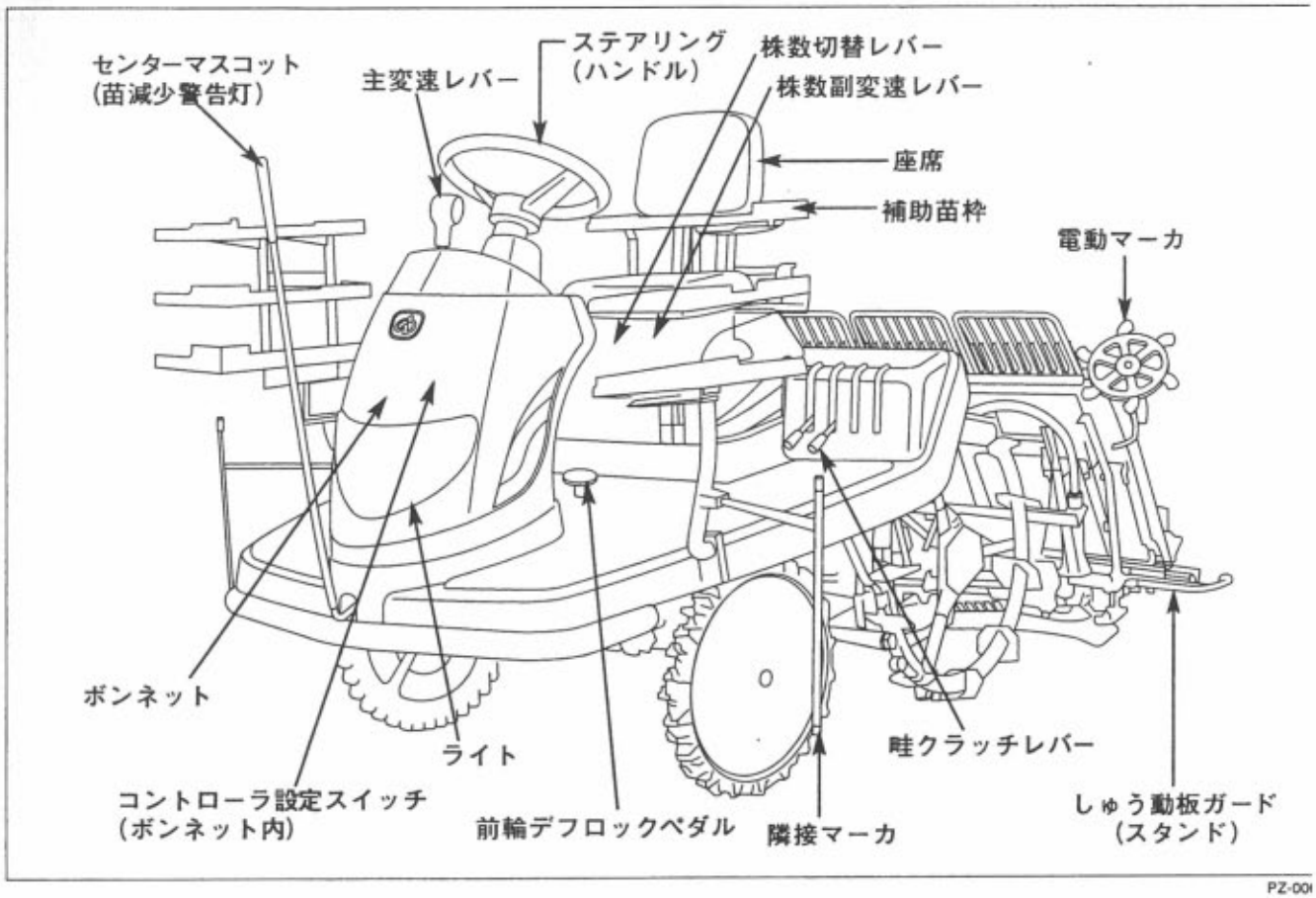

PZ-0004

## 2.3 補修用部品供給年限について

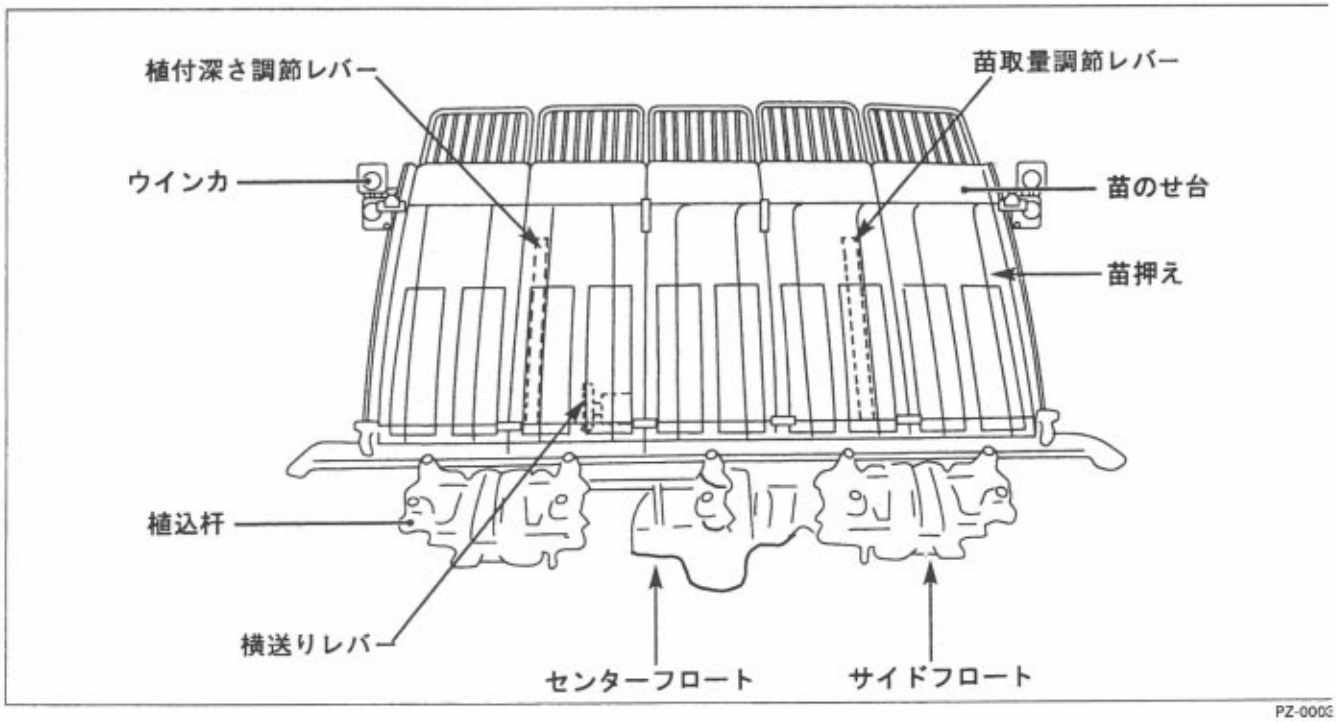
- この商品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後9年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

# 3. 各部の名称とはたらき

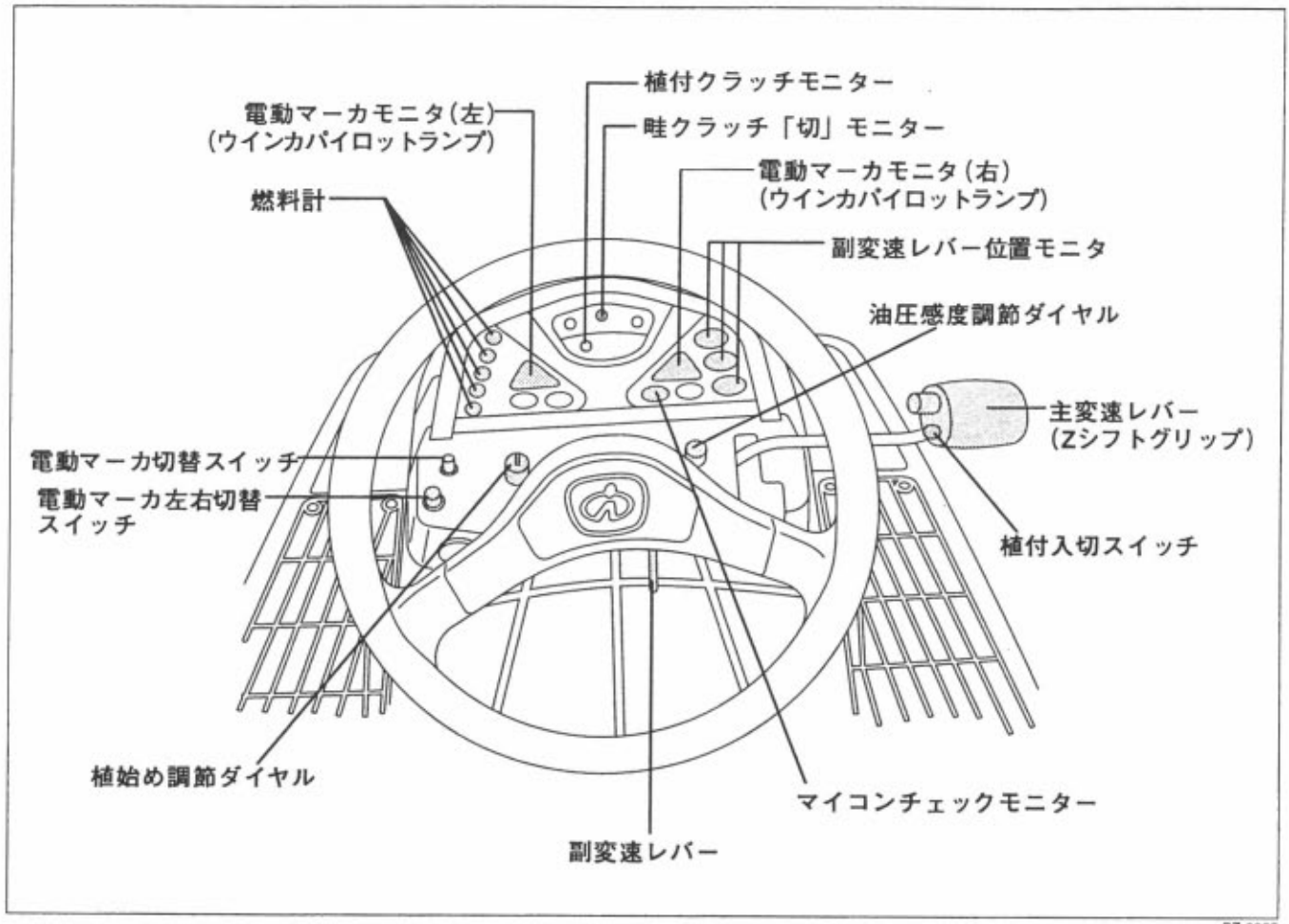
## 3.1 各部の名称



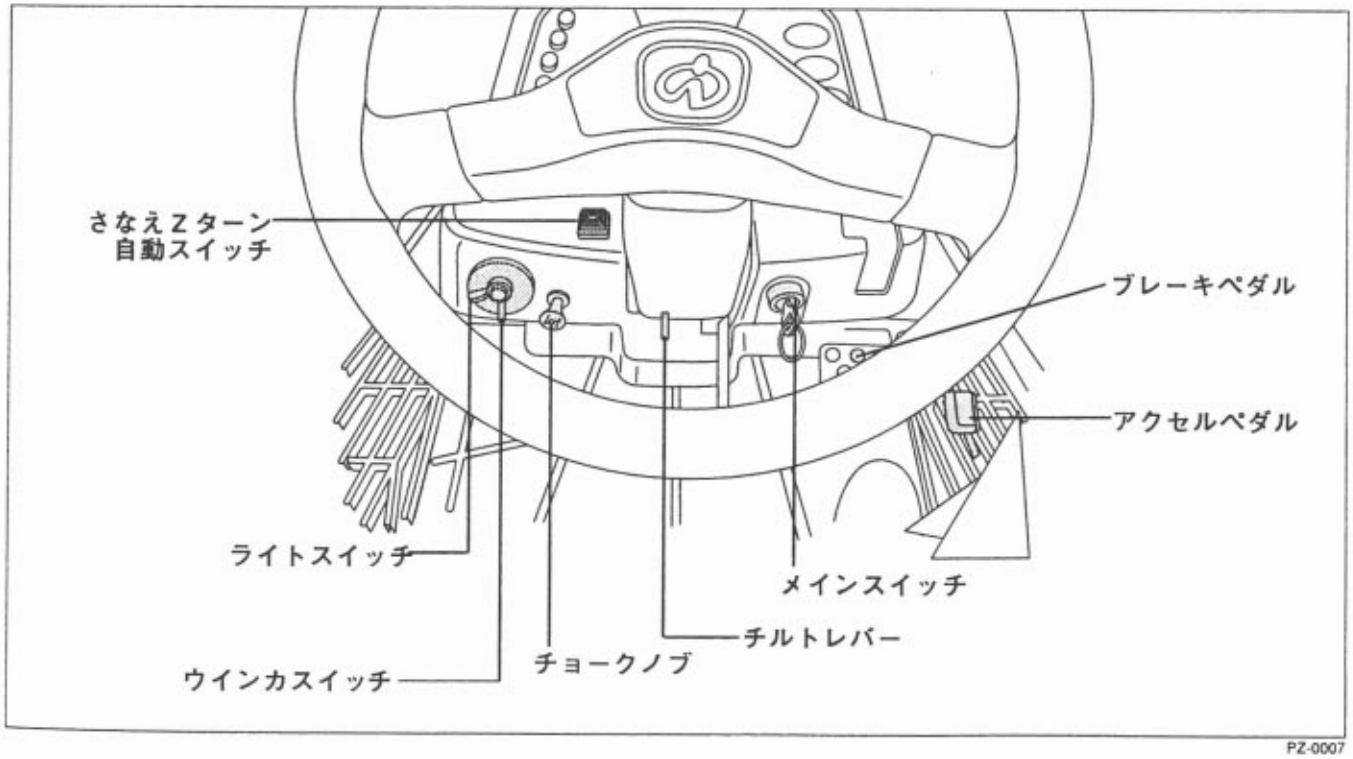

PZ-00




PZ-0003

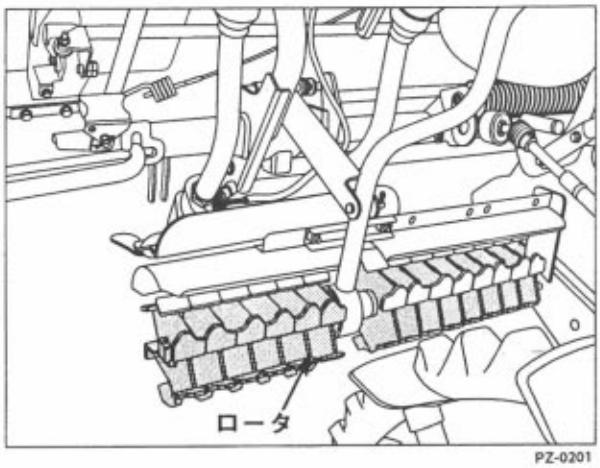



PZ-0006

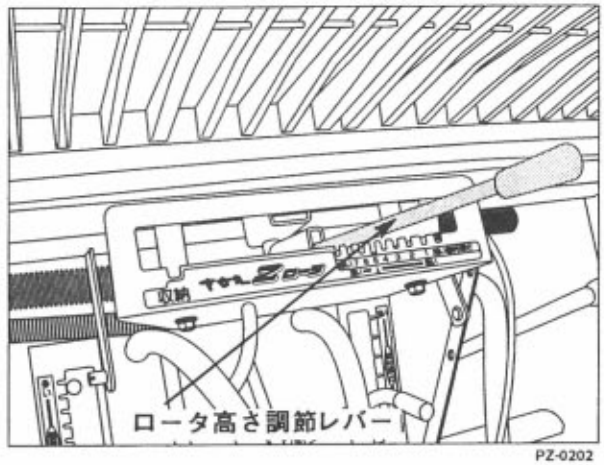



PZ-0007

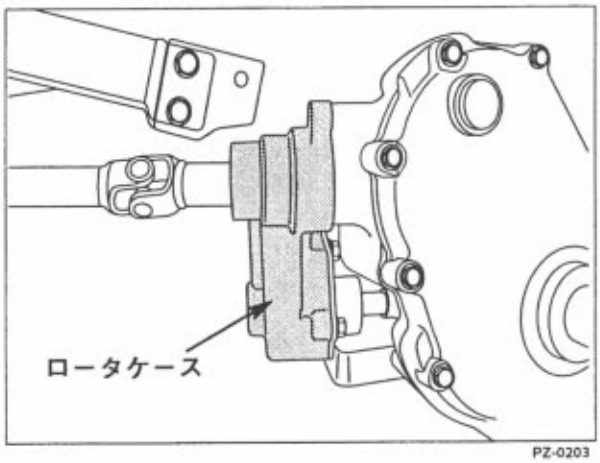
## ■ロータ



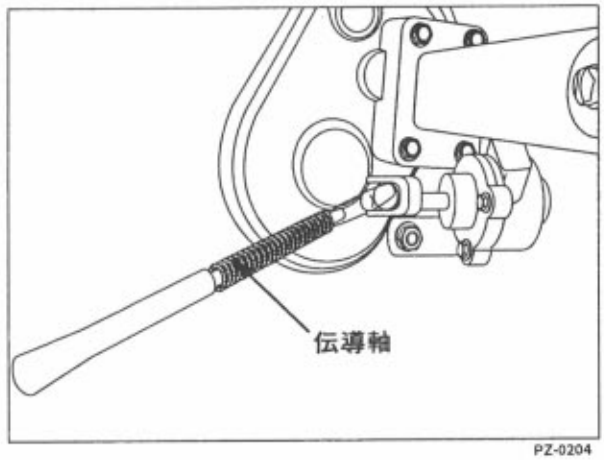

PZ-0201




PZ-0202




PZ-0203



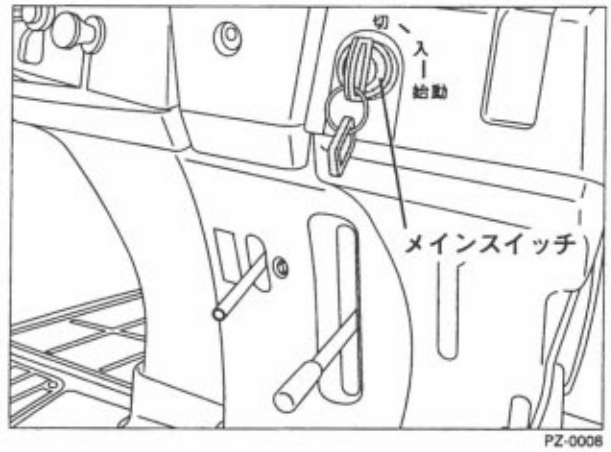

PZ-0204

# 3.2　計器およびスイッチのはたらき

## 3.2.1 スイッチのはたらき

### ■メインスイッチ

「切」……エンジンが停止します。
「入」……エンジンが回転中の位置です。
「始動」……ブレーキペダルをいっぱい踏み込んで、「始動」位置にするとエンジンが始動します。
手を離すと、「入」に戻ります。



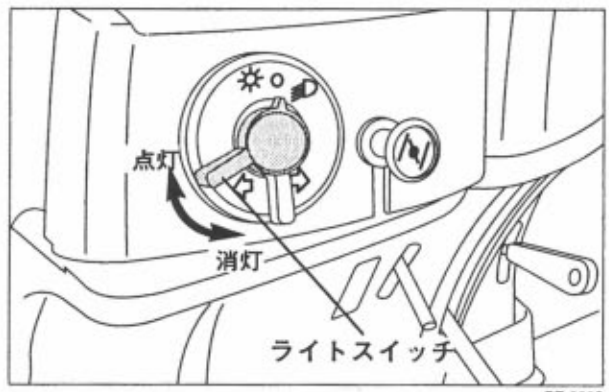
PZ-0008

**補足**

- **エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」位置にしないでください。**
- **メインスイッチの作動は1回10秒程度とし、始動しないときは30秒程度停止してから、再び操作を繰り返してください。**

### ■ライトスイッチ

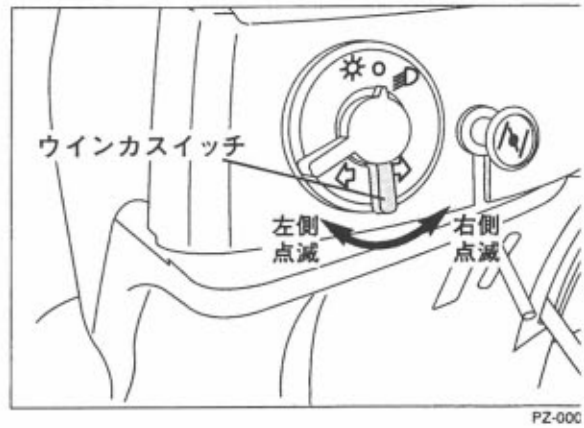
メインスイッチが「入」位置のとき、ライトスイッチを右方向に回すとライトが点灯します。



PZ-0009

## ■ウインカスイッチ

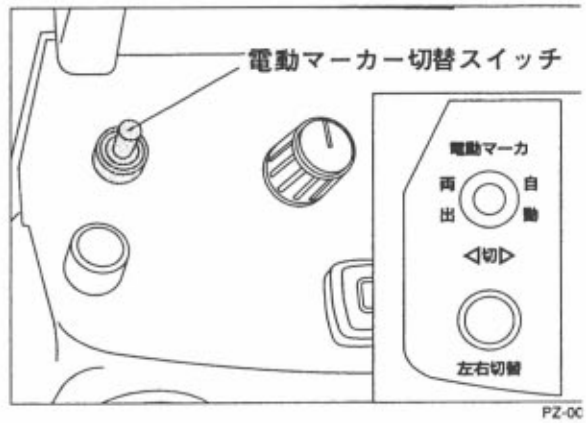
メインスイッチが「入」位置のとき、旋回する側の矢印方向にウインカスイッチを回してください。
ウインカとウインカパイロットランプが点滅し、旋回方向を知らせます。



PZ-000

## ■電動マーカ切替スイッチ

「自動」……電動マーカが交互に出るようになります。
電動マーカモニターランプが点灯している側のマーカが出ます。
「切」……電動マーカは出ません。
「両出し」……左右の電動マーカが同時に出るようになります。このとき、電動マーカモニターランプは左右とも点灯します。



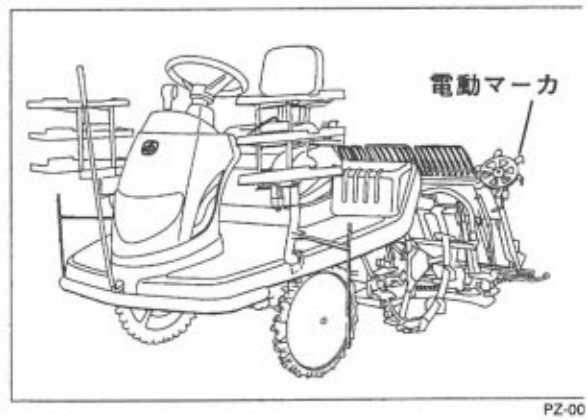
PZ-00

## ■電動マーカ

旋回操作に連動して、マーカの出る方向を自動的に切り替え、電動で収納、開放を行います。

**補足**

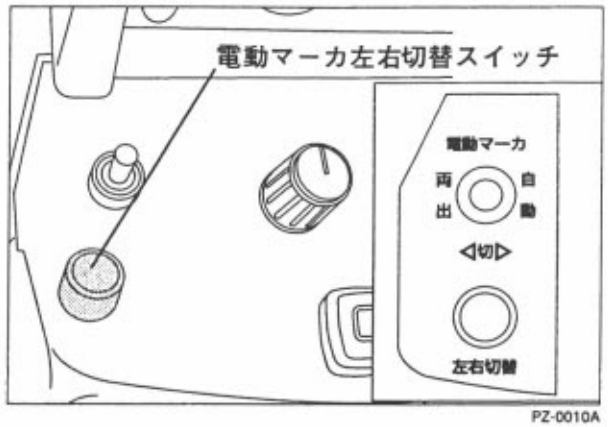
- **電動マーカ上昇時、障害物等で電動マーカが上がらないときは、モーターの保護機能がはたらき、モーターが停止します。**
  **保護機能がはたらいたときは、障害物を取り除いてください。また復帰には30秒程度時間がかかるため、この間電動マーカは作動しません。**



PZ-00

## ■電動マーカ左右切替スイッチ

植付部が「下」のとき、このスイッチを押すと電動マーカの出る方向が交互に入れ替わります。



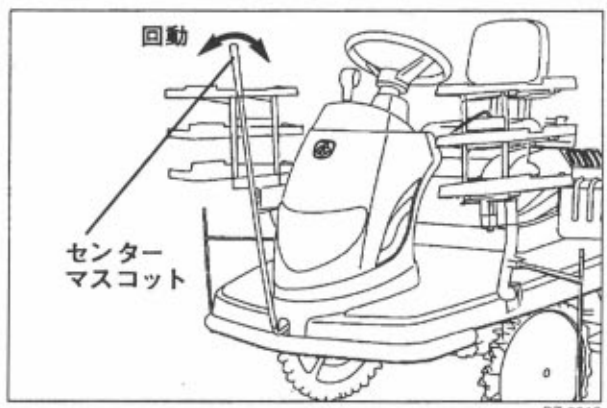
PZ-0010A

## ■センターマスコット（苗減少警告灯）

(1) 苗のせ台の苗が一定量までなくなると点滅します。
(2) 植付クラッチが「入っていない」のときは点滅しません。
(3) 電動マーカの引いた跡に合せて植付けると、適正な隣接条間が保てます。直進の目安になり楽に直進できます。

**補足**

- **センターマスコットは、前後に回動します。見やすい位置にセットしてください。**



PZ-0012

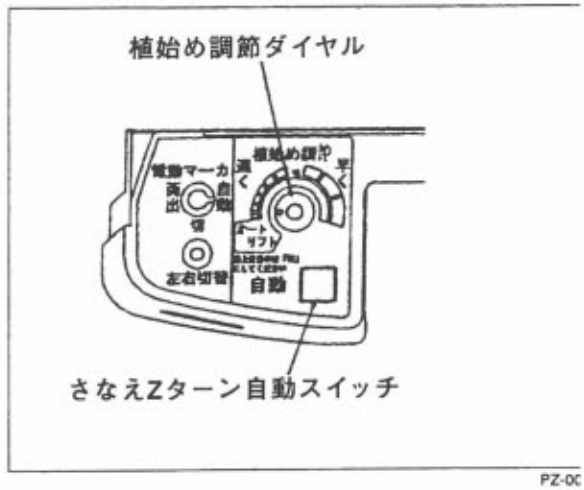
## ■さなえZターン

(1) さなえZターン自動スイッチを自動（ランプ点灯）にすると旋回時、ステアリング（ハンドル）をいっぱい回すことにより、植付が自動で「切」になり、植付部が自動で上昇します。

(2) 旋回が終わると、植付部が自動で下がり、植付位置まで進むと自動で植付クラッチが「入」になります。

**補足**

- **変形ほ場等で植始め位置が揃わない時は「切」で使用してください。**




PZ-0C

## ■植始め調節ダイヤル

さなえZターン自動スイッチ「入」時、旋回後、植付クラッチが「入」になるタイミングを調節するダイヤルです。

「早く」は、「植付入」タイミングを早くします。

「遅く」は、「植付入」タイミングを遅くします。

オートリフトの表示のある位置に合わすとステアリング（ハンドル）を切ると植付部が上昇する（オートリフト）のみ作動するようになります。

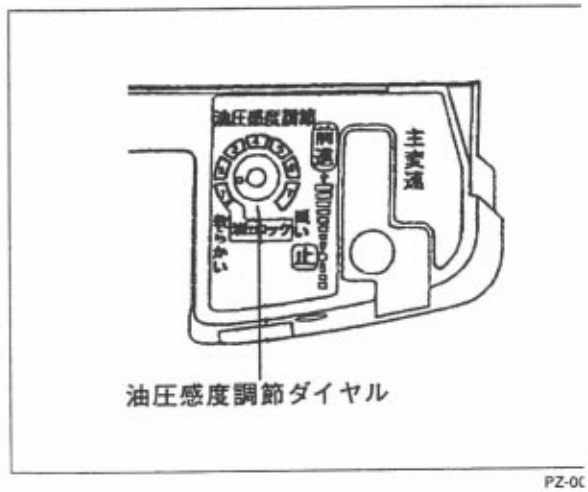
## ■油圧感度調節ダイヤル

ほ場の硬軟に応じて油圧感度を変更することができます。

油圧ロック位置にすると、植付部がロックされ昇降しません。又、バックリフトもしません。

**補足**

- **納屋に入れる時など、バックリフト（バックで自動的に植付部が上がる）を作動させたくない時は「油圧ロック」にしてください。**

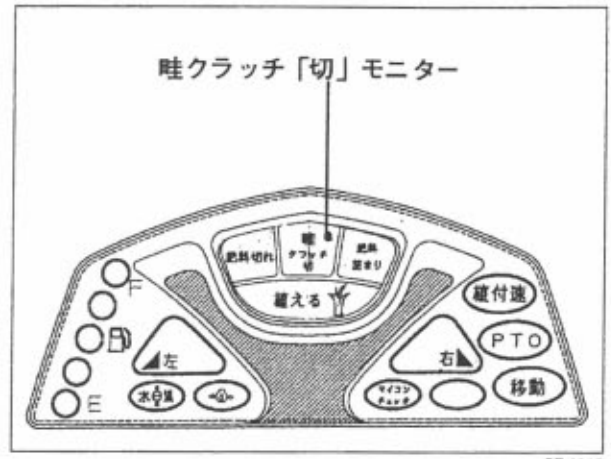



PZ-0C

# 3.2.2 計器のはたらき

## ■あぜクラッチ「切」モニター

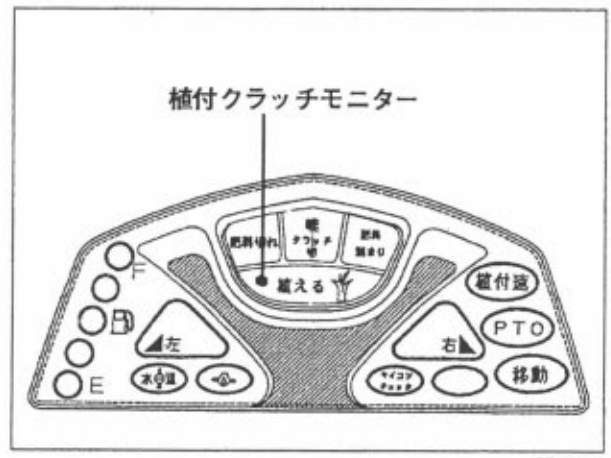
畦クラッチレバーが「切」位置のときに点滅します。




PZ-0015

## ■植付クラッチモニター

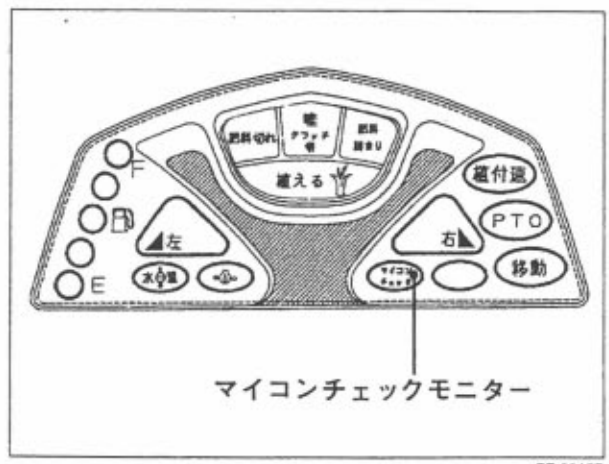
(1) 植付入切スイッチで、植付を「入」にすると点灯します。




PZ-0015A

## ■マイコンチェックモニター

(1) 各センサーの回路が断線したときには点灯します。

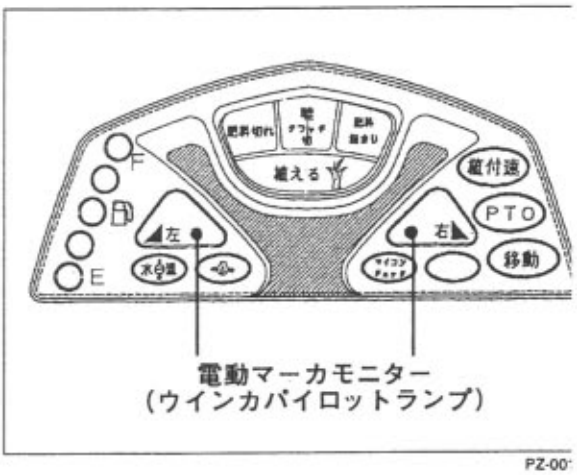



PZ-0015B

## ■電動マーカモニター（ウインカパイロットランプ）

モニターランプが点灯している側の電動マーカが出ます。
（ウインカ点滅と同時に点滅します。）

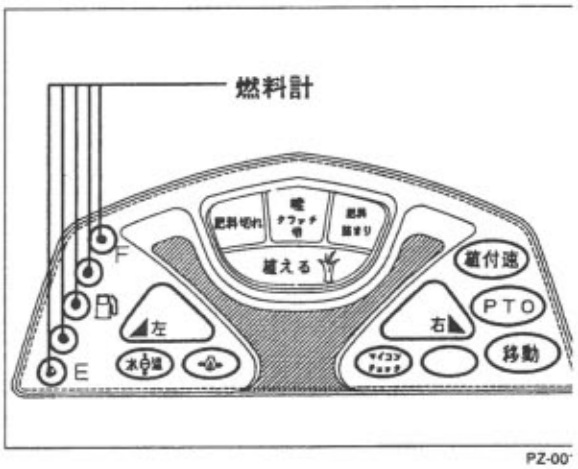
1）電動マーカ切替スイッチ「自動」又は、「両出」の時、モニターランプが点灯している側の電動マーカが出ます。
2）電動マーカ切替スイッチ「切」の時、ウインカースイッチを操作すると、ウインカー点滅と同時に点滅します。




PZ-00

## ■燃料計

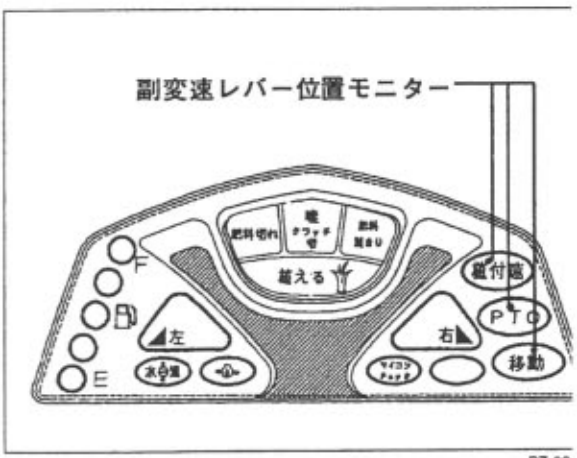
ランプの点灯数でガソリンの残り量を表示します。
5つ点灯……燃料満量
3つ点灯……燃料1/2残量
1つ点滅……燃料空（早めに補給してください。）




PZ-00

## ■副変速レバー位置モニタ

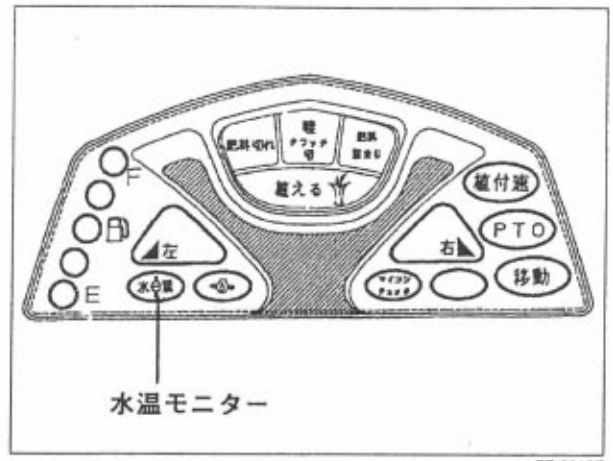
副変速レバーの変速位置を点灯表示します。




PZ-00

## ■水温モニタ（HG型のみ）

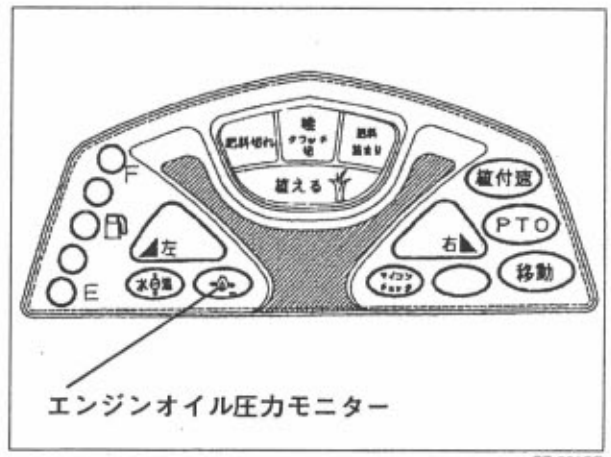
ラジエータ冷却水の温度が高くなると点灯します。
点灯したままのときは、ラジエータ水量のチェック、冷却ファンの点検、防虫アミの点検清掃などを行ってください。




PZ-0015F

## ■エンジンオイル圧力モニタ（HG型のみ）

エンジン回転中、オイル潤滑系統が異常のとき点灯します。点灯したままのときは、エンジンオイル量およびオイル潤滑系統を点検してください。




PZ-0015G

# 3.3　レバー、ペダル、シート関係の取り扱い

## 3.3.1　主変速レバー

### ⚠警告

**田植機から離れるときや点検のときは、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキ（ブレーキペダルを踏込んでロック）をかけ、メインスイッチのキーを抜いておいてください。**
※　守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

**苗を補給するときは、ブレーキペダルをロックしてください。**
※　守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

**発進・停止時急激な操作をしないでください。**
※　守らないと、急に動き出し、傷害事故を引き起こす原因となります。

### 注意

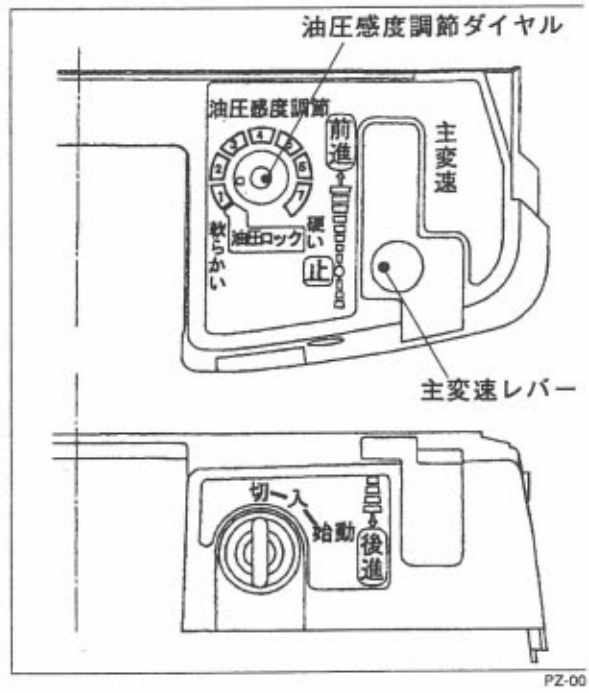
**主変速レバーは、ブレーキペダルを踏むと「止」位置に戻り固定されますのでブレーキペダルを踏み込んだままで主変速レバーを作動させないでください。**
※　無理に作動させると主変速レバー、ブレーキの損傷につながります。

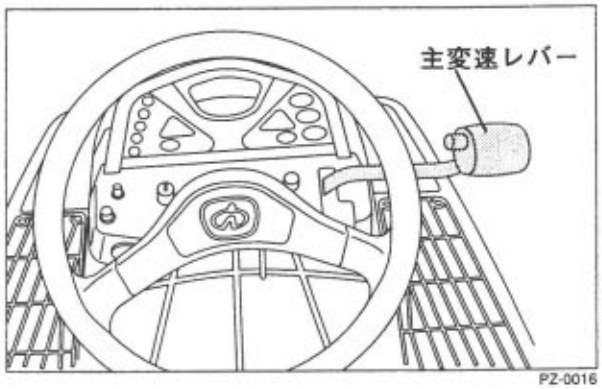
(1)　前進、後進および車速を無段変速できるレバーです。
(2)　「後進」位置にすると植付部が上昇します。

**補　足**

- **油圧感度調節ダイヤルが「油圧ロック」位置の時には植付部は上昇しません。**

(3)　前進、後進操作すると、連動してエンジン回転数が変化します。

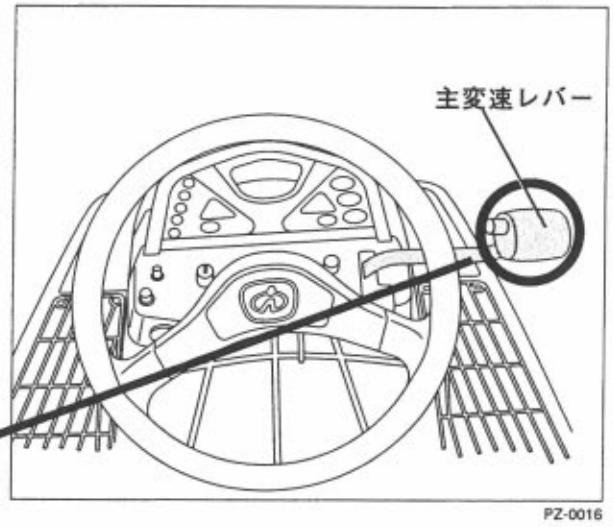


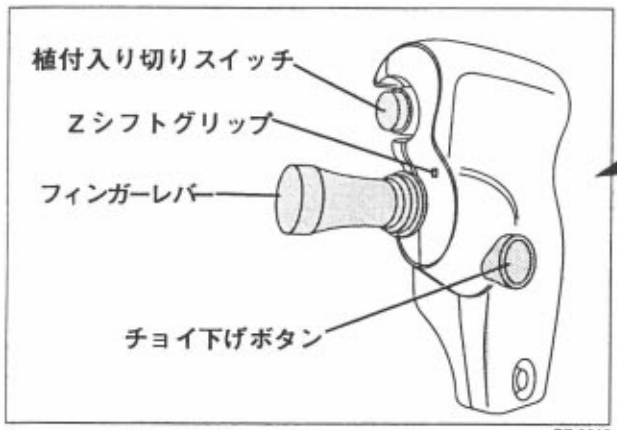
# 3.3.2 Zシフトグリップ（主変速レバーに付いているグリップ）

このレバーは握ったまま次の3つの操作をおこなえます。

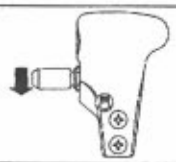
(1) 前後に操作することで前進、後進操作がおこなえます。
(2) 植付部の上昇、下降操作がおこなえます。
(3) 植付クラッチの「入り」「切り」操作がおこなえます。



PZ-0016



PZ-0018

| 操　作 | はたらき | |
|---|---|---|
| フィンガーレバー | 植付部 | |
| | 上昇しているとき | 上昇停止 |
| | 停止しているとき | 上昇する |
| | 下降しているとき | |
| | 植え付けているとき | 植付が切れて上昇する |
|  | 上昇しているとき | 下降する |
| | 停止しているとき | |
| | 下降しているとき | 下降のまま |

| 操　作 | はたらき | |
|---|---|---|
| チョイ下げボタン | 植付部 | |
| | 停止しているとき | 押している間だけ下降する |
| | 下降しているとき | 下降のまま |
| 植付入り切りスイッチ | | |
| | 押すたびに植付クラッチ「入り」「切り」を切り替えることができます | |

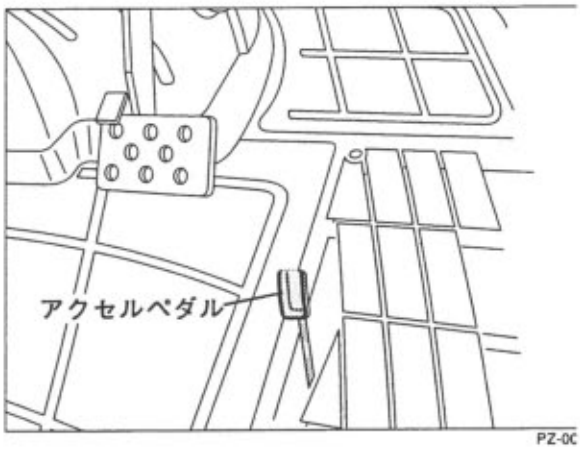
**補　足**

- **エンジンがかかっていないと植付部は下がりません。**
  **植付部を下げるには、エンジンをかけ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置から解除し、フィンガーレバーを操作し下げにしてください。**

## 3.3.3 アクセルペダル

### ■アクセルペダル

ペダルを踏み込むとエンジン回転が上がります。
主変速レバー操作に連動し、エンジン回転数は増減する機構（オートアクセル）ですが、任意にエンジン回転を上げる時に、ペダルを踏み込むとエンジン回転数を上げることができます。




PZ-0C

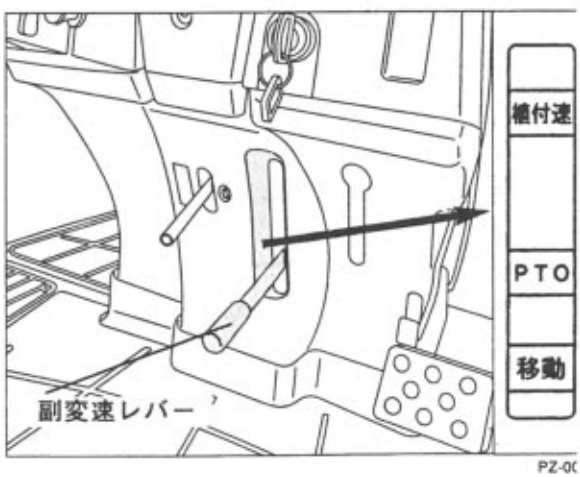
## 3.3.4 副変速レバー

**⚠警告**

**坂道では決して、副変速レバーを「PTO」にしないでください。**
※　守らないと、田植機が自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**副変速レバーは、ブレーキペダルを踏み、田植機が完全に停止してから操作してください。**
※　走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

(1)　移動、PTO、植付速と変速するレバーです。



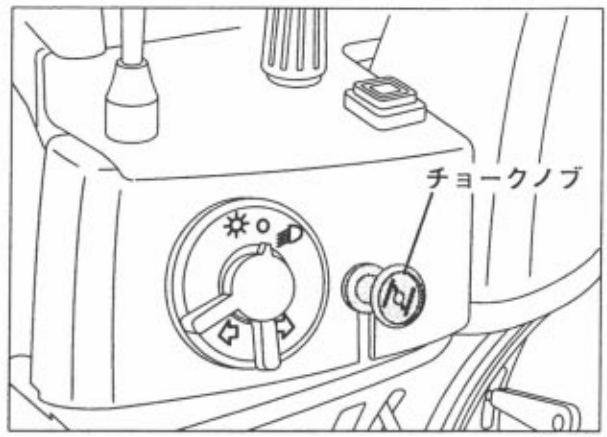

PZ-0C

## 3.3.5 チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。

**補　足**

- **始動時以外は、使用しないでください。**



PZ-0009B

## 3.3.6 ブレーキペダル

**⚠警告**

**座席から離れて作業する場合は、ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、ロックしてください。**

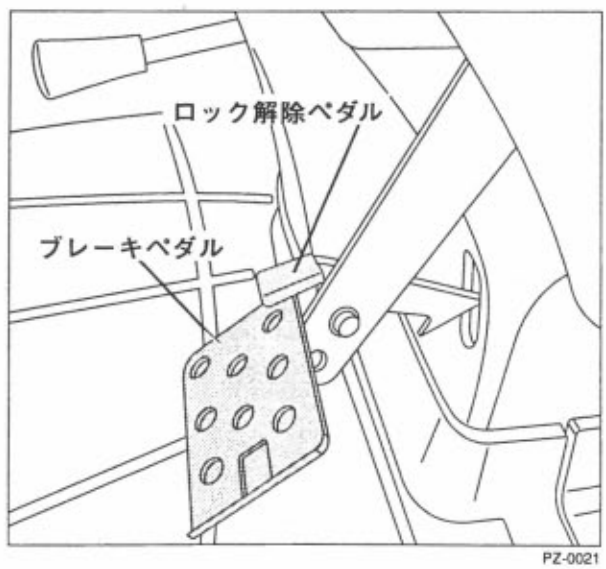
※　守らないと、田植機が自然に動き出すおそれがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

(1) ブレーキペダルを踏み込むと機体が停止し（主変速レバーが「止」位置に連動して移動します）同時に4つの車輪に駐車ブレーキがかかります。

(2) ロック解除ペダルを踏まずにブレーキペダルのみをいっぱい踏み込むと、その状態でロックされます。ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、足を離すとブレーキペダルが上がります。

**補　足**

- **エンジン始動時は踏み込まないとエンジンが始動しません。**
- **ブレーキペダルを踏み込んでいる時は主変速レバーは固定されており動きません。**



PZ-0021

## 3.3.7　ロック解除ペダル

(1)　ブレーキペダルのロックを解除させるペダルです。

(2)　ブレーキペダルを踏み込む時、ブレーキペダルをロックさせたくないときは、ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏んでください。

## 3.3.8　前輪デフロックペダル

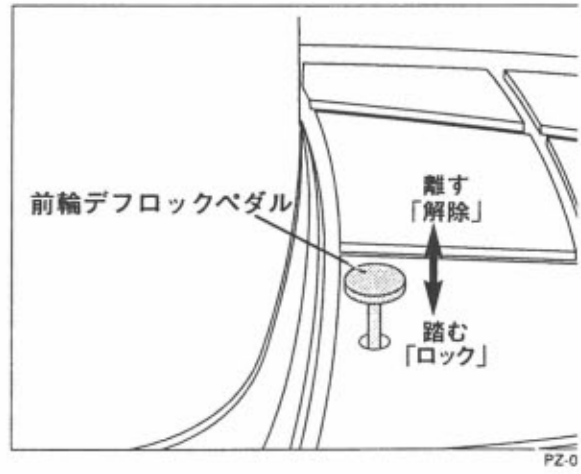
**⚠警告**

**田植作業以外のときは、必ず前輪デフロックペダルが解除してあるか確認してください。**

※　守らないと、衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。

(1)　ペダルを踏み込むと左右前輪の回転が同じになります。

(2)　あぜごえ時や旋回時に前輪がスリップする場合に使用します。

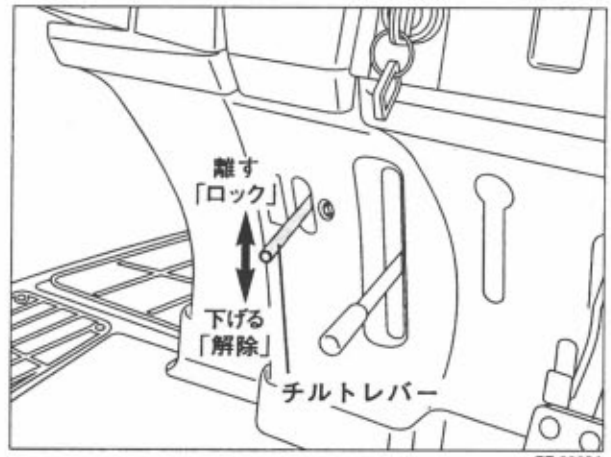


## 3.3.9 チルトレバー

**⚠警告**

**チルトレバーの調節は停止中に行い、走行中は調節しないでください。**
※ 走行中に調節すると正常な運転ができなくなり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

(1) ステアリング角度を変更するときに使用するレバーです。
(2) ステアリング角度は3段階選べます。



PZ-0008A

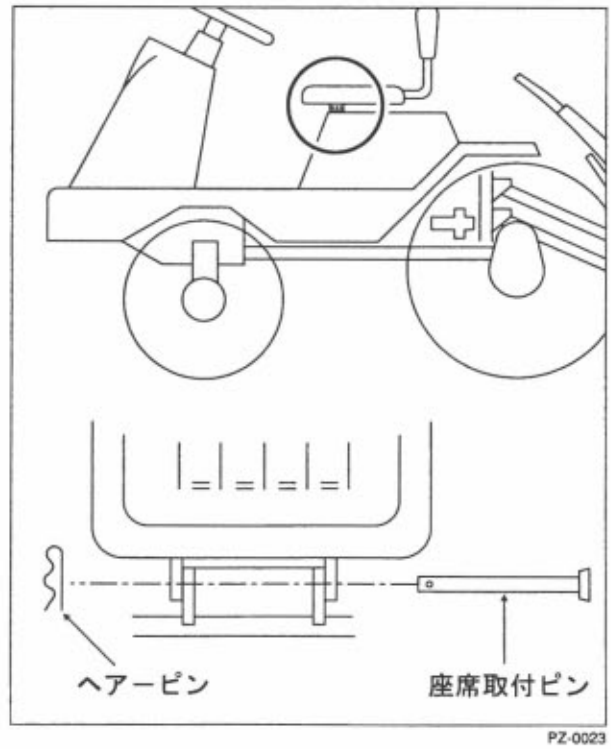
下記の要領で作業しやすい位置に調節してください。

**1** チルトレバーを下げたままステアリング（ハンドル）を前後に動かして、運転しやすい位置にステアリング（ハンドル）を合せます。

**2** チルトレバーから手を放し、ステアリング（ハンドル）を少し前後に動かすとステアリング（ハンドル）が固定されます。

## 3.3.10 座席の調節

作業しやすい位置になるように、座席のピン差し込み位置を変更してください。



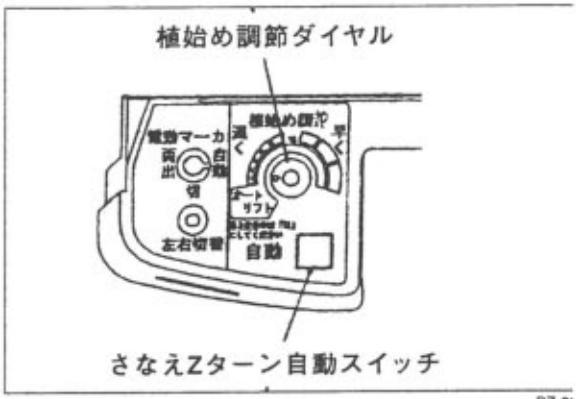
PZ-0023

## 3.3.11　さなえZターン自動スイッチ

ステアリング（ハンドル）を回し、旋回するだけで、自動で植付部を「上げ」「下げ」し、植付スタート位置まで進むと、自動で植付クラッチを「入」にするスイッチです。

**補　足**

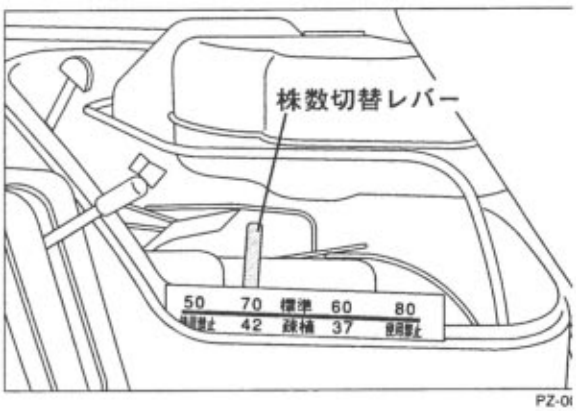
- **さなえZターンが作動しないときは、スイッチを「入」にしても点滅します。**




PZ-0

## 3.3.12　株数切替レバー

(1)　植付株数の切り替えをするレバーです。
(2)　レバーの前後操作により植付株数が変わります。



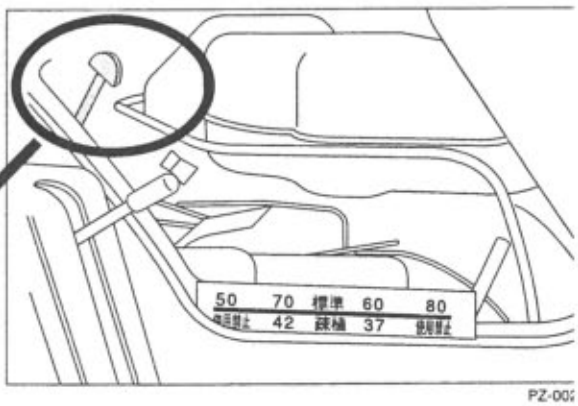

PZ-0

## 3.3.13　株数副変速レバー

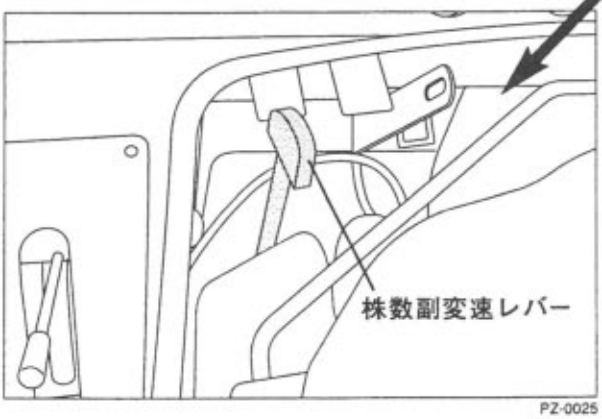
(1)　植付株数の切り替えをするレバーです。
(2)　レバーを回すことにより植付株数が変わります。

**補　足**

- **希望の植付株数になるように、株数切替レバーおよび株数副変速レバーを、表示ラベルの株数の位置に合せてください。**




PZ-002



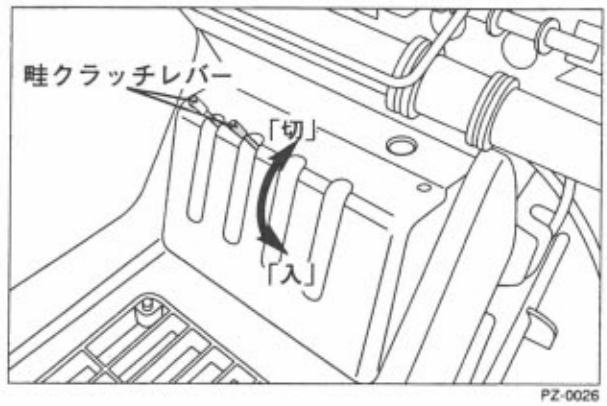

PZ-0025

(6条HG型以外)

(6条HG型のみ)

## 3.3.14　畦クラッチレバー

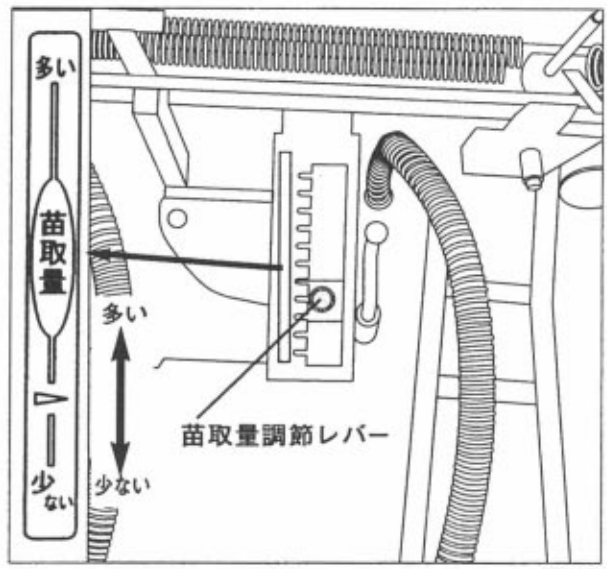
(1) 2条ごと（5条植は中央の1条、7条植は左から5条めの1条）の植付を停止させるレバーです。
(2) 植えじまいの植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。
(3) レバーが「切」状態の場合、畦クラッチ「切」モニターが点滅します。



PZ-0026

## 3.3.15　苗取量調節レバー

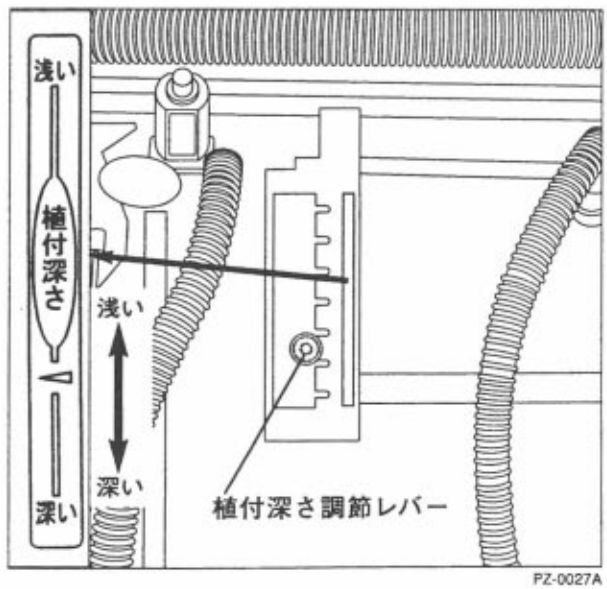
(1) 全条の苗取量を一度に調節するレバーです。
(2) レバーを上の溝にセットすると苗取量は多くなり、下の溝にセットすると苗取量は少なくなります。



PZ-0027

## 3.3.16　植付深さ調節レバー

(1) 植付深さを調節するレバーです。
(2) レバーを上の溝にセットすると浅植えとなり、下の溝にセットすると深植えとなります。



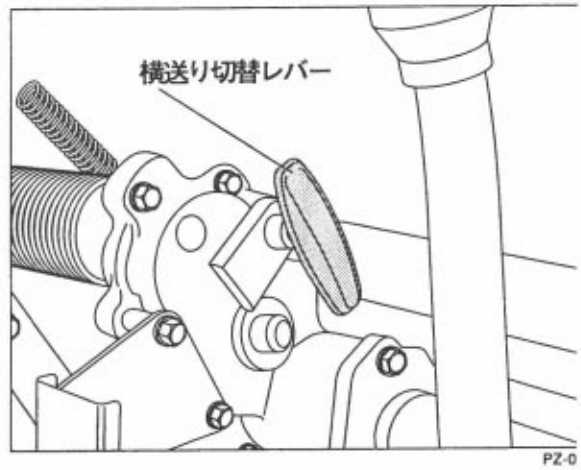
PZ-0027A

## 3.3.17　横送りレバー

**⚠注意**

**切り替えはエンジンを停止して行ってください。**
※　守らないと、作業機を破損したり、傷害事故の原因となります。

横送り量の切り替えを行うレバーです。

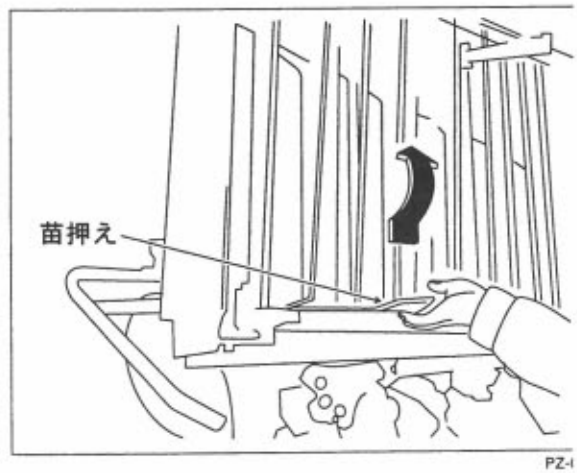



## 3.3.18　苗押え

**⚠注意**

**苗の取り出しは、エンジンを停止して行ってください。**
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

残り苗を取り出すときに、苗押えを上に引き抜き上側に回すと苗が取り出しやすくなります。



## 3.3.19 苗ストッパ

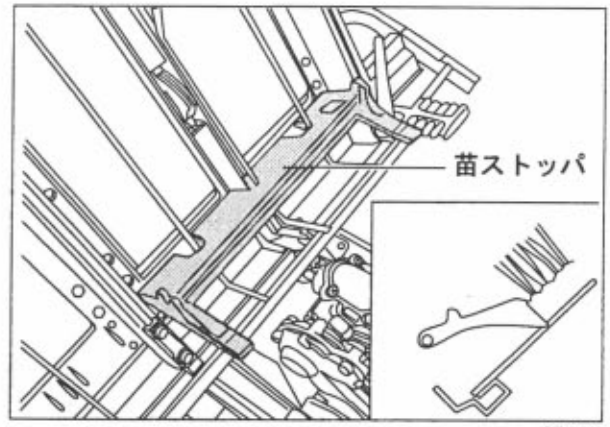
**注意**

**苗ストッパを使用した後は、必ずもとの位置に戻してください。**

(1) 1条ごとに植付を停止したいときに使用します。畦クラッチレバーと組み合せて使用してください。

**補足**

- **苗ストッパは苗のせ台の右端に収納します。**



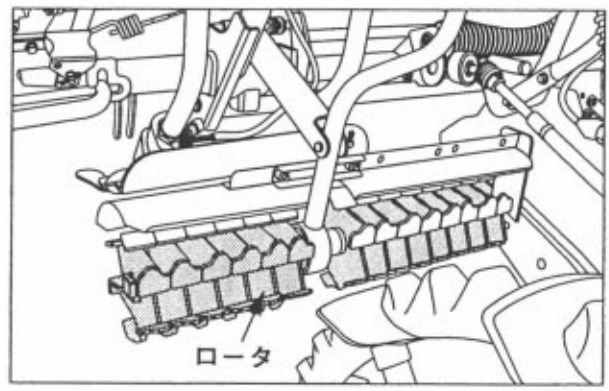
PZ-0030

## 3.3.20 ロータ

・植付けをすると同時に田面をならし均一にします。

**補足**

- **ロータは後車輪に連動していますので、走行すると回転します。**
- **ロータ駆動は植付部の昇降と連動してクラッチの「入」「切」をします。**
  **フロート底面高さ約40cm以下でロータが回転します。**



PZ-0201

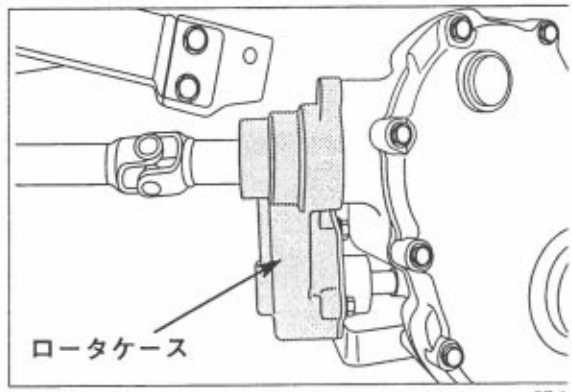
## 3.3.21 ロータ高さ調節レバー

・ロータの入り切りと、ロータの高さを調節するときに使います。
ロータを停止したい場合には、レバーを「収納」位置にしてください。

PZ-0202

## 3.3.22　ロータケース

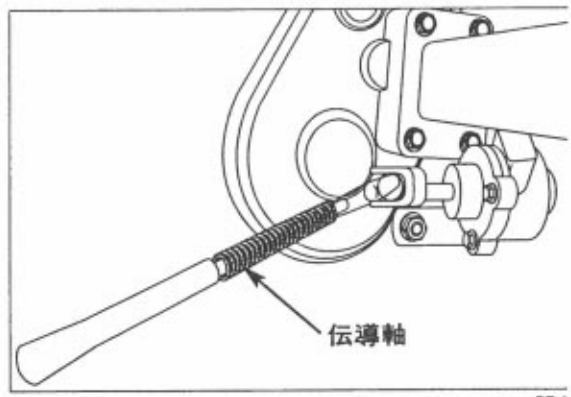
・後輪伝導軸から分岐してロータを回転させます。
　この中にクラッチ「入」「切」機構が入っています。




PZ-0

## 3.3.23　伝動軸

・後輪軸からの回転をロータに伝えます。




PZ-0

# 4. 作業前点検

**故障を未然に防ぐには、田植機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。**
**始業点検は毎日欠かさず行ってください。**

## ⚠危険

**給油、注油および点検整備は、エンジン等の過熱部分が十分冷えてから行ってください。**
※　守らないと、やけど等の原因となります。

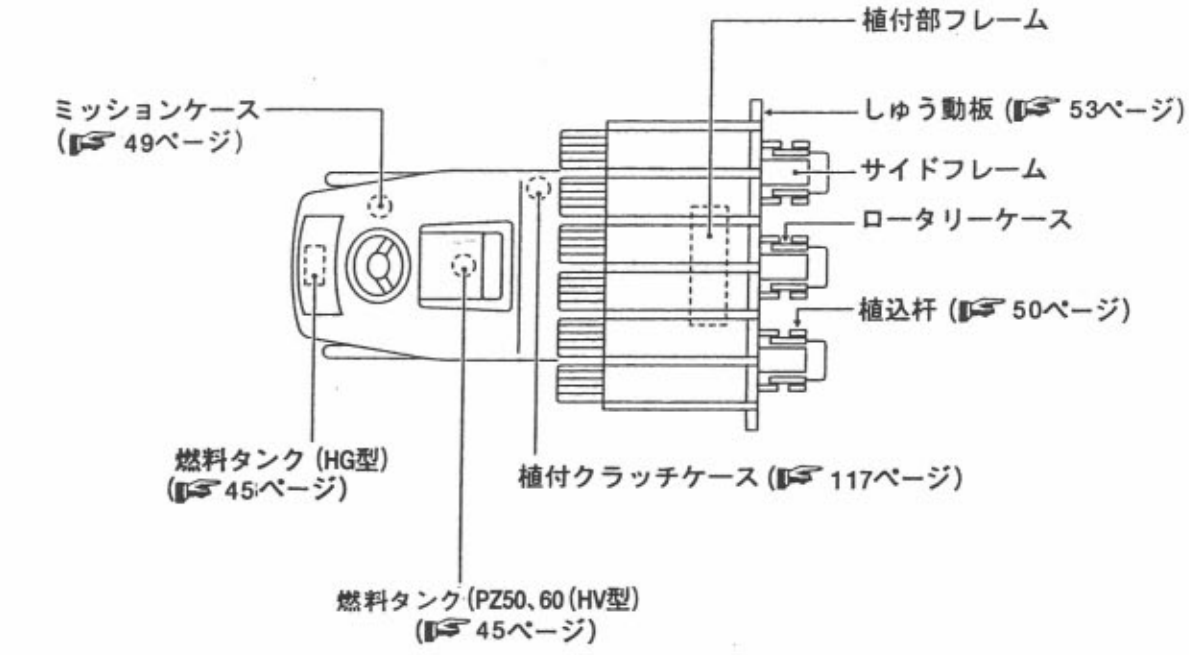
**給油、注油および点検整備するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。**
※　守らないと、火災の原因となります。

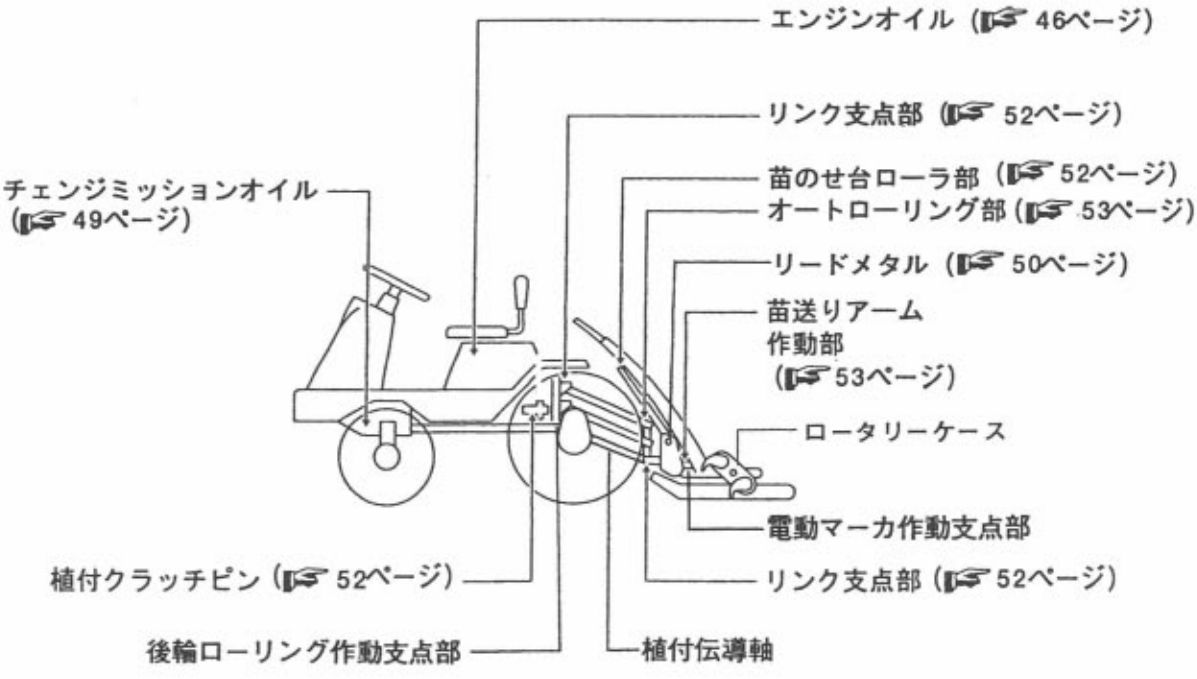
## ⚠警告

**給油、注油および点検整備するときは、田植機を平たんな広い場所に置いてください。**
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**給油、注油および点検整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキ（ブレーキペダルを踏込んでロック）をかけ、植付部を降ろすか、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にし植付部の油圧を固定してから行ってください。**
※　守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

# 4.1 給油、注油箇所の点検と補給




PZ-

# 4.1.1 燃料

**⚠危険**

**燃料を補給するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

**燃料を補給するときは、エンジンを停止し過熱部分が十分冷えてから行ってください。**
※ 燃料のつぎこぼし等により、火災の原因となります。

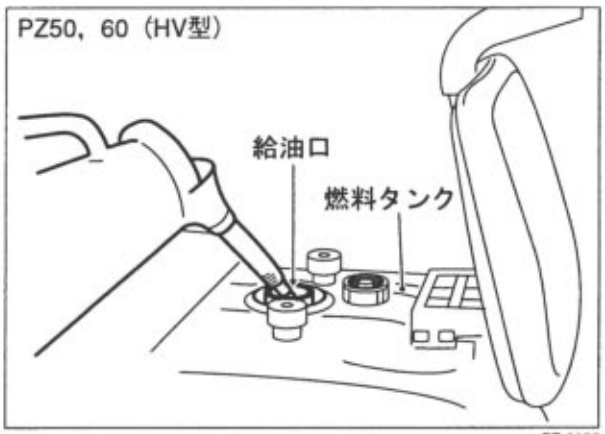
**燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。**
※ こぼしたままエンジンを始動すると引火し、火災の原因となります。

タンクキャップを開け、給油口より給油してください。
燃料は、自動車用無鉛ガソリンを使用してください。

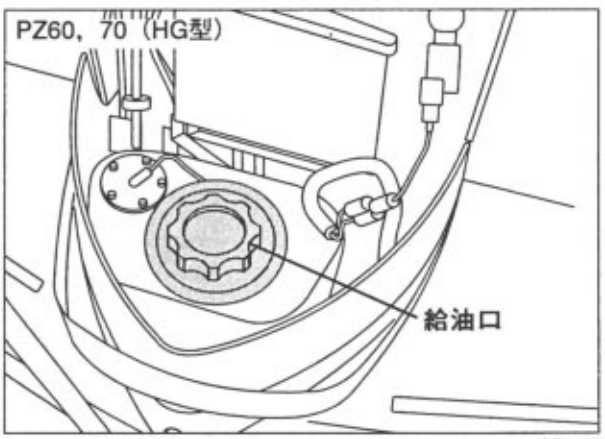
**補 足**

- **燃料タンクの容量は133～135ページを参照してください。**

給油後はタンクキャップを閉めてください。



PZ-0032



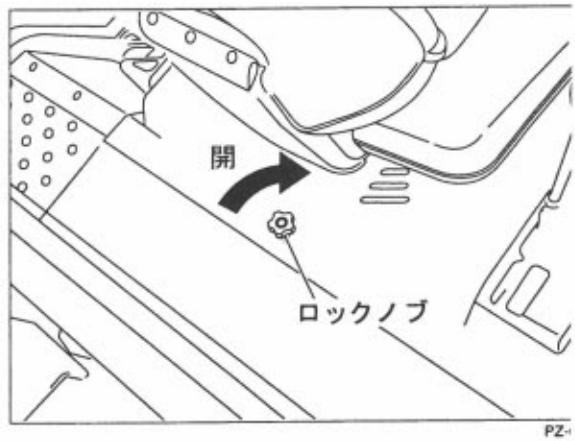
PZ-0033

## 4.1.2 エンジンオイル

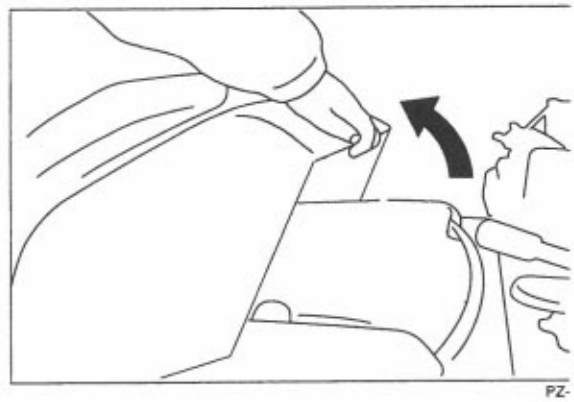
**⚠注意**

**エンジンオイルの点検・補給は、必ずメインスイッチを「切」にしてエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。**
※ これを怠ると、やけどをするおそれがあります。

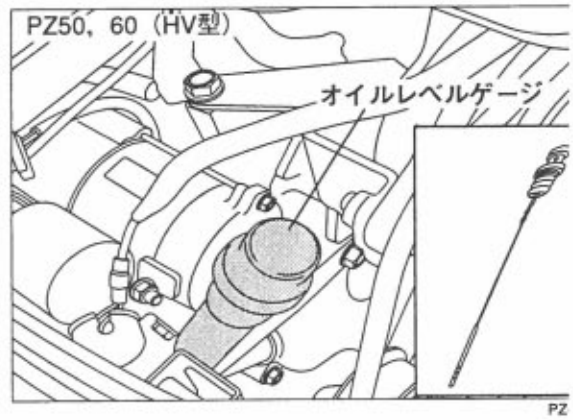
**1** ロックノブを回してください。




**2** エンジンカバーを開けてください。

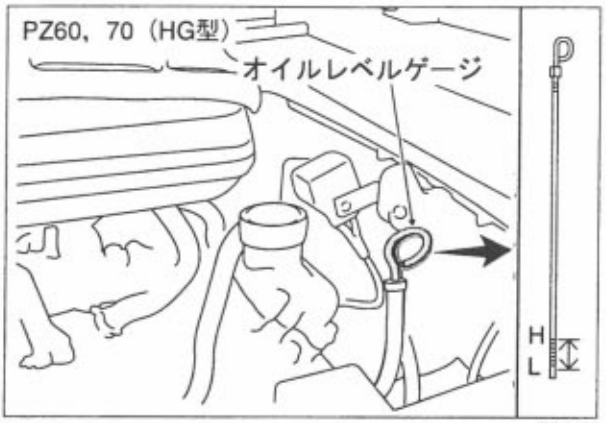


**3** オイルレベルゲージの上下刻線の間に油量があるか調べます。



**4** 「下限」以下の場合はヰセキ純正オイル10W30#または30#、SE級以上を補給してください。

| 機種 | 搭載エンジン | オイル量 |
|---|---|---|
| PZ50<br>PZ60HV型 | FJ400D | 1.1ℓ<br>（オイルフィルタ交換時1.3ℓ） |
| PZ60HG型<br>PZ70HG型 | FD501D | 1.2ℓ<br>（オイルフィルタ交換時1.5ℓ） |



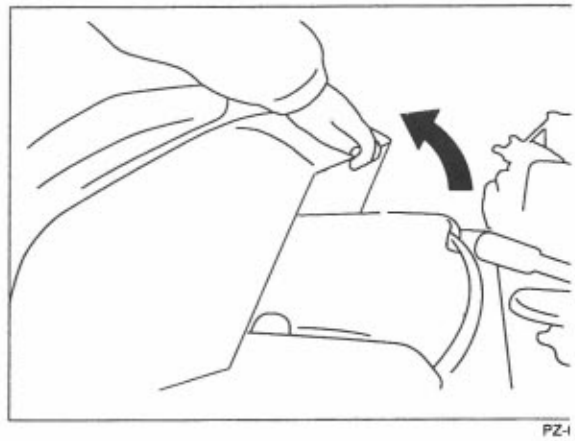

**5** エンジンカバーを閉めてください。

# 4.1.3 冷却水（PZ60HG、70HG型）

**⚠警告**

**ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。**
運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※　守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

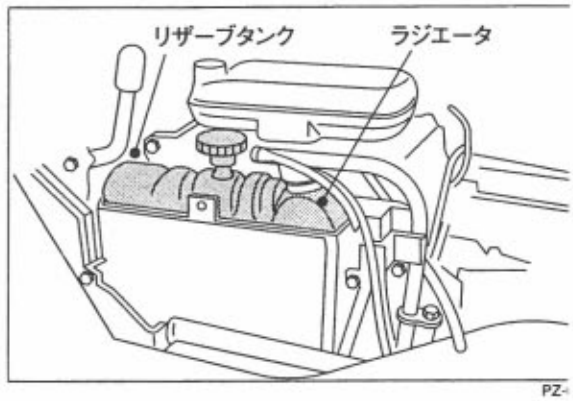
**1** ロックノブを回し、エンジンカバーを開けてください。



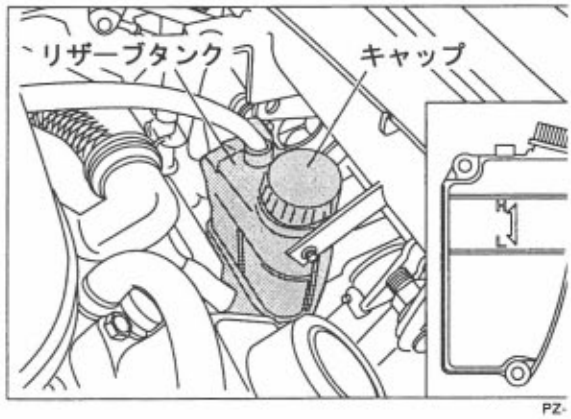

**2** エンジン後部にあるリザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（H ←→ L）にあるかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

**補　足**

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**




**3** 点検後はリザーブタンクのキャップを確実に閉め、エンジンカバーを閉じてください。

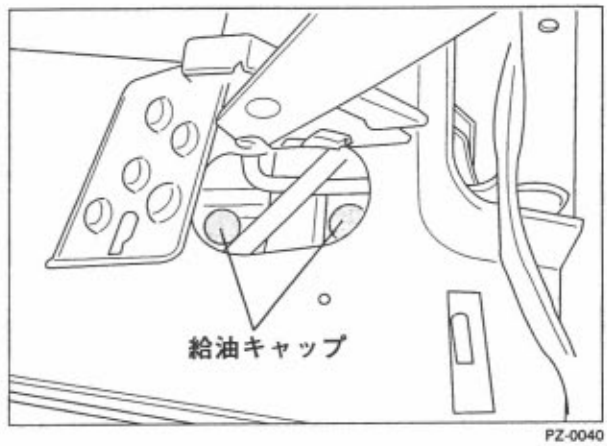


# 4.1.4 チェンジミッションオイル（全型式）

## ■点検

1 検油ボルトを外し、検油口からオイルが出るか確認してください。

2 確認が終わったら、検油ボルトを元どおりにしてください。



PZ-0040

## ■補給

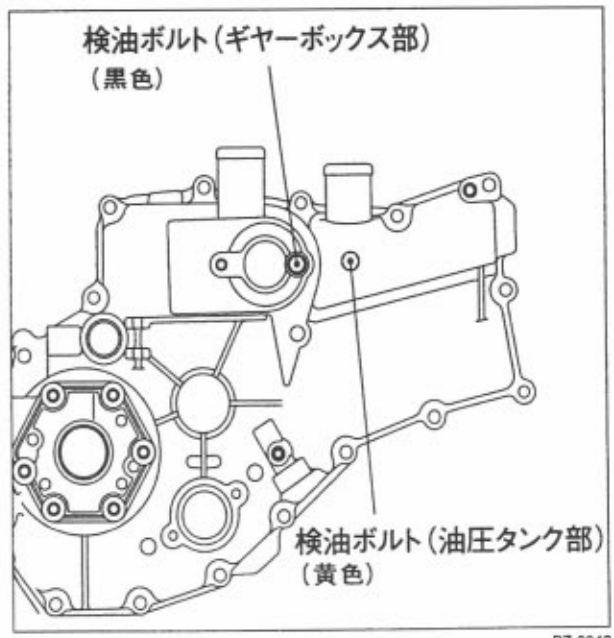
1 油量が少ない場合は、給油口のキャップを外し、検油口からオイルが流れ出すまで、給油口から補給してください。

2 給油が終わったら、キャップを元どおりにしてください。

**補　足**

- **給油時・検油時は、植付部を最大リフトしてください。**
- **油圧タンク部（キャップ黄色）は、オイル（ヰセキU・T・Hオイル）を給油してください。**
- **ギヤーボックス部（キャップ黒色）はオイル（ヰセキハイポイドギヤーオイル80#）を給油してください。**

PZ-0041

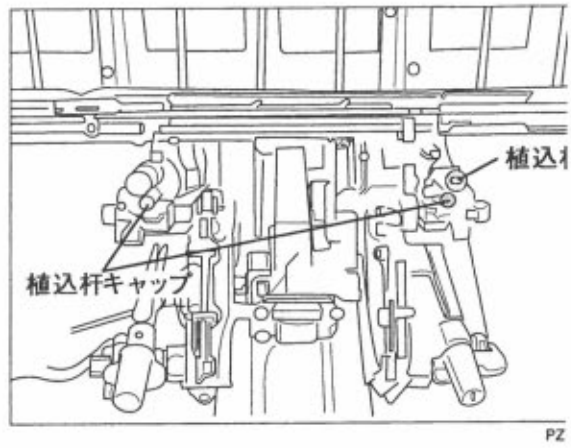


PZ-0042

## 4.1.5 植込杆

### ■点検

植込杆キャップを取り外し、植込杆の中にグリースがあるか確認してください。
確認後は植込杆キャップを取り付けてください。




### ■補給

油量が少ない場合は、グリースを適量補給してください。
補給後は植込杆キャップを取り付けてください。

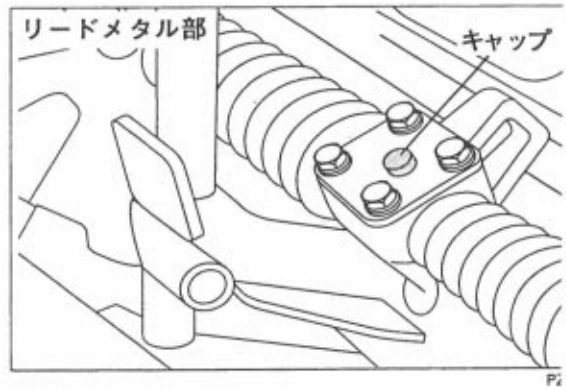
**補　足**

- **グリースがほとんどない場合は17.5cc程度補給してください。**

## 4.1.6 リードメタル

### ■点検

キャップを外し、中にグリースがあるか確認してください。
確認後はキャップを取り付けてください。

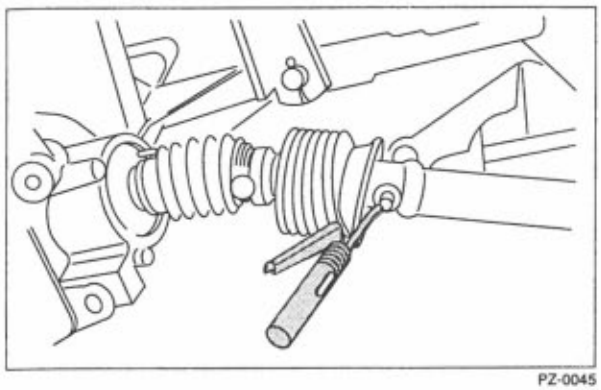



### ■補給

グリースが少ない場合は、適量補給してください。
補給後は植込杆キャップを取り付けてください。

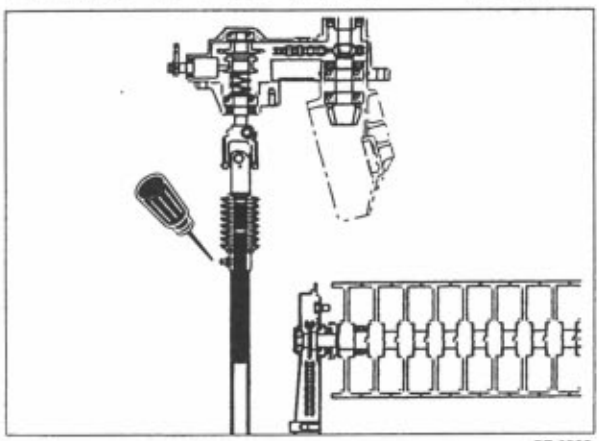
# 4.1.7 グリース注入箇所（グリースニップル）

■植付伝導軸六角シャフト部



PZ-0045

■伝導軸グリスニップル部（ロータ仕様機）



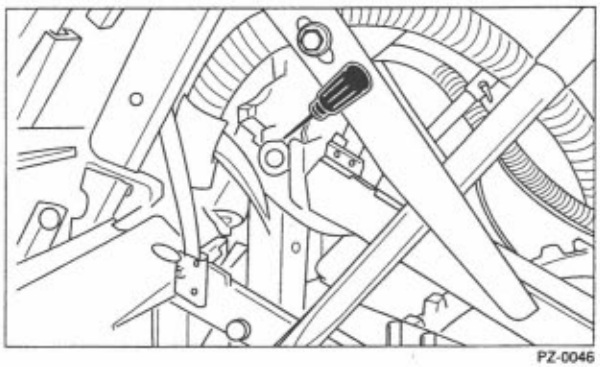
PZ-0208

# 4.1.8 オイル注油箇所

**補 足**

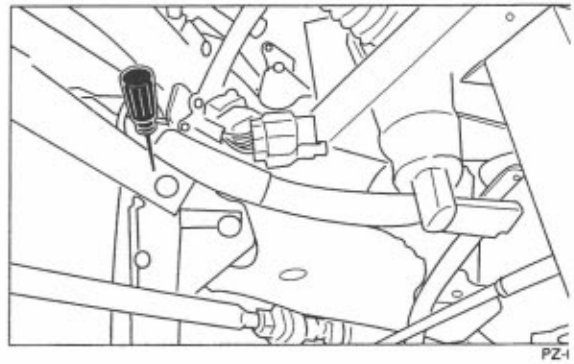
- 注油箇所には目印として黄色の塗料が塗ってあります。

■リンク支点部（後方）



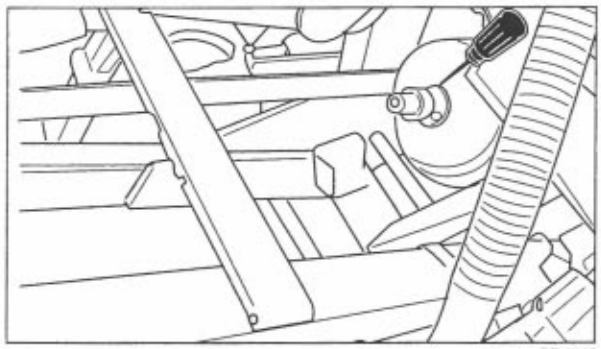
PZ-0046

■リンク支点部（前方）



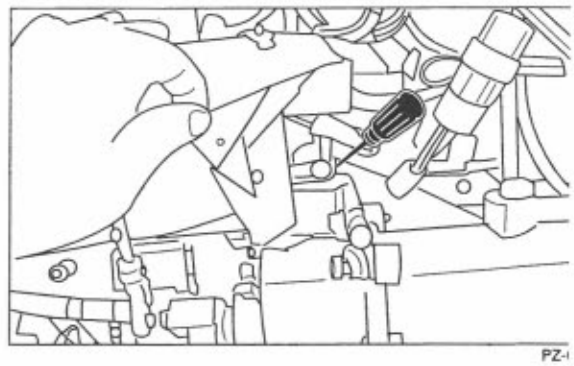
PZ-

■スプリングケース摺動部



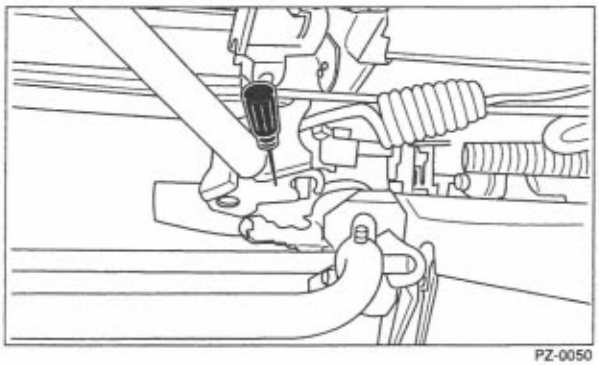
PZ-0048

■植付クラッチピン作動支点部



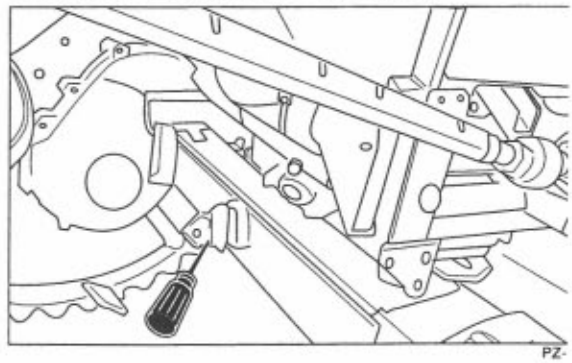
PZ-

■電動マーカ作動支点部



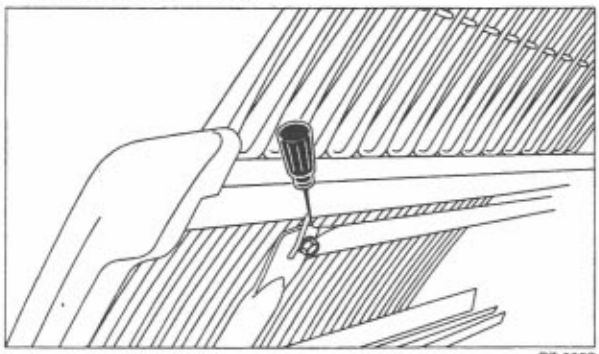
PZ-0050

■後輪ローリングフレーム支点部



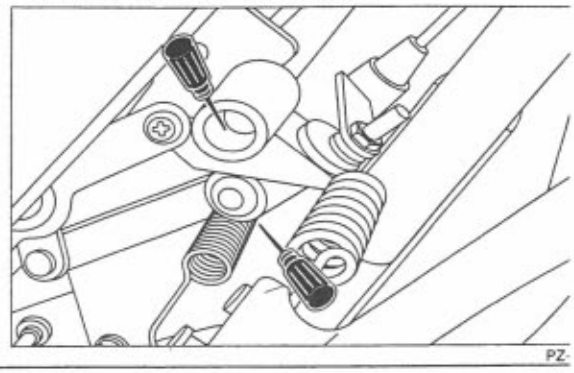
PZ-

■苗のせ台ローラ部



PZ-0052

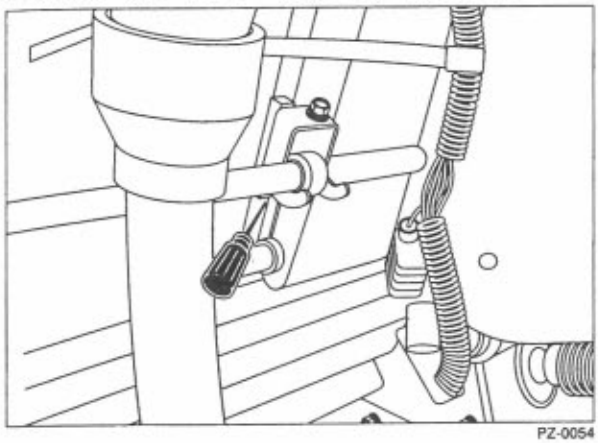
■ホルダ（カウンタ）受け部



PZ-

4. 作業前点検

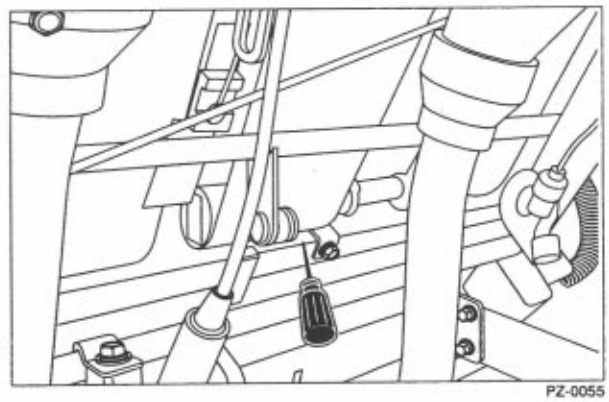
■カウンタシャフト（苗送り）軸受け部


PZ-0054

■苗送りアーム、カム関係

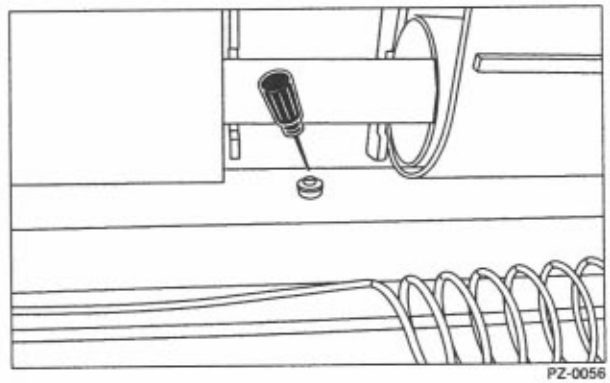
回動部に十分注油してください。(左右各1箇所ずつ)

ローラの注油穴に十分注油してください。
(左右各2箇所ずつ)


PZ-0055

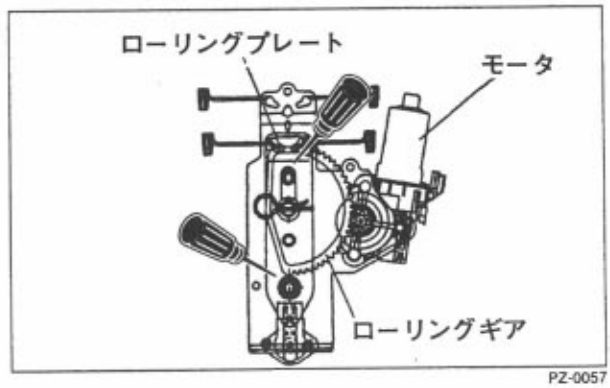
■しゅう動板

スライダーのある所に注油してください。
(4か所)


PZ-0056

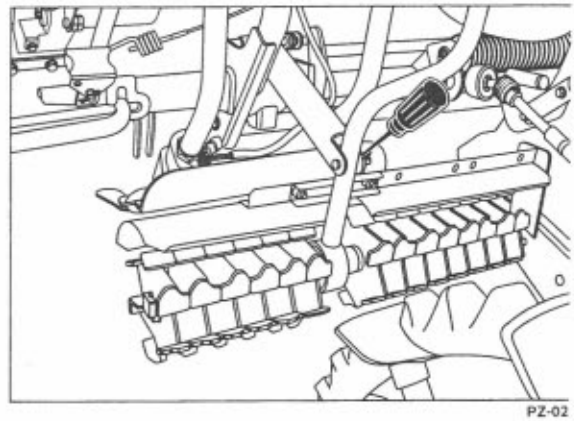
■オートローリング

作動支点部に注油してください。

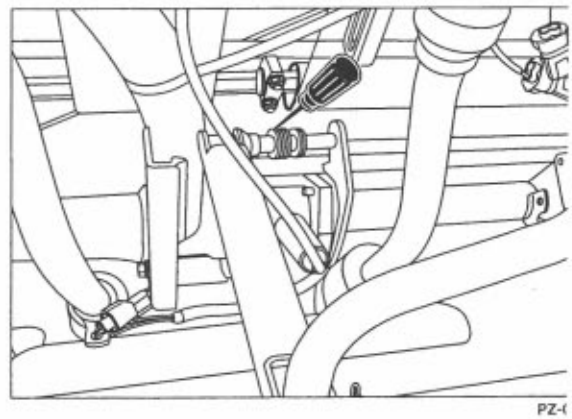


PZ-0057

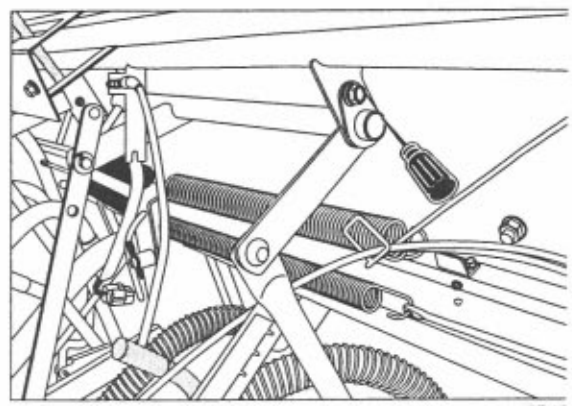
■フレーム回動部（ロータ仕様機）



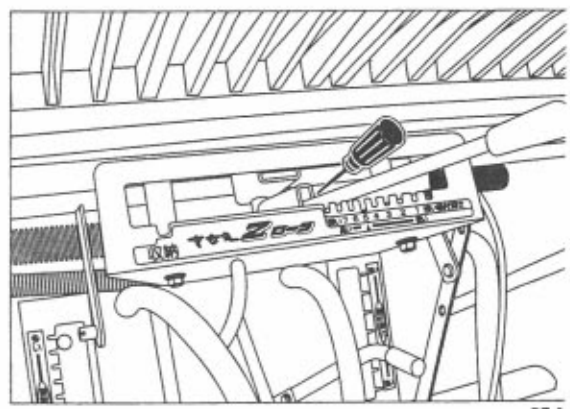

■アーム（ロータシジ）の回動部（ロータ仕様機）




■フレーム回動部（ロータ仕様機）




■レバー根元の回動部（ロータ仕様機）



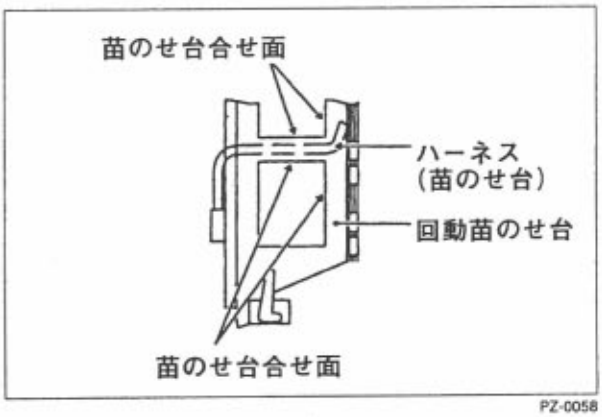
## ■苗のせ台を作業状態にするには（PZ70型）

### ⚠注意

**回動苗のせ台を作業状態にするときは、回動苗のせ台を下記取り扱いに注意してセットしてください。**

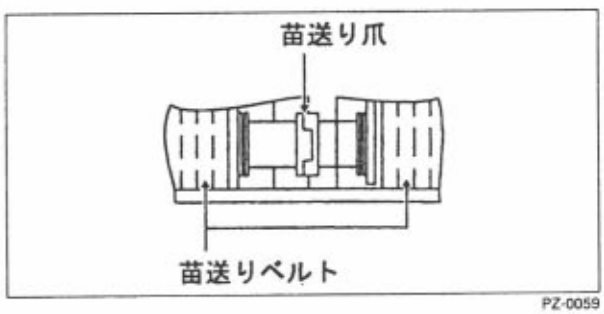
※　故障や苗送り不良の原因となります。

(1)　ハーネス（苗のせ台）は、苗のせ台合せ面で挟み込まないようにしてください。



PZ-0058

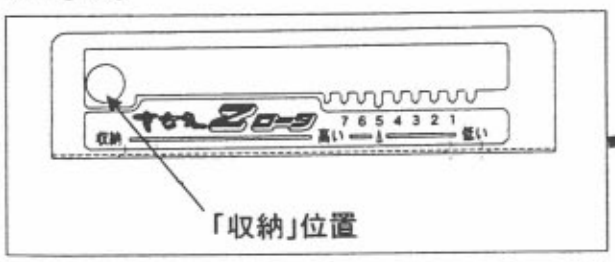
(2)　苗送り爪は、山と谷を噛み合せてください。
苗送りベルトを回転させると噛み合います。

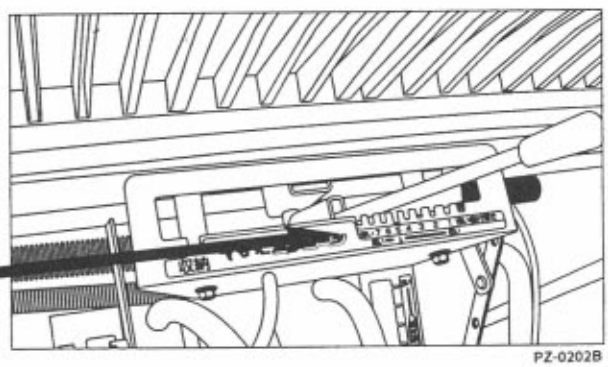


PZ-0059

## ■ロータ高さ調節レバー

・レバーが確実に「収納」位置に来ることを確認してください。

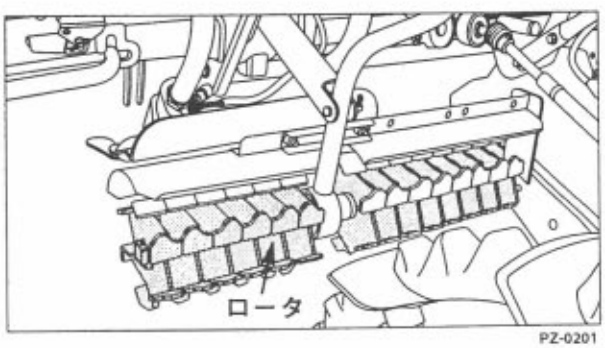


PZ-0202B

## ■ロータ

・ロータが摩耗していないか、ロータに異物が巻きこんでいないか確認してください。
巻付きがある場合は取り除いてください。



PZ-0201

# 5. 運転のしかた

## ⚠警告

**始動する前に保護カバー類が取り付けてあるか確認してください。**
※　カバー類を取り付けていないと、田植機に巻きこまれ傷害事故の原因となります。

**室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。**
※　換気が悪いと排気ガスによる中毒の原因となります。

**エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。**
※　確認を怠ると、急発進したりして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

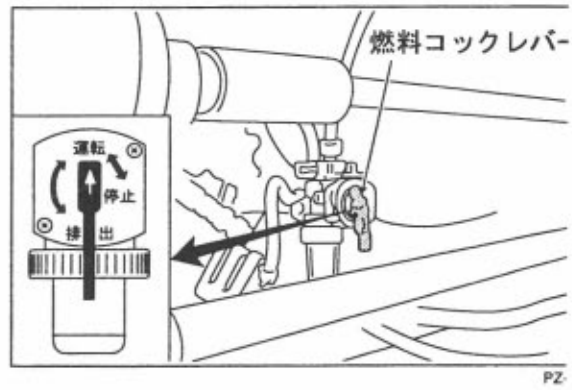
**エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。**
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

## 5.1　エンジンの始動と停止のしかた

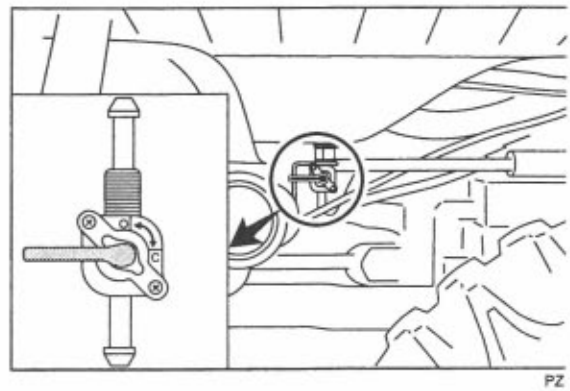
### 5.1.1　エンジンの始動

1 該当する型式の操作を行ってください。

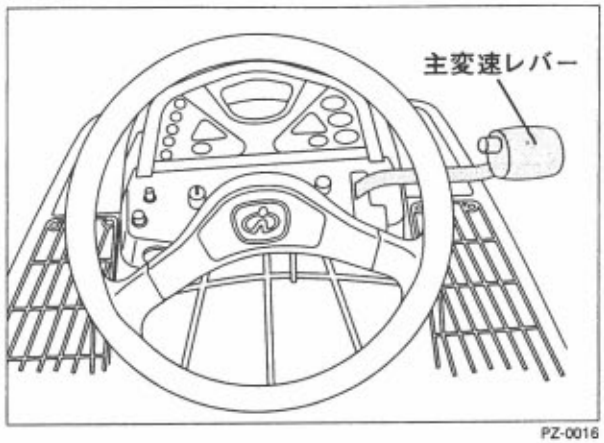
● PZ50、60HV型は燃料コックレバーを「運転」位置にしてください。




● PZ60、70HG型はワンタッチドレンコックを「C」（運転）位置にしてください。

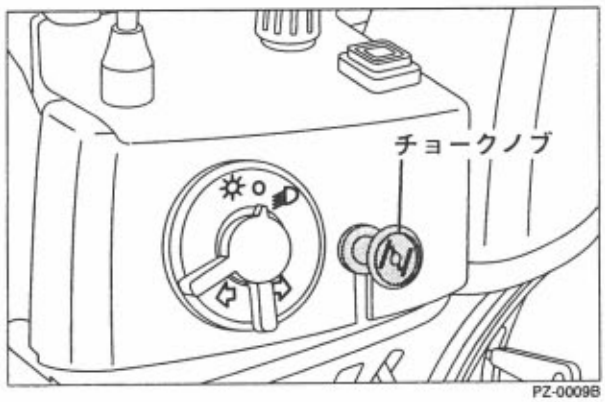


**2** 主変速レバーを「止」位置にします。



PZ-0016

**3** エンジンが冷えている状態で始動するときは、チョークノブをいっぱい引いてください。

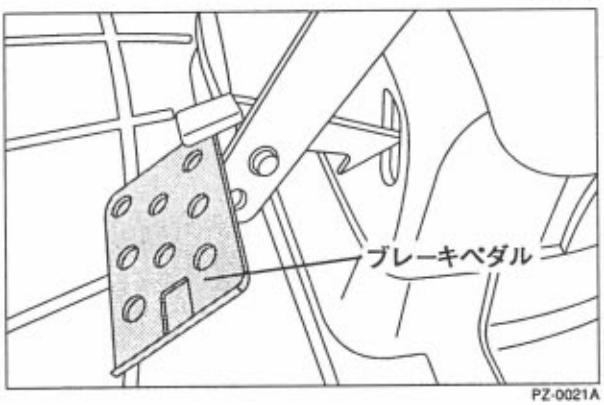


PZ-0009B

**4** ブレーキペダルを踏み込んでロック状態にしてください。

**補　足**

- **ブレーキペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。**
- **エンジンが始動しにくいときは、アクセルペダルを踏み込み始動してください。**



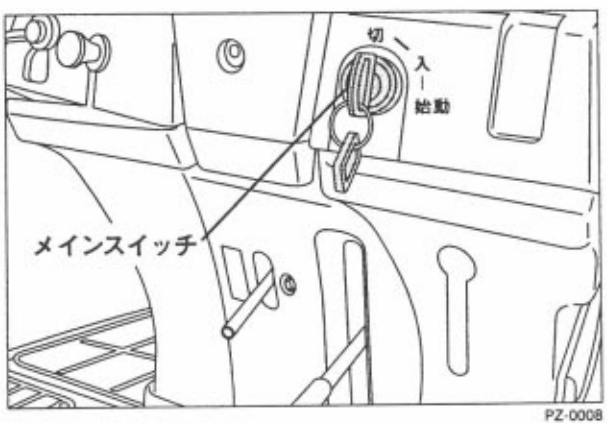
PZ-0021A

**5** メインスイッチを「始動」位置に回します。

**6** エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチから手を離してください。

**補　足**

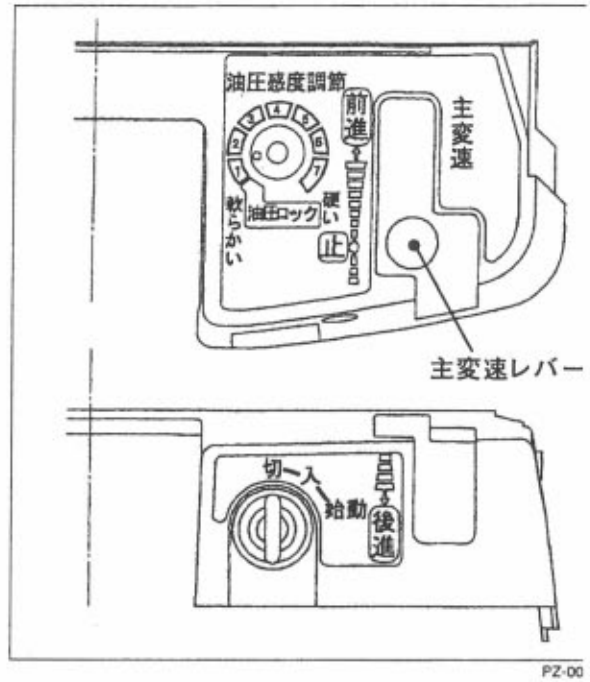
- **10秒以内に始動しなかった場合は、メインスイッチをいったん「切」位置に戻して、30秒程度休止してから再び同じ操作を練り返してください。**
- **エンジンが始動しているにもかかわらず、メインスイッチを回し続けたり運転中にメインスイッチを回さないようにしてください。エンジンが始動しにくい時は、アクセルペダルを踏み込んでください。**



PZ-0008

## 5.1.2 エンジンの停止

**1** 主変速レバーを「止」に戻します。
（エンジン回転が下がります。）

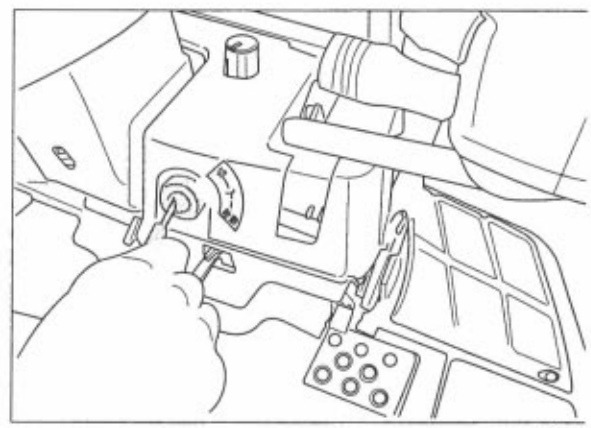


PZ-00

**2** メインスイッチを「切」位置にするとエンジンは停止します。

**補　足**

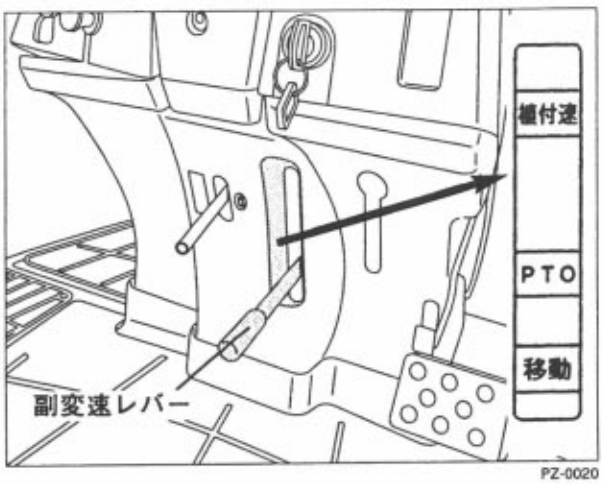
- **エンジンを高速回転のまま停止しないでください。**
- **メインスイッチを「入」位置のまま放置するとバッテリーを放電させてしまいます。エンジン停止後はメインスイッチ（キー）を外す習慣をつけてください。**


PZ-00

# 5.2 発進、停止、駐車のしかた

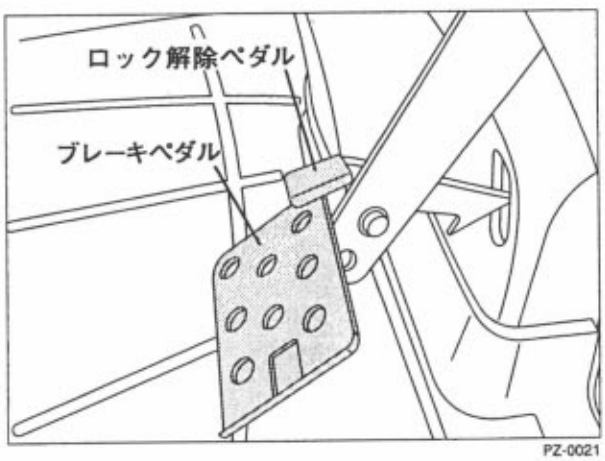
## 5.2.1 発進のしかた

**1** 副変速レバーを作業に合った位置にしてください。



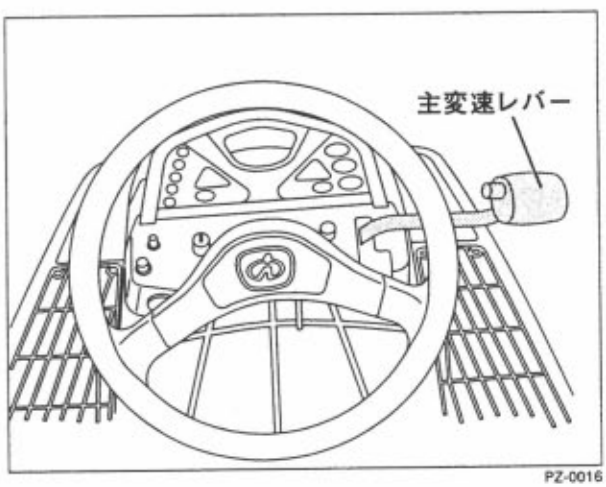
PZ-0020

**2** ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、徐々に離してください。



PZ-0021

**3** 主変速レバーを徐々に動かして発進してください。
主変速レバーに連動して、エンジン回転も上がります。
任意にエンジン回転を上げたい時は、アクセルペダルを踏み込んでください。



PZ-0016

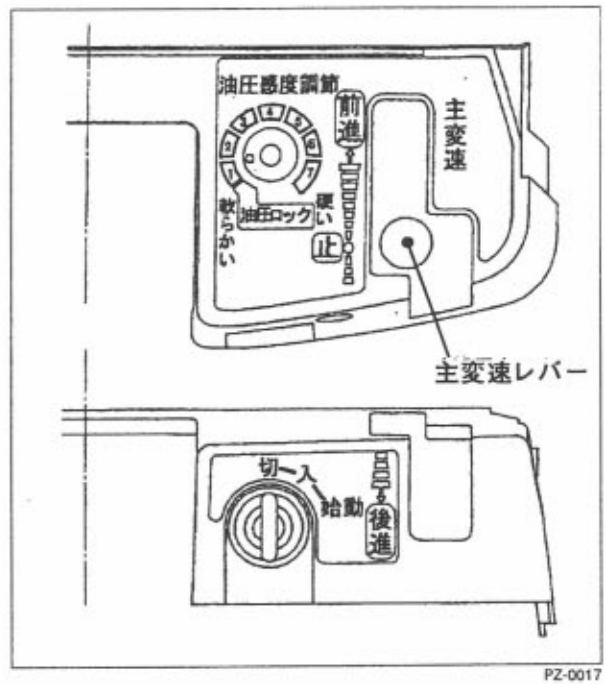
## 5.2.2 停止のしかた

**⚠警告**

**急ブレーキは、緊急時以外はさけてください。**
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**主変速レバーはゆっくり減速してください。**
※ 急減速すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**1** 主変速レバーをゆっくり「止」に戻してください。
主変速レバーに連動して、エンジン回転も下がります。

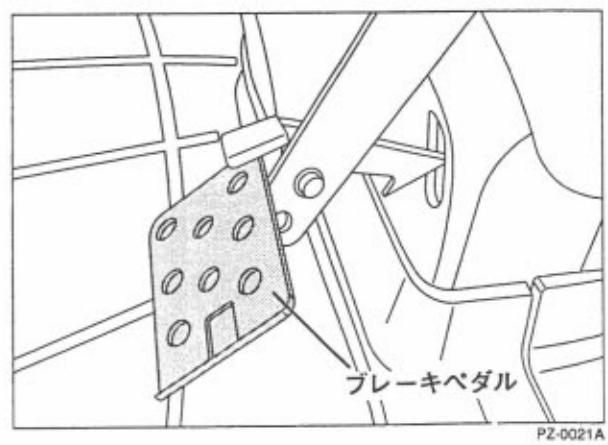


PZ-0017

**2** ブレーキペダルを踏み込みます。

**補 足**

- **走行中にブレーキペダルを踏み込むと主変速レバーが「止」位置に連動して移動します。**



PZ-0021A

## 5.2.3 駐車のしかた

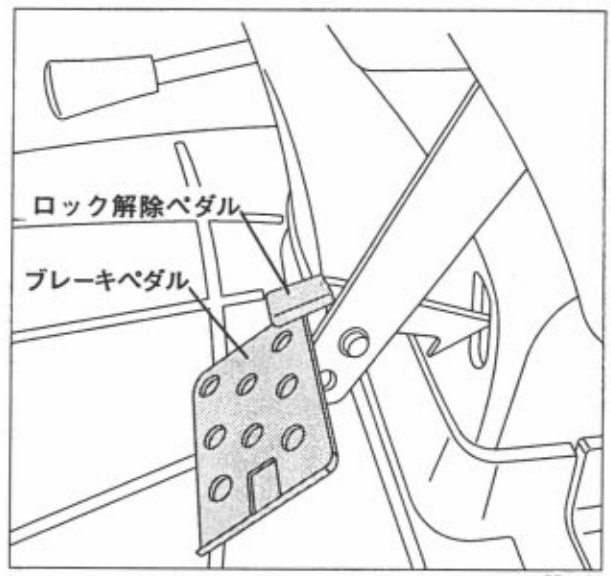
**⚠警告**

**駐車時、植付部は下げておいてください。**
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**坂道で駐車する場合は、車輪に必ず車輪止めをしてください。**
※ 守らないと、田植機が自然に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

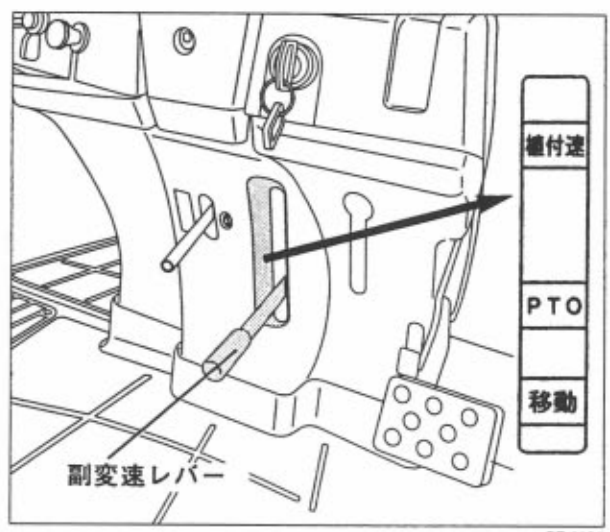
**1** エンジンを停止してください。

**2** ブレーキペダルをいっぱい踏み込みロックしてください。



PZ-0021

**3** 副変速レバーを「植付速」位置にしてください。



PZ-0020

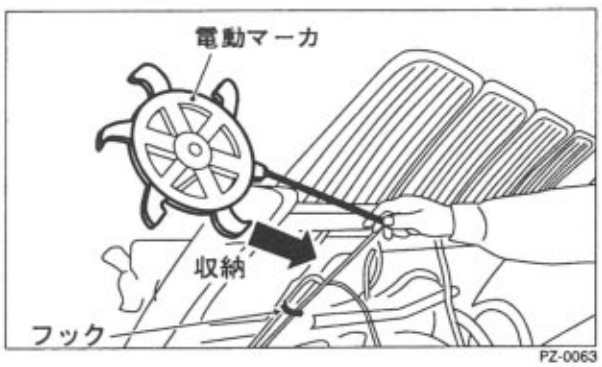
# 5.3 移動、運搬のしかた

## 5.3.1 走行のしかた

**⚠注意**

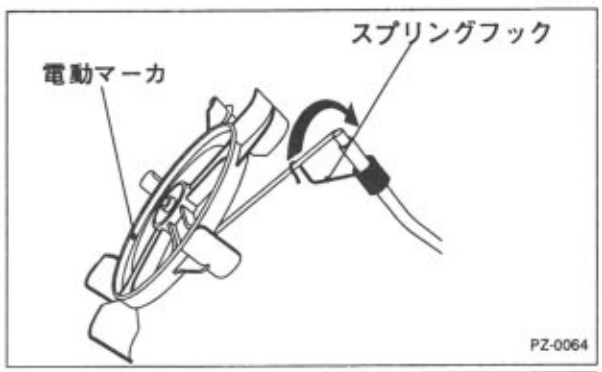
**走行するときは、エンジン回転を落とし主変速レバーは低速にしてください。**
**また、さなえZターン自動スイッチは必ず「切」にしてください。**
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**1** 電動マーカはフックに掛けて収納してください。

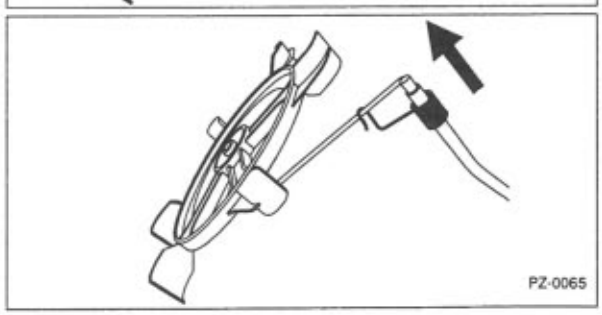


PZ-0063

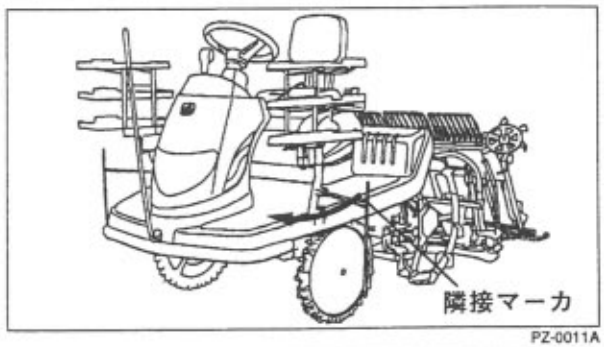
**2** フックをはずし、電動マーカを取り外してください。



PZ-0064

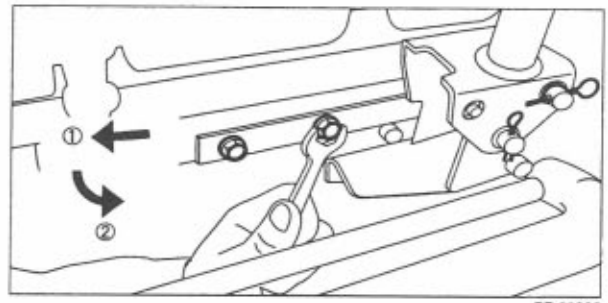

PZ-0065

**3** 隣接マーカを収納してください。



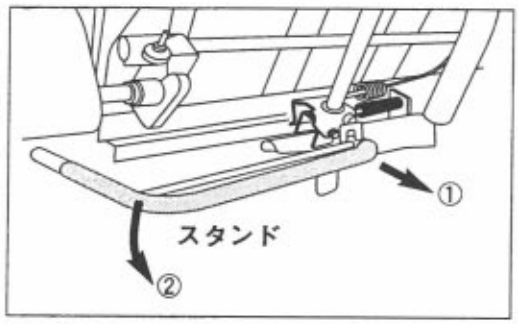
PZ-0011A

**4** しゅう動板をスパナでボルトをゆるめて引き抜き、下に折ってボルトを固定してください。

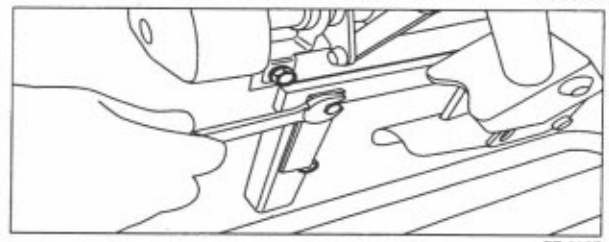


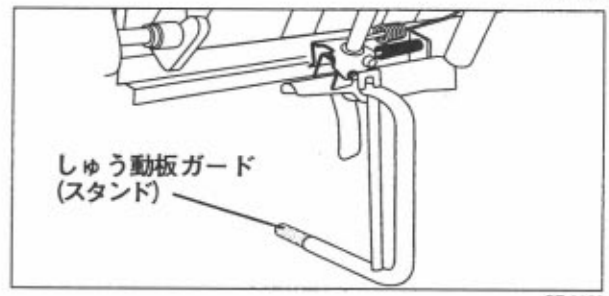
PZ-00666

**5** しゅう動板ガード（スタンド）を前方に引き抜き、下に回動させてしゅう動板ガード（スタンド）で植付部をささえる位置にセットしてください。



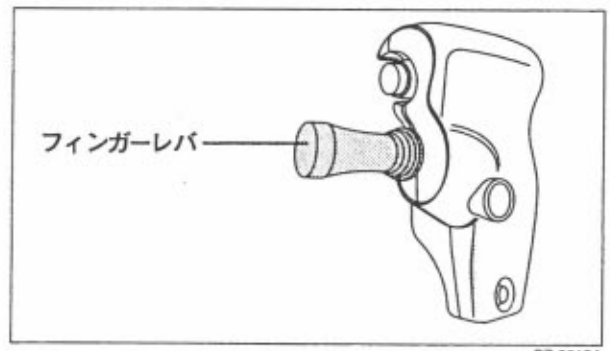
PZ-0069


PZ-0067



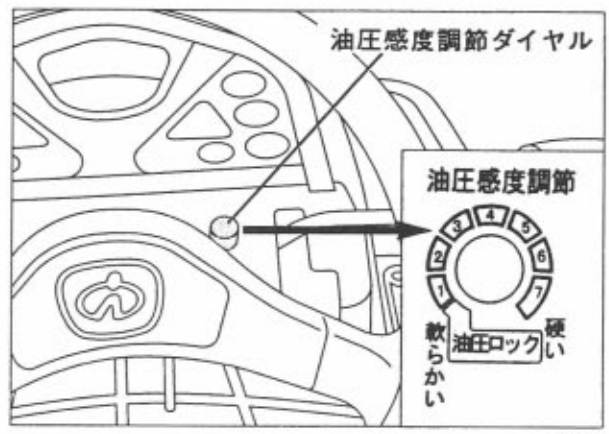
PZ-0068

**6** エンジン始動状態でフィンガーレバーを上方へ操作し、植付部をいっぱいまで上げてください。



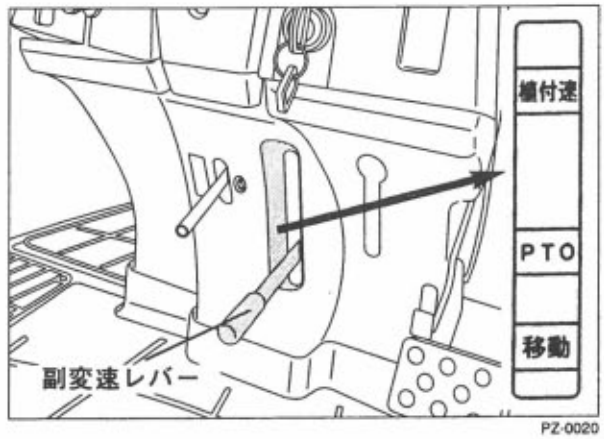
PZ-0018A

**7** 油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてください。



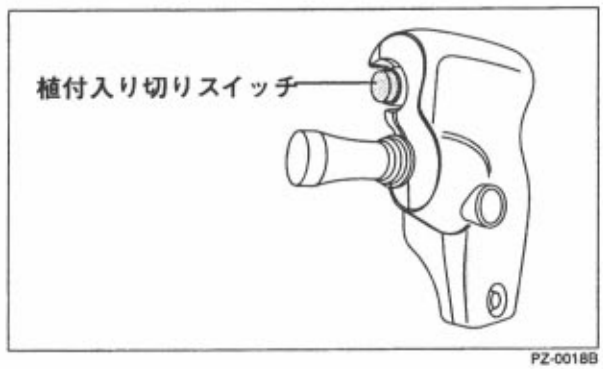
PZ-0070

**8** 苗のせ台を機体中央位置にするために、副変速レバーを「ＰＴＯ」位置にしてください。



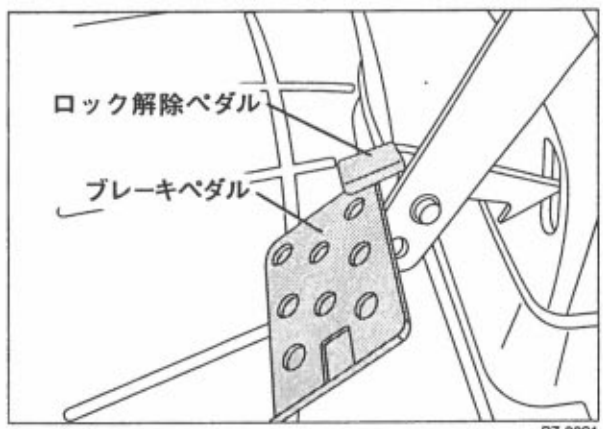
PZ-0020

**9** 植付入り切りスイッチを押して植付クラッチを「入」にしてください。



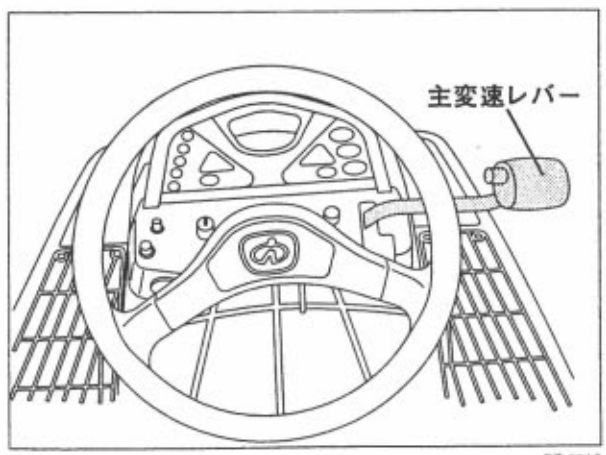
PZ-0018B

**10** ブレーキペダルを解除し主変速レバーを前進側に動かし、苗のせ台が機体中央にきたら、植付入切スイッチを押して植付クラッチを「切」にして、主変速レバーを「止」まで戻してください。



PZ-0021

**11** 走行場所に合せて、副変速レバーをセットし、主変速レバーをゆっくり動かしてください。



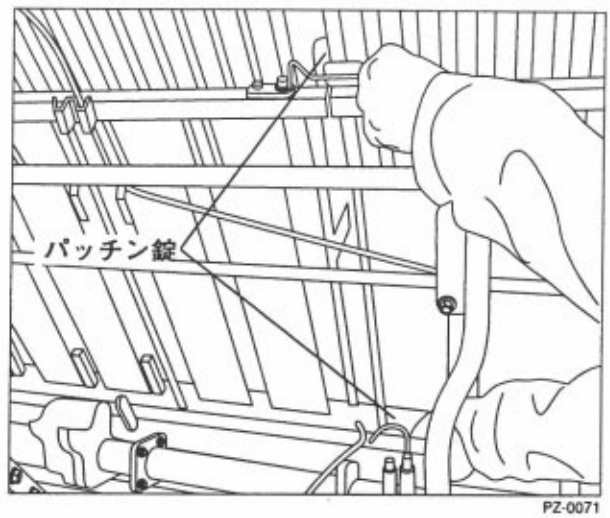
PZ-0016

# 5.3.2 苗のせ台の収納（PZ70型）

PZ70は、苗のせ台をコンパクトに折りたたむことができます。(PZ70は左側のみ)
次の要領で行ってください。

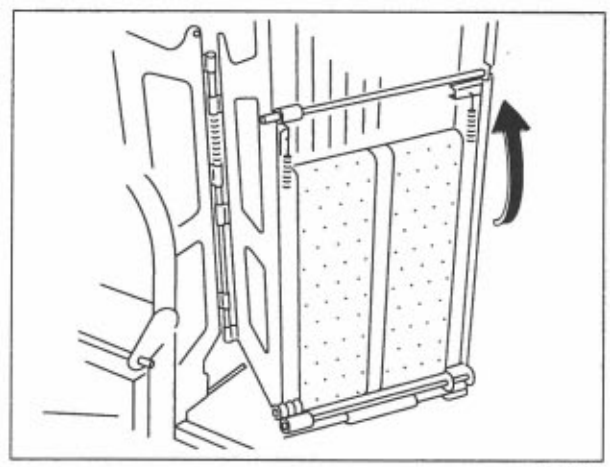
**1** 植込杆を回して、苗のせ台を機体の左側に移動させてください。

**2** 苗のせ台のパッチン錠をはずしてください。(左側2箇所)



PZ-0071

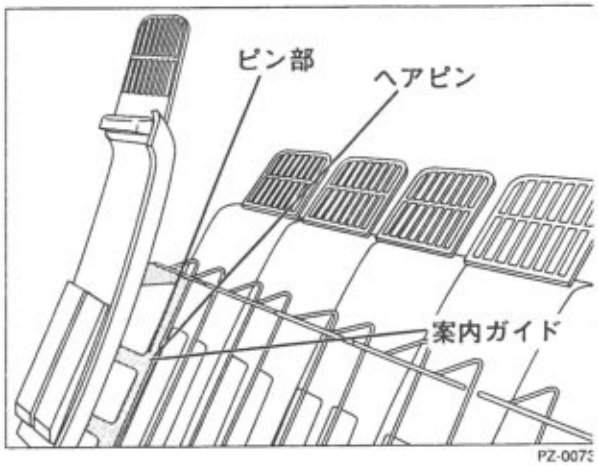
**3** 苗のせ台を上側に引き上げ、反転させてください。


PZ-0072

**4** 苗のせ台は、案内ガイド内にピン部を差し込み、ヘアーピンで固定してください。

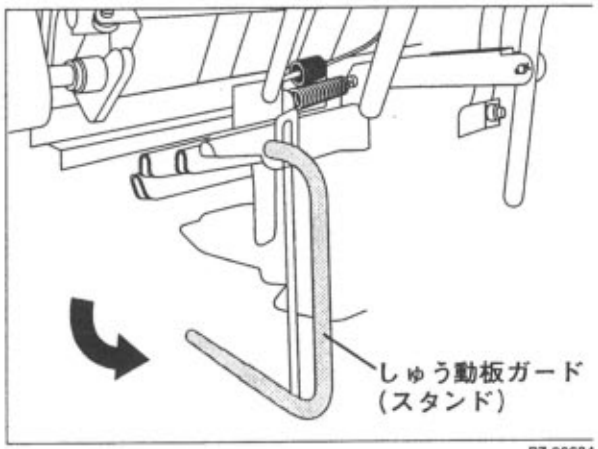
**補　足**

- **苗のせ台収納時には、必ず苗のせ台をヘアーピンで固定してください。**



PZ-007

**5** しゅう動板ガード（スタンド）を折りたたんでください。

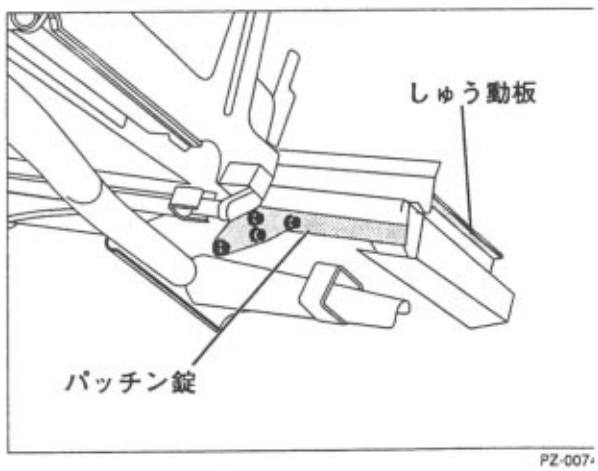


PZ-0068

**6** (1) PZ70は、パッチン錠を外し、しゅう動板を引き抜いて下に折ってください。

**補　足**

- **苗のせ台収納時には、植込杆を回さないでください。**
- **苗のせ台を作業状態にセットするときは、逆の手順で行ってください。**



PZ-007

## 5.3.3 トラックへの積み・降ろしのしかた

**⚠警告**

**平たんで広い地面の硬い場所を選んでください。**
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**積み込むトラックは、エンジンを止めて、Zシフトレバーを「植付速」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。**
※ 守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

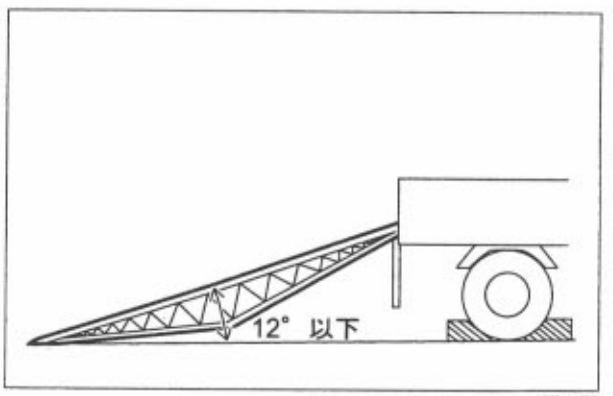
**強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。**
※ 守らないと、転落事故の原因となります。

**アユミ板のフックは、荷台に段差がないように、また、ずれないように確実に掛けてください。**
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。

**ステアリング（ハンドル）を左右に大きくきったり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。**
※ 守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。

**補 足**

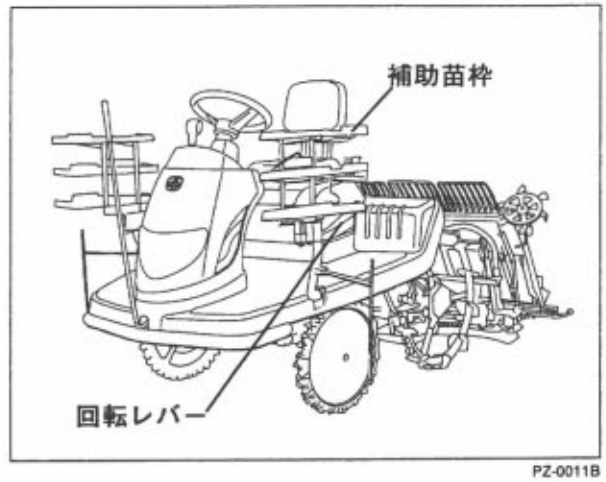
- アユミ板の条件
  長さ……車の荷台高さの4.8倍以上
  幅……30 cm以上
  数量……2枚
  強度……1枚の強度が1000 kg以上
  すべり止めのあるもの



PZ-0075

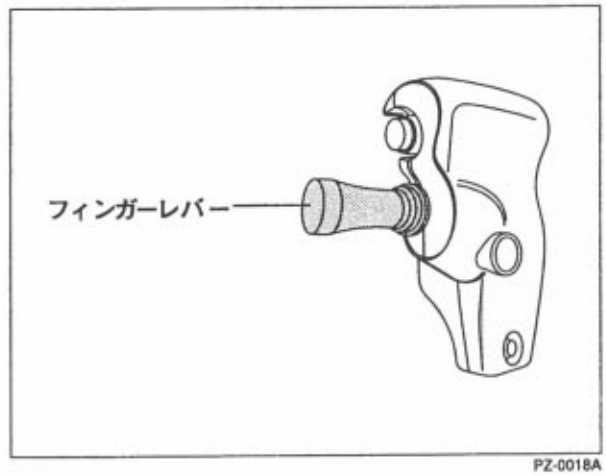
**1** 電動マーカ、隣接マーカ、しゅう動板、スタンドを収納してください。
（☞ 62，63ページ）

**2** 補助苗枠を収納してください。



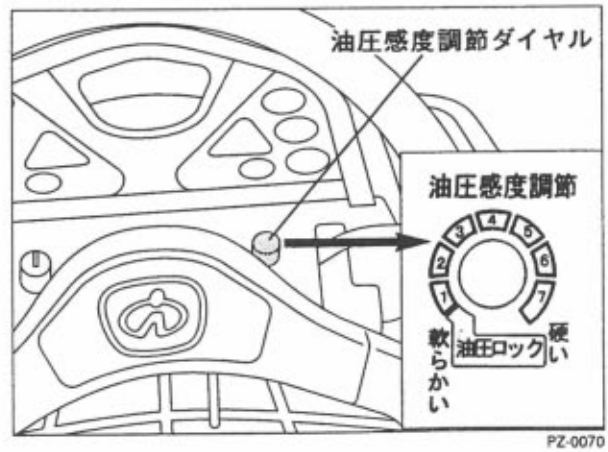
PZ-0011B

**3** フィンガーレバーを上方へ操作し、植付部をいっぱいまで上げてください。



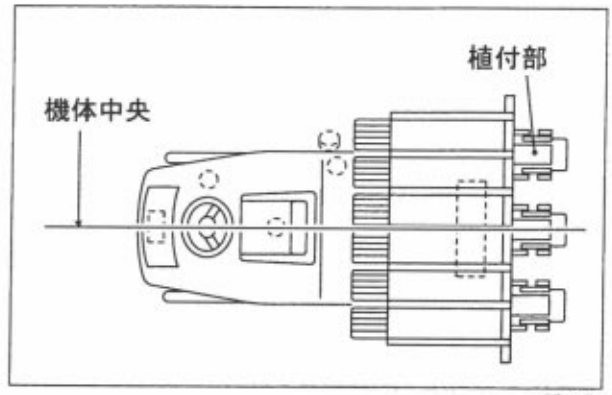
PZ-0018A

**4** 油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてください。



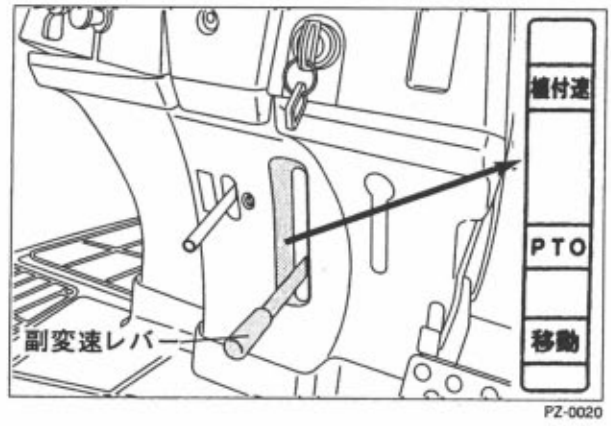
PZ-0070

**5** 植付部を機体の中央にしてください。



PZ-0076

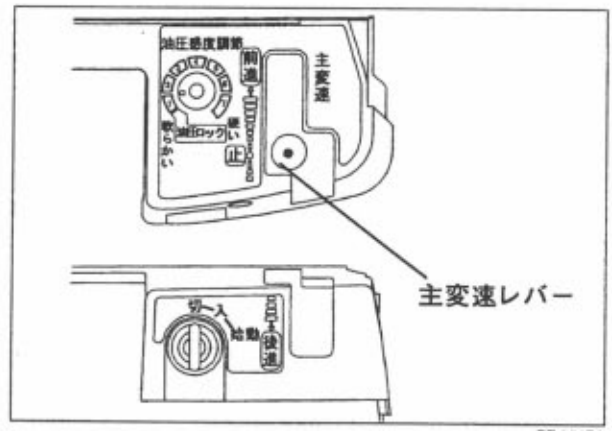
**6** 次の操作で積み降ろししてください。



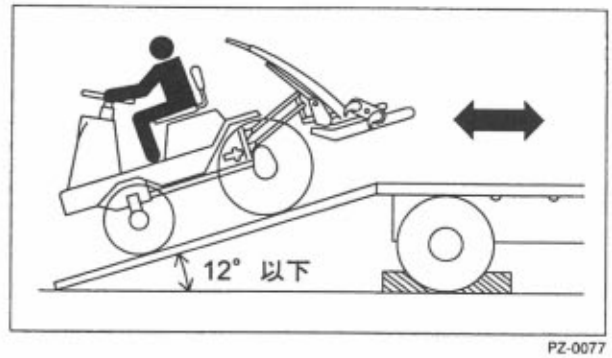
PZ-0020

(1) 副変速レバーを「植付速」位置にしてください。

(2) トラックに載せるときは、主変速レバーを「後進」にして最低速で行ってください。
また、トラックより降ろすときは、主変速レバーを「前進」にして最低速で行ってください。



PZ-0017A



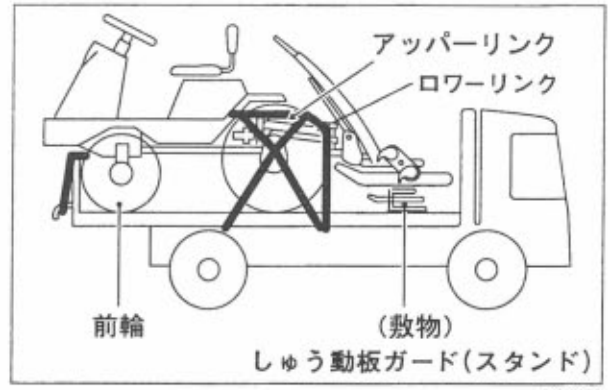
PZ-0077

## 5.3.4 運搬中の固定方法

**1** 前輪を車の後部に引きつけて、ロープで固定してください。

**2** 後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。

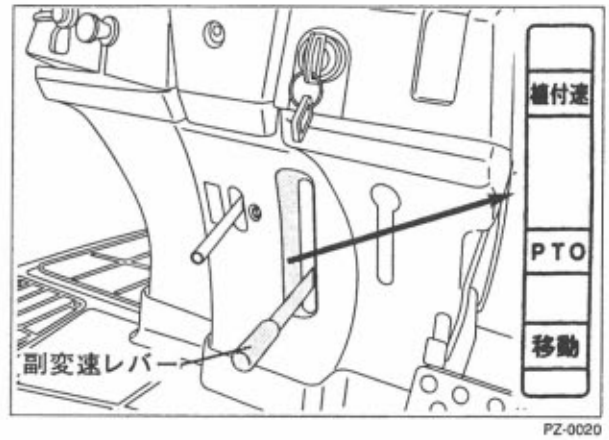
**3** しゅう動板ガード（スタンド）を立てるか又は、フロートの下に敷物を置いて植付部を降ろしてください。



PZ-0078

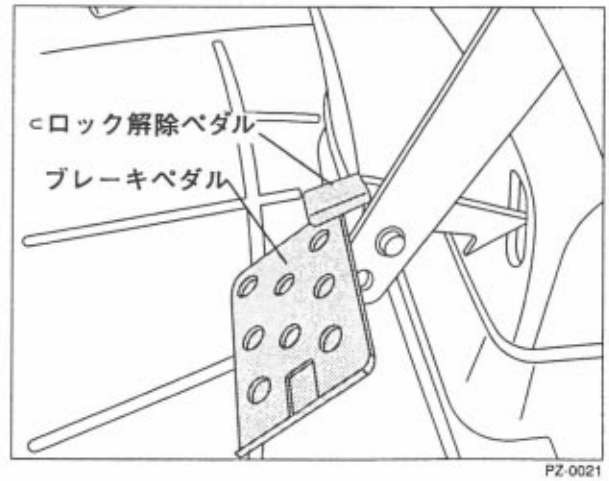
**4** アッパーリンク又はロワーリンクにロープをかけ、植付部がバウンドしないように、固定してください。

**5** 副変速レバーを「植付速」位置にしてください。



PZ-0020

**6** ブレーキペダルを踏み込み、ロックしてください。（☞59ページ）



PZ-0021

# 5.4 ほ場への出入りのしかた

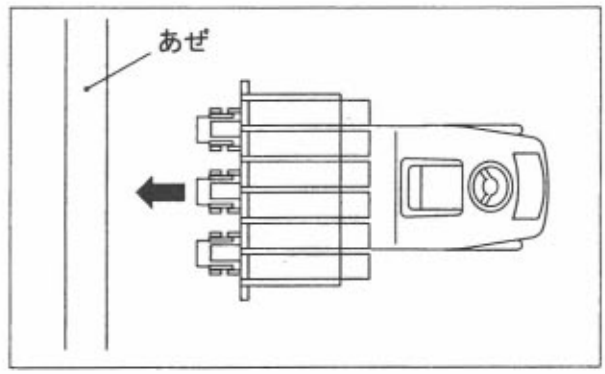
## ⚠警告

**ほ場との高低差が大きいときは、アユミ板を使用してください。**
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

**補助苗枠および苗のせ台には、苗を乗せないでください。また田植機に荷物を積まないでください。**
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。

## ⚠注意

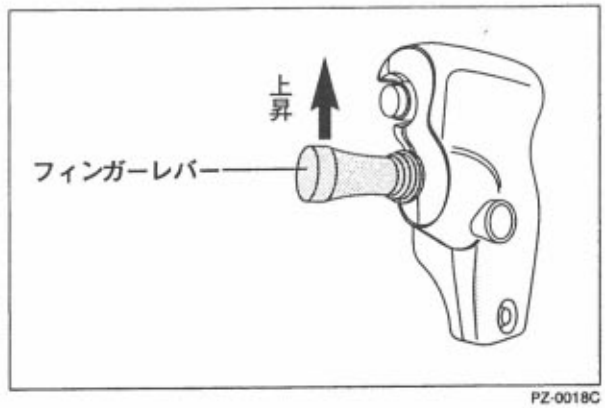
**ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、必ずあぜに直角にゆっくり進んでください。**
※ 守らないと、転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。




PZ-0079

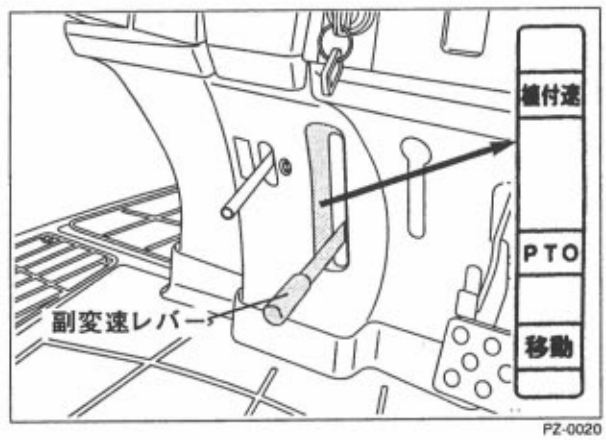
# 5.4.1 ほ場への入りかた

**1** フィンガーレバーを上方へ操作し、植付部をいっぱいまで上げてください。



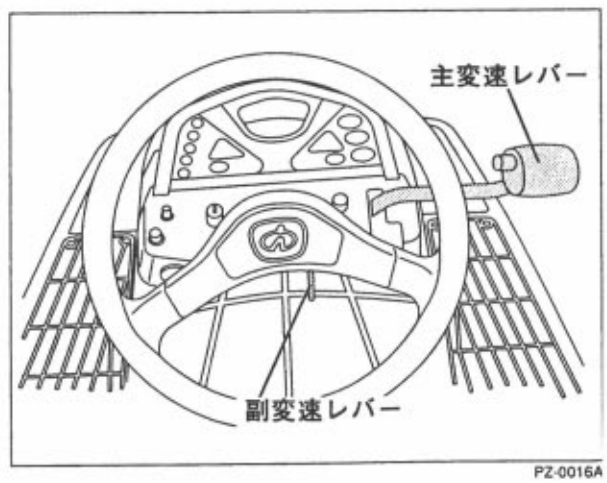
PZ-0018C

**2** 副変速レバーを「植付速」位置にしてください。



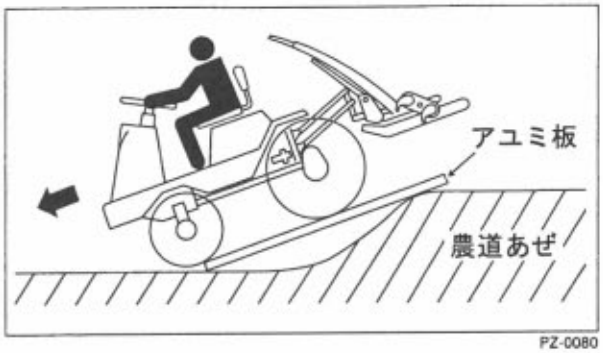
PZ-0020

**3** 主変速レバーで速度を調整してください。



PZ-0016A

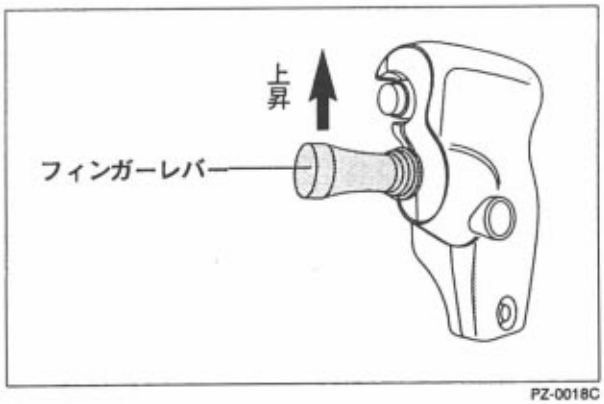
**4** 前進でゆっくりとほ場に入ってください。



PZ-0080

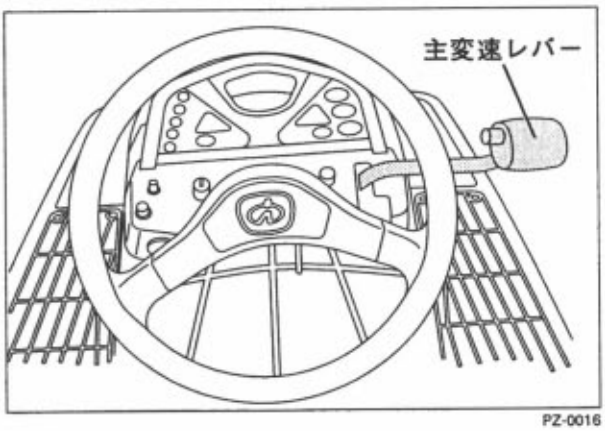
## 5.4.2 ほ場からの出かた

**1** フィンガーレバーを上方へ操作し、植付部をいっぱいまで上げてください。



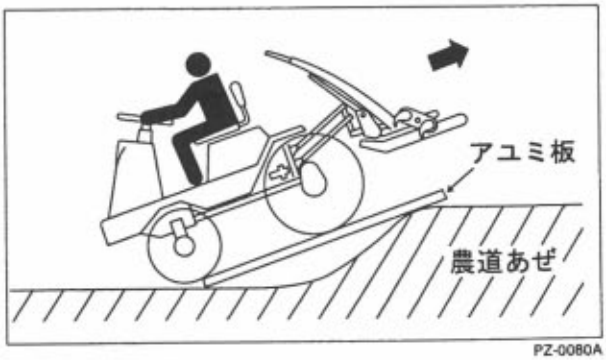
PZ-0018C

**2** 主変速レバーで速度を調整してください。



PZ-0016

**3** 後進でゆっくりとほ場から出てください。



PZ-0080A

# 6. 植付作業のしかた

## ⚠警告

**作業中は、作業者以外の人を田植機に近づけないでください（特に子供）。**
※　田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリー端子等の通電部等には手を触れないでください。**
※　傷害事故の原因となります。

**作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、合図してから行ってください。**
※　守らないと、傷害事故の原因となります。

**あぜを横断するときは、作業機の回転を止め作業機を低くし、あぜと直角にゆっくり走行してください。**
※　斜めになると、スリップや転倒の原因となります。

**あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。**
※　使用しなかった場合、衝撃で田植機を破損させたり、転倒することがあります。

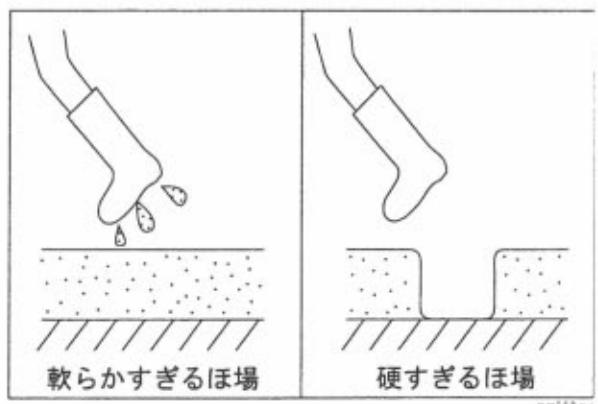
## 6.1　ほ場の準備

### 6.1.1　代かき

代かきは、ほ場の表面の凸凹をなくすようにていねいにしてください。

**補　足**

- **代かき日は、土質等によっても異なります。当地に合った代かき日を決めてください。**
- **ほ場は、やや軟らか目の硬さが最適です。歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、きれいな植付ができないことがあります。**



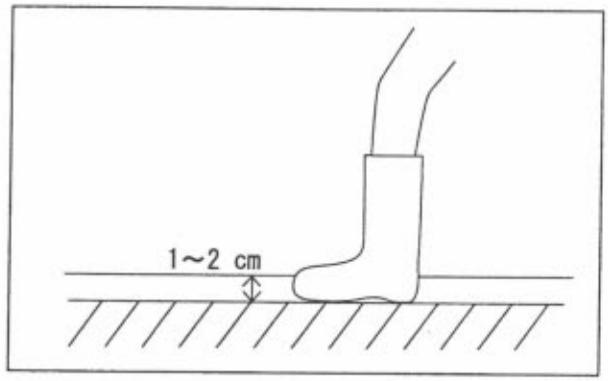
PZ-0081

## 6.1.2 水深

水深は1～2 cm程度の全面浅水が最適です。

**補 足**

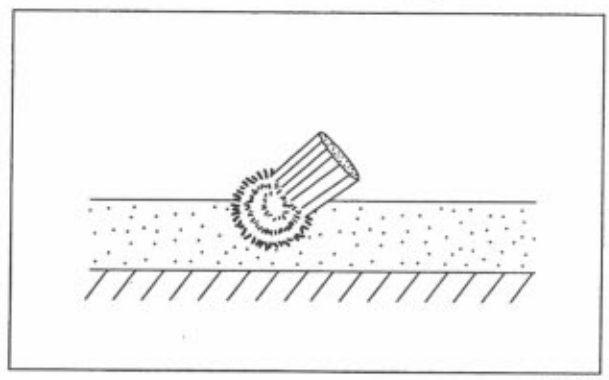
- **水深が2 cm以上のほ場や、反対に水気のないほ場では、きれいな植付ができないことがあります。**



PZ-0082

## 6.1.3 きょう雑物

刈り株・排ワラ等のきょう雑物はできるだけ取り除いてください。


PZ-0083

# 6.2 植付作業前の準備

## 6.2.1 植付株数（株間）の決めかた

### ■マット苗

植付株数は、株数切替レバーと株数副変速レバーの切り替えで変更できます。
下表を参考に当地に合った植付株数にセットしてください。（☞ 76～77ページ）

**補 足**

- **出荷時の植付株数は70株（株数副変速レバーは[標準]の位置）です。（A仕様は65株・AS仕様は90株）**
- **植付株数により使用箱数が変わります。植付株数に合った箱数を準備してください。なお、実際には10aあたり2箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。**
- **植付株数や苗取量を途中で変更すると所要箱数が変わります。**
- **株数副変速切替**

（6条HG型のみ）

（6条HG型以外）

### ■標準型（条間 30cm仕様）

| 株数副変速レバー位置 ＼ 株数切替レバー位置 | | ● 50 70 標準 60 80 / 42 疎植 37 | ● 50 70 標準 60 80 / 42 疎植 37 | ● 50 70 標準 60 80 / 42 疎植 37 | ● 50 70 標準 60 80 / 42 疎植 37 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標準 | 株数 | 50 | 70 | 60 | 80 |
| | 株間（cm） | 22 | 16 | 18 | 14 |
| 疎植 | 株数 | － | 42 | 37 | － |
| | 株間（cm） | － | 26 | 30 | － |

## ■A型（条間 33cm仕様）

| 株数副変速レバー位置 ＼ 株数切替レバー位置 | | ● 45 65 標準 55 75 / 前禁止A 40 疎植 35 前禁止 | ● 45 65 標準 55 75 / 前禁止A 40 疎植 35 前禁止 | ● 45 65 標準 55 75 / 前禁止A 40 疎植 35 前禁止 | ● 45 65 標準 55 75 / 前禁止A 40 疎植 35 前禁止 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標準 | 株数 | 45 | 65 | 55 | 75 |
| | 株間（cm） | 22 | 15 | 18 | 13 |
| 疎植 | 株数 | — | 40 | 35 | — |
| | 株間（cm） | — | 25 | 29 | — |

## ■AS型（条間 33cm仕様）

| 株数副変速レバー位置 ＼ 株数切替レバー位置 | | ● 75 85 標準 80 90 / 前禁止AS 70 疎植 65 前禁止 | ● 75 85 標準 80 90 / 前禁止AS 70 疎植 65 前禁止 | ● 75 85 標準 80 90 / 前禁止AS 70 疎植 65 前禁止 | ● 75 85 標準 80 90 / 前禁止AS 70 疎植 65 前禁止 |
|---|---|---|---|---|---|
| 標準 | 株数 | 75 | 85 | 80 | 90 |
| | 株間（cm） | 13 | 12 | 12.5 | 11 |
| 疎植 | 株数 | — | 70 | 65 | — |
| | 株間（cm） | — | 14 | 15 | — |

# 6.2.2 株数副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた

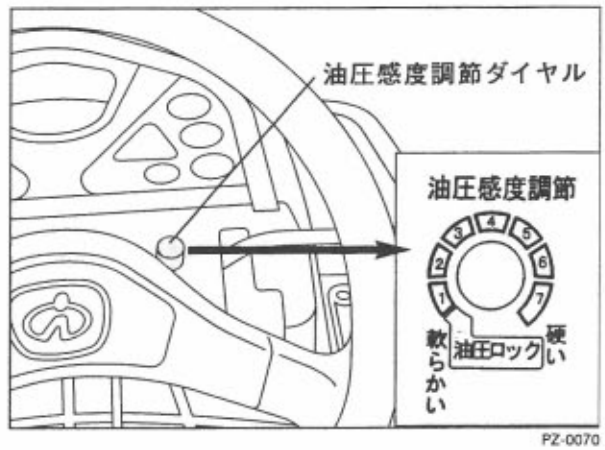
**⚠警告**

**ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」にしないでください。**
※ 田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

**1** 植付部をいっぱい上げ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にします。

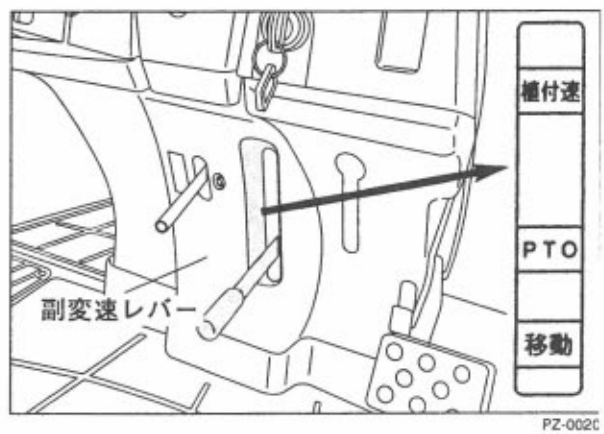
**補 足**

- **ほ場内の場合は、植付部は下がったままでもかまいません。**
- **ほ場以外で操作する時には、平坦な所で行ってください。**



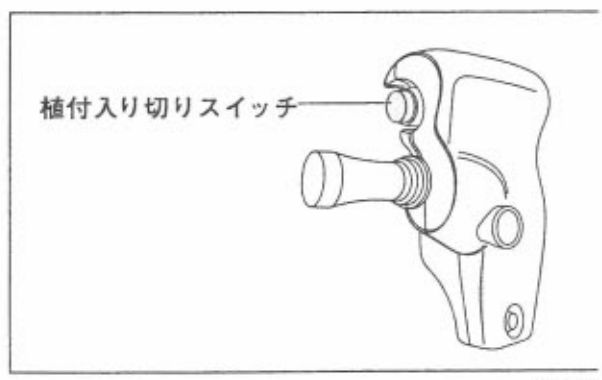
PZ-0070

**2** 副変速レバーを「ＰＴＯ」位置にします。



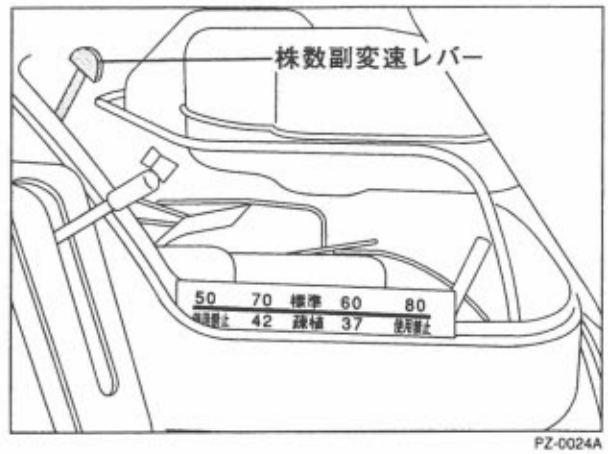
PZ-0020

**3** 植付入り切りスイッチを押して植付クラッチを「入」にし、ブレーキペダルを解除後、主変速レバーを「前進」にゆっくり動かし植込杆を回します。



PZ-0018E

**4** 株数副変速レバーを希望の位置に回してください。

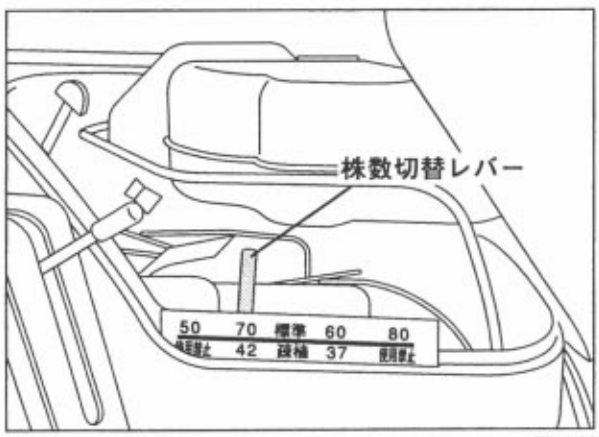


PZ-0024A

**5** 株数切替レバーを動かし、希望の位置にセットします。

**補　足**

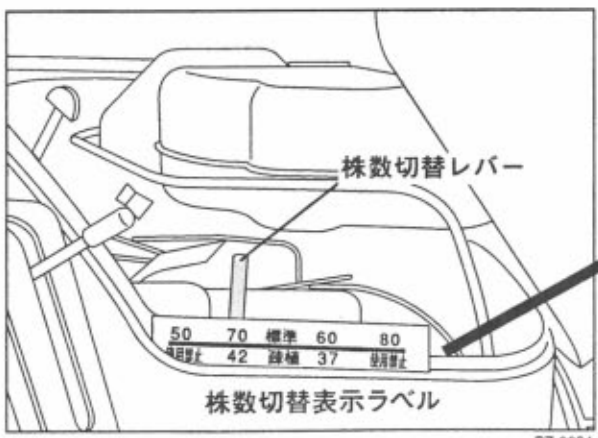
- **レバーの調節後、植込杆が回っていることを確認してください。**



PZ-0024

(6条HG型以外)

(6条HG型のみ)



PZ-0024

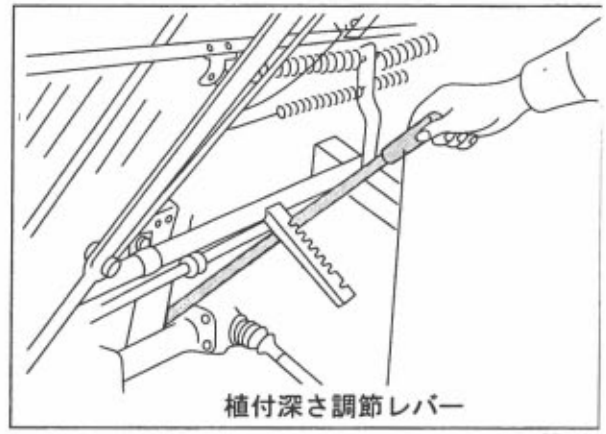
| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 50 | 70 | 標準 | 60 | 80 | 標準型 |
| 使用禁止 | 42 | 疎植 | 37 | 使用禁止 | |
| 45 | 65 | 標準 | 55 | 75 | A 型 |
| 使用禁止A | 40 | 疎植 | 35 | 使用禁止 | |
| 75 | 85 | 標準 | 80 | 90 | AS型 |
| 使用禁止AS | 70 | 疎植 | 65 | 使用禁止 | |

## 注意

**疎植植付時には、標準型では42株、37株、A型では35株、40株、AS型では65株、70株以外での植付けは、設定株間以外の植付けになるため、植付けが乱れます。株数切替レバーを操作する時は、充分注意してください。**

# 6.2.3 植付深さの調節

(1) 植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは7段階に選べます。

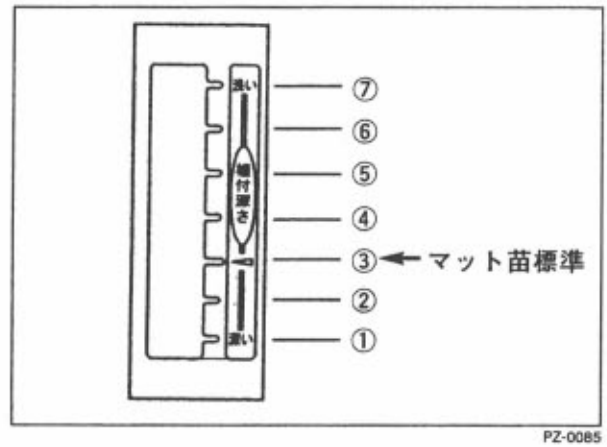


PZ-0084

(2) 植付深さの標準は、マット苗がガイド溝③の位置です。植付深さを深くしたいときは①の方向へ、浅くしたいときは⑦の方向へ植付深さ調節レバーを移動させてください。

**補 足**

- **植付深さは、必ずほ場で試し植えをして確認してください。**



PZ-0085

# 6.2.4 横送り量の調整

**⚠注意**

**切り替えはエンジンを停止して行ってください。**
※ 守らないと、作業機を破壊したり、傷害事故の原因となります。

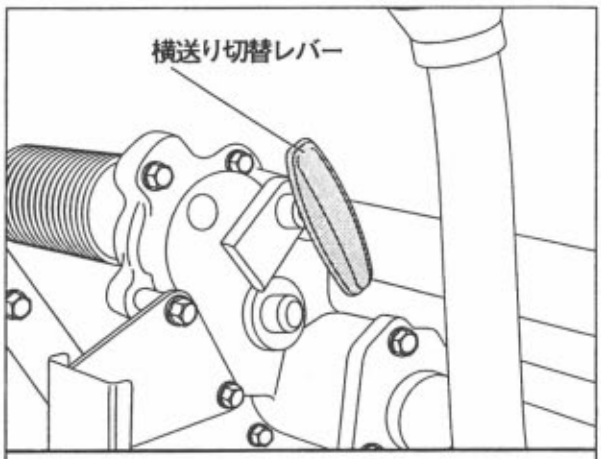
苗の種類によって、横送り量の切り替えを行ってください。

| 横送りの回数 | 苗の種類 |
|---|---|
| 24回 | 稚苗 |
| 20回 | 中苗 |
| 18回 (A, AS型のみ) | 中苗、キセキ中苗箱、18条ポット苗 |

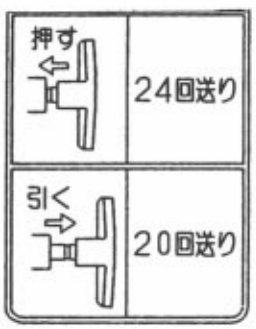
(1) 横送り切替レバーで苗の種類に合った位置に切り替えてください。
(2) 横送り回数を変更するときは油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にし、エンジンを止めてから希望の横送り回数に変更してください。

**補 足**

- **切り替え後は、必ず希望の位置に入っていることを植込杆を回して確認してください。**




A, AS型以外



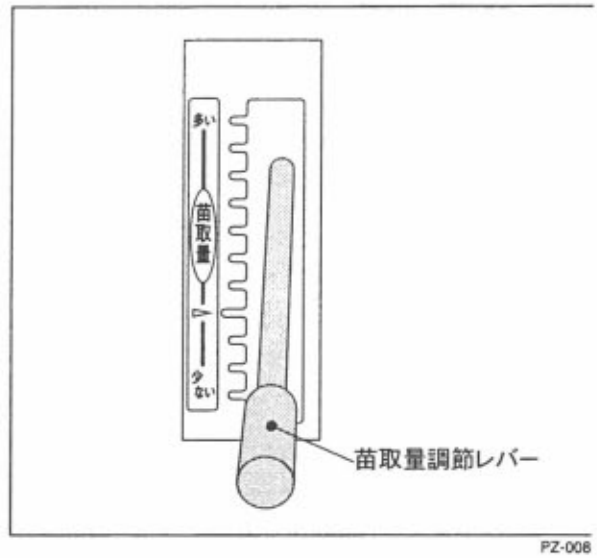

A, AS型

# 6.2.5 苗取量の調節

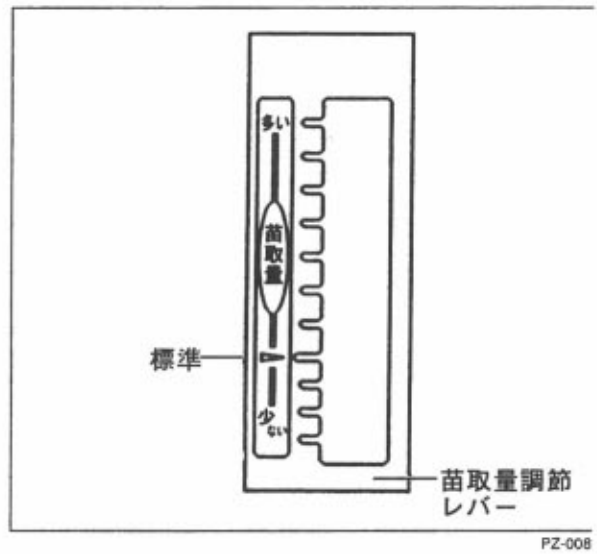
(1) 苗取量調節レバーのセット位置を上下に調節することにより全条の苗取量を一度に変えることができます。
(2) 苗取量の標準は、11 mmです。
(3) ガイド溝1段で苗取量は約1 mm変わります。

**補 足**

- **苗箱1箱当り種籾300cc～320cc、乾籾150g～160g、催芽籾190g～200gの場合です。標準で3～5本の苗が取れます。**



PZ-008



PZ-008

# 6.2.6 油圧感度調節

感度は、油圧感度調節ダイヤルを回すことにより7段階選べます。

**補 足**

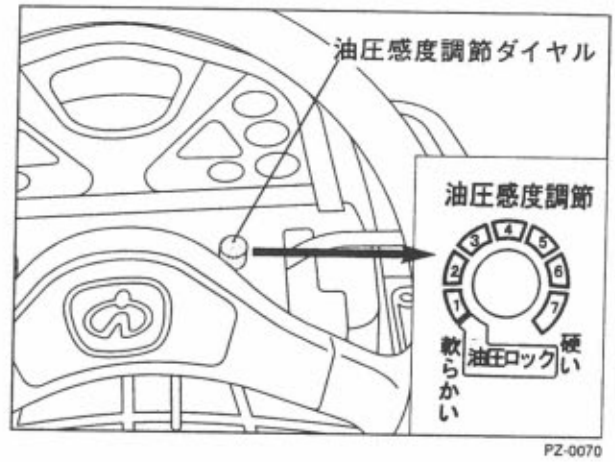
- **最初は必ずダイヤルを「4」位置にして試し植えをしてください。**

(1) フロートで泥を押す場合
ダイヤルを「4」位置から一目盛ずつ「軟らかい」側へ回してください。

(2) 植付部がバタツク場合やフロート後部が浮く場合
ダイヤルを「4」位置から一段ずつ「硬い」側へ回してください。

**補 足**

- **油圧感度調節ダイヤルの調節を行った場合は、植付深さが変わります。植付深さの確認と調節を合せて行ってください。**
- **水深が深い場合は、水の浮力で、フロートが浮きやすくなります。水深の浅い所よりも一段「硬い」側にセットしてください。**
- **水深が深い場合や、ダイヤルが「軟らかい」側のときは、植付速度をひかえ目にしてください。**
- **隣接条を、植付しないで走行する場合には、最も「軟らかい」側にセットすると泥押しが少なく隣接条を乱しません。**



PZ-0070

| 油圧感度調節ダイヤルの回転方向 | 植付深さ |
|---|---|
| 「軟らかい」→「硬い」 | 深くなる |
| 「硬い」→「軟らかい」 | 浅くなる |

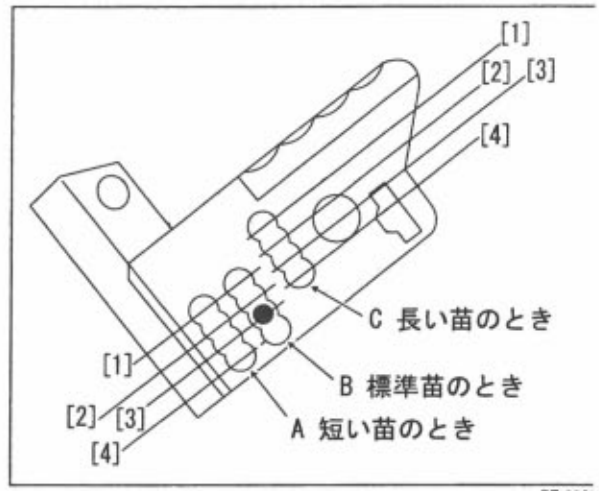
# 6.2.7 抵抗棒の調節

## ⚠注意

**抵抗棒の位置の変更はエンジンを停止して行ってください。**
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

抵抗棒の位置は、4段階の調節できます。
また、苗の長さにより3段階の調節ができます。
その場合は、ヘアーピンを抜いて抵抗棒を差し替えてください。

抵抗棒の標準（出荷）位置は標準苗位置Bでの[3]の位置です。



PZ-0081

標準位置で試し植えをして、不調時は下記要領で調節してください。

| 不調な場合の現象 | 抵抗棒の位置<br>マット苗の場合 |
|---|---|
| 植付けた苗が前だおれになる。 | [4]（Bの位置）またはCの位置<br>[1]~[4] |
| 植付けた苗が後だおれになる。 | [1]~[2]（Bの位置）またはAの位置[1]~[4] |
| 植付けた苗がおおぎ状になる。 | [1]~[2]（Bの位置）またはAの位置[1]~[4] |
| 苗が植付爪より離れない。 | [4]（Bの位置）またはCの位置<br>[1]~[4] |
| 苗が一、二本だけ離れ植付が乱れる。 | [4]（Bの位置）またはCの位置<br>[1]~[4] |

**補 足**

- **抵抗棒の位置を変更する場合は、最初に同じ長穴の中で抵抗棒の位置を変えて調節してください。それでも直らない場合は抵抗棒の差し替えで抵抗棒の位置を変更してください。**
- **抵抗棒の位置を変更後は、全条同じ位置に抵抗棒がセットされているか確認してください。**

# 6.2.8 整地板の調節

## ⚠注意

**整地板の調節は植付部を上昇させ、感度調節ダイヤルを油圧ロックにして、行ってください。**

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

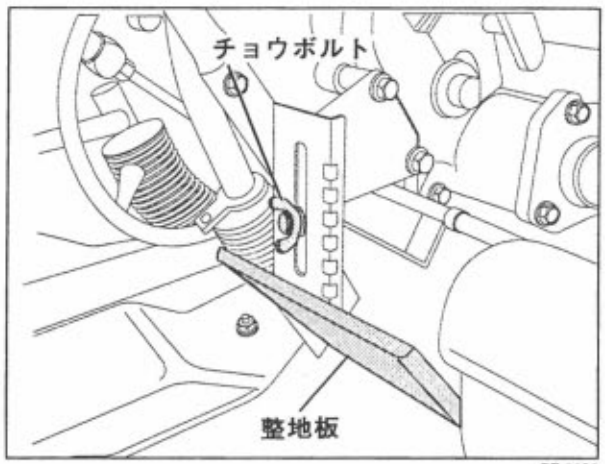
### ■PZ60、70型

(1) 整地板の位置は、固定位置の変更により6段階選べます。
チョウボルトを緩め、上・下に動かし、再度締めて固定してください。

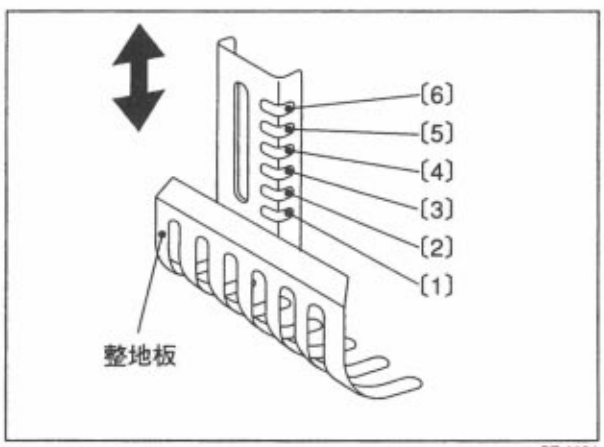
(2) 出荷時は[3]の位置です。

(3) 出荷位置で試し植えをして、不調な場合は下記要領で調節してください。

| 不調な場合の現象 | 整地板の位置 |
|---|---|
| 整地しない | 整地板を下げる |
| 泥を押す | 整地板を上げる |



PZ-0090



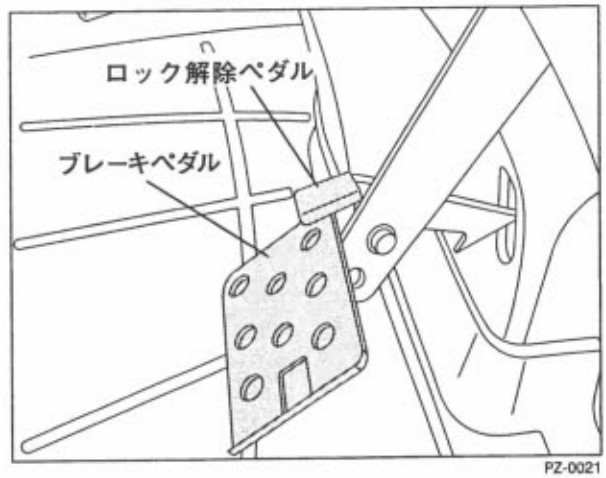
PZ-0091

# 6.3 植付作業の手順

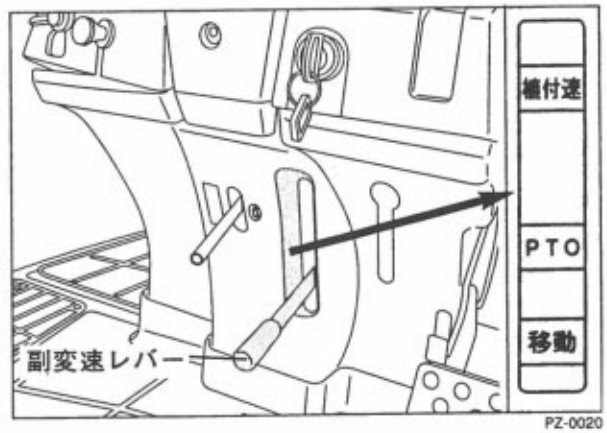
**⚠警告**

**ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」にしないでください。**
※ 田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

**1** ブレーキペダルを踏み込み、ロックします。




**2** 副変速レバーを「PTO」（☞34ページ）にします。

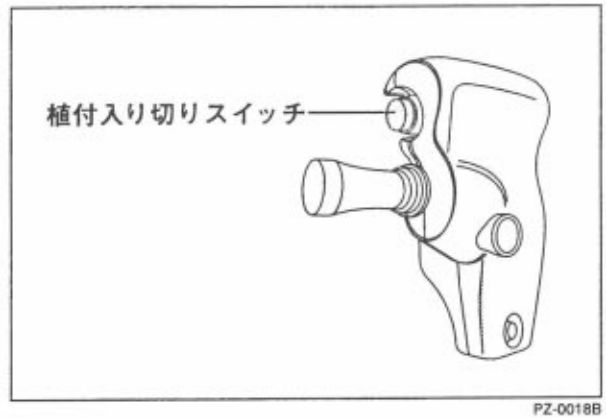



**3** 電動マーカを収納位置から作業位置にしてください。（☞62ページ）

**4** 隣接マーカ、しゅう動板、しゅう動板ガード（スタンド）を作業位置にセットしてください。（☞62~63ページ）

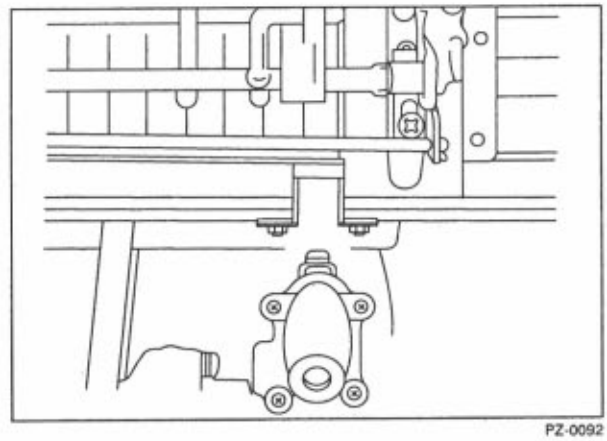
**5** ブレーキペダルのロックを解除します。（☞61ページ）

**6** 植付入り切りスイッチを押して植付クラッチを「入」（☞33ページ）にします。

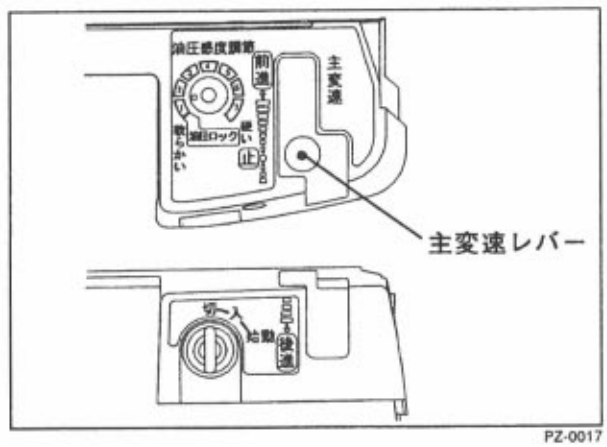


PZ-0018B

**7** 主変速レバーをゆっくりと「前進」にし、苗のせ台を左または右側に寄せて植付入り切りスイッチを押して植付クラッチを「切」にしてください。

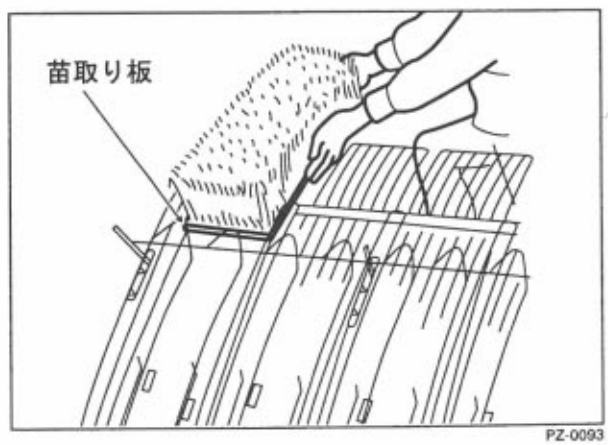

PZ-0092

**8** 主変速レバーを「止」にし、ブレーキペダルを踏み込みロックしてください。



PZ-0017

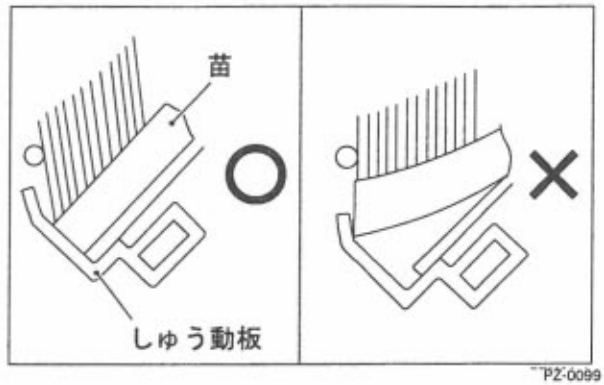
**9** 苗取り板で取った苗を、苗のせ台にていねいにのせてください。



PZ-0093

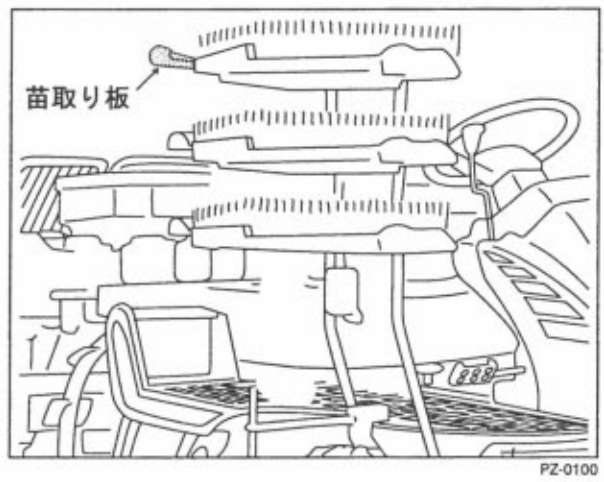
**補　足**

- **PZシリーズは、苗のせ台に苗が2枚搭載できます。**
- **苗がしゅう動板の所で浮き上がらないようにのせてください。**
- **苗のせ台を左または右端に寄せてから苗をのせてください。**
- **根張りの悪い苗は振動で形がくずれてしまうため、育苗箱に入ったままの状態で補助苗枠にのせてください。**




**10** 副変速レバーを「植付速」、主変速レバーを前進にして、低速でほ場の端に移動してください。

**11** 電動マーカを次の行程で植える側に出してください。

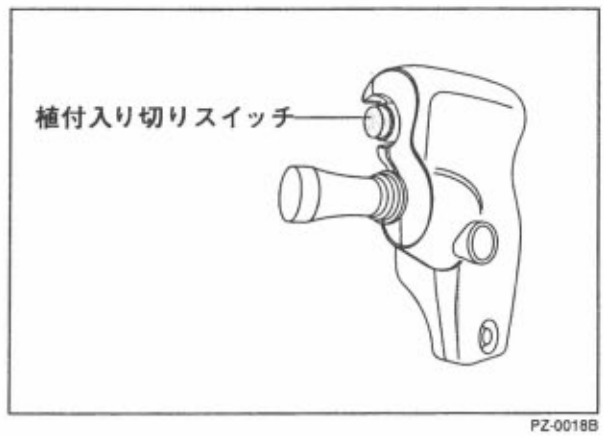



**12** 植付入り切りスイッチを押して植付クラッチを「入」（☞33ページ）にしてください。

**13** 主変速レバーをゆっくりと前進側に動かし、植付を始めてください。

**補　足**

- **植付作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから、連続作業を行ってください。**
- **ほ場の状態、苗の条件により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最も良い速度を選んでください。**



# 6.3.1 枕地一行程植えのしかた

## ■PZ60C型、PZ70型（あぜが低い場合可能です）

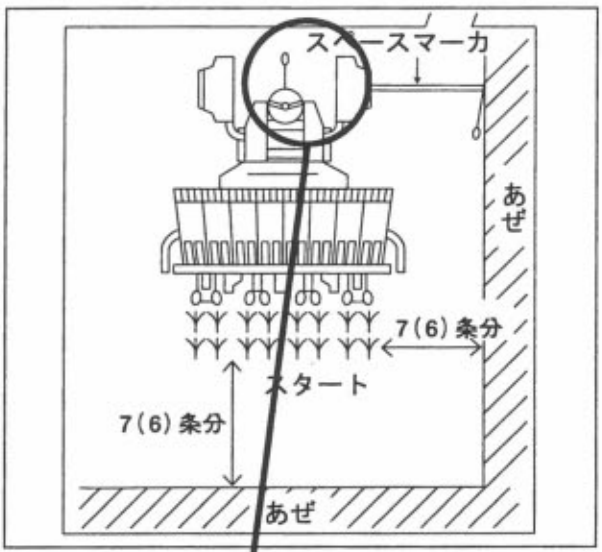
**⚠注意**

**高圧線、架線電線による感電に注意してください。**
※ スペースマーカは素材特性上、電気をよく通します。

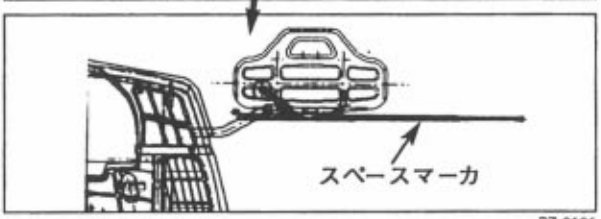
**1** スペースマーカ（あぜ際マーカ）をいっぱいに引き伸ばし、苗枠を90°回動させてあぜに沿わせ6または7条分をあけて植えます。

**補　足**

- **スペースマーカ（あぜ際マーカ）伸縮時は、ロック位置付近でひねりながら行うとスムーズに行えます。**




**2** 前輪があぜにあたるまで植えます。

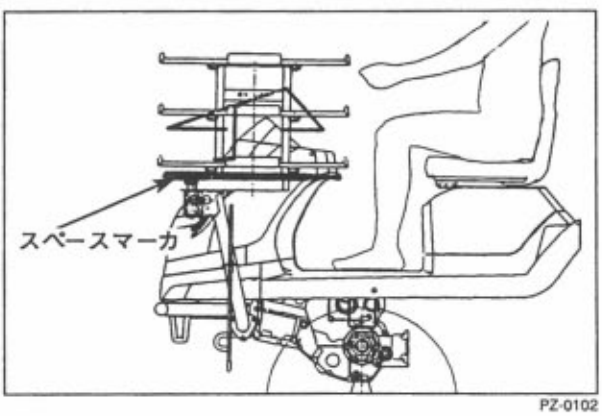



PZ-0101

**3** スペースマーカ（あぜ際マーカ）をホルダに押し込んで固定してください。

**4** 主変速レバー（☞32ページ）を「後進」にして旋回可能なところまでさがります。

**5** 主変速レバー（☞32ページ）を「前進」にして、ステアリング（ハンドル）を回し旋回してください。



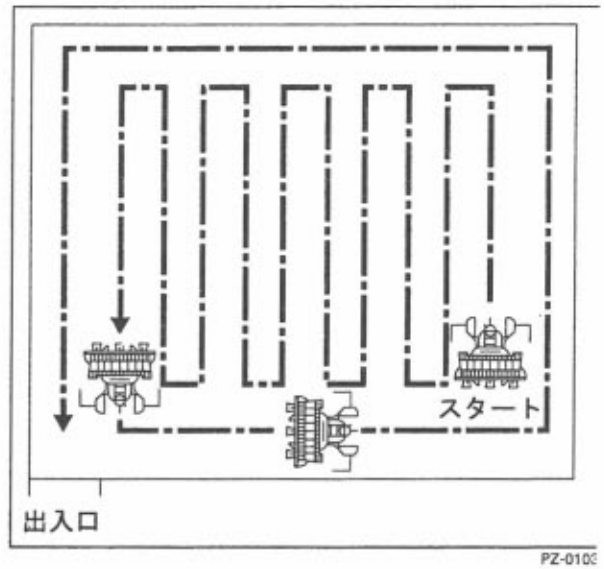

PZ-0102

**6** センターマスコット、隣接マーカで隣接条との条間を合せ、機体の進行方向にまっすぐ向けて植え始めてください。

**7** 最後にほ場を一回りして植付すると、植え残しがなく効率よく田植えができます。

**補　足**

- **スペースマーカ（あぜ際マーカ）を使用した後は必ず収納してください。（あぜ等に当たり変形するおそれがあります。）**
- **スペースマーカ（あぜ際マーカ）伸縮時は、ロック位置付近でひねりながら行うとスムーズに行えます。**



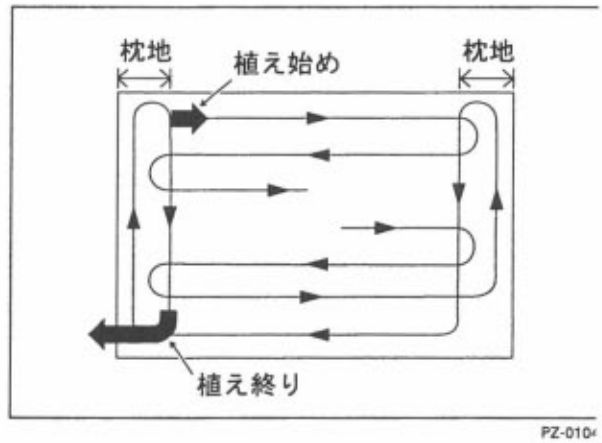

PZ-0103

## 6.3.2　枕地のとりかた

枕地はあらかじめ1往復分残して植付ければ、能率的に枕地植えが行えます。

**補　足**

- **ほ場が長方形でない場合は、まっすぐで最も長いあぜに沿って植え始めると、きれいに植付ができます。**




PZ-0104

# 6.3.3 さなえZターンを使った旋回のしかた

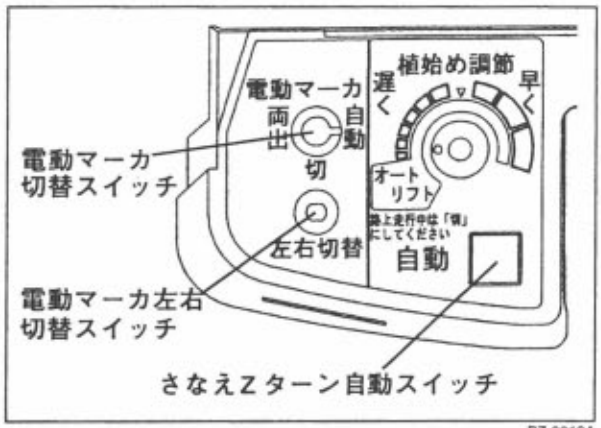
**1** さなえZターン自動スイッチを「入」にします。(「入」で点滅します)

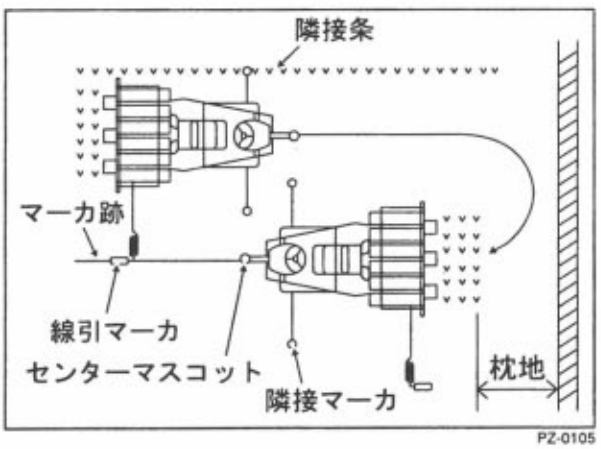
**2** 電動マーカ切替スイッチを「自動」「両出し」のどちらかにします。
(さなえZターン自動スイッチが点灯します)

**3** あぜに近づいたら、主変速レバーを低速にします。

**4** あぜから枕地分手前で、ステアリング（ハンドル）をいっぱい回してください。植付クラッチが自動で「切」になり、植付部が自動で上がります。

**5** センターマスコット、隣接マーカで隣接条との条間をあわせ、機体を進行方向にまっすぐ向けてください。植付部が自動で下がり植付クラッチが自動で「入」になり植付が始まります。(植付が始まる時に、1回センターマスコットが点灯し、ブザーが鳴ります。) モニタランプの「植える」の点灯と電動マーカが次の植付行程側に出たのを確認して植え進んでください。




**補　足**

- **さなえZターンは変形田、補助車輪をつけた時や深いほ場では正常に作動しないことがあります。**
- **ほ場外の移動の時は、安全のため必ずさなえZターン自動スイッチを「切」にしてください。**
- **電動マーカのスイッチを「切」にしていると、さなえZターンは作動しません。(自動スイッチが点滅します)**
- **畦ぎわまで植付し、バックして旋回する場合はバックしすぎると、植付を合わせることができないためステアリング（ハンドル）を回した時にブザーが鳴り、さなえZターンは作動しません。**
  **(さなえZターン自動スイッチのランプが点滅します)**
- **さなえZターン自動スイッチを「入」にしてさなえZターンが作動していれば旋回時、植付部が上がってから下がるまでブザーが鳴ります。**
- **電動マーカは、植付部を上下しなくても、マーカ左右切替スイッチを操作することで左右交互に倒れます。**
- **センターマスコットは、1行程前に線引マーカでつけたマーカ跡に合せると隣接との条間が合います。**
- **隣接マーカは、1行程前に植付けられた隣接条に合せると条間が合います。**

# 6.3.4 さなえZターンを使わない旋回のしかた

**1** さなえZターン自動スイッチを「切」にします。

**2** あぜに近づいたら、主変速レバーを低速にします。

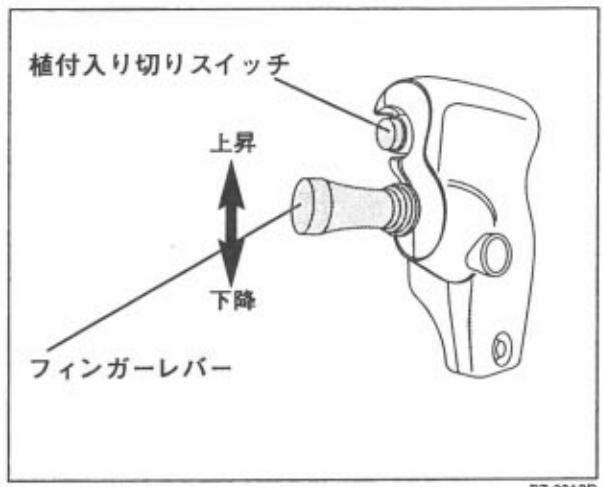
**3** あぜから枕地分手前で、フィンガーレバーを「上昇」に操作し、ステアリング（ハンドル）をいっぱい回してください。

**4** フィンガーレバーを旋回後「下降」に操作してください。（電動マーカが次の植付行程側に出たのを確認してください。）

**5** 枕地分をすぎた所で植付入り切りスイッチを押して、植付クラッチを「入」にし、モニターランプの「植える」の点灯を確認して、植え進んでください。

**補　足**

- **さなえZターン自動スイッチを「切」にしても、バックリフトは作動します。**



PZ-0018D

## 6.3.5 電動マーカの使いかた

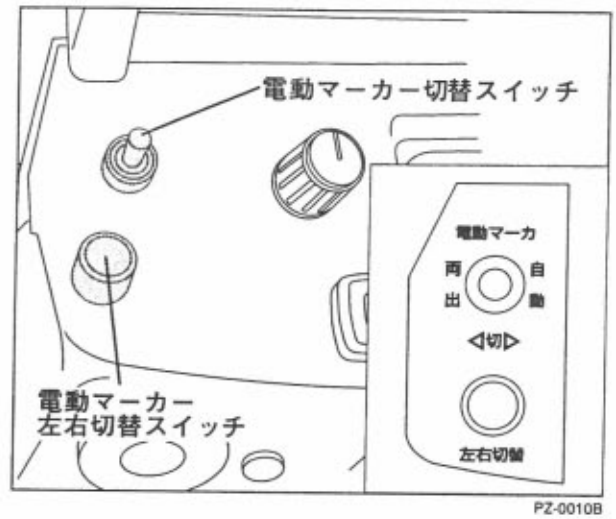
(1) 電動マーカ切替スイッチを「自動」にすると、電動マーカが出る側のオートマーカモニターランプが点灯します。

(2) 電動マーカの出る方向を切り替えるときは、電動マーカ左右切替スイッチを押すと、左右交互に切り替わります。

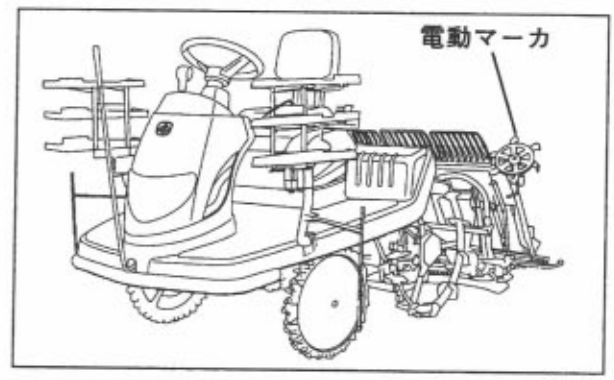
(3) フィンガーレバーを操作し、植付部を下げると、電動マーカが出ます。

**補　足**

- **電動マーカの左右切り替えは、電動マーカ左右切替スイッチの操作で植付部が下がっていても切り替えることができます。**



PZ-0010B



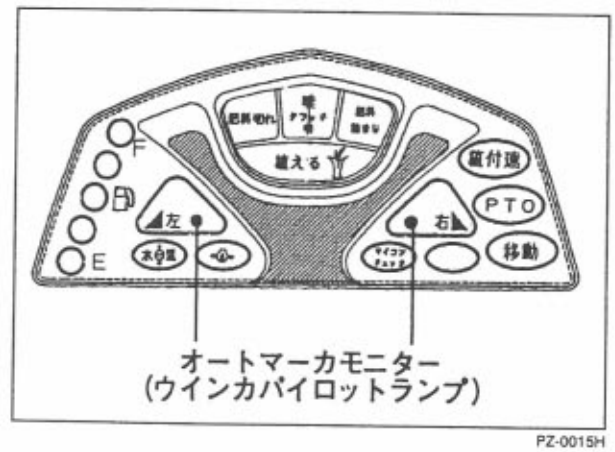
PZ-0011

## 6.3.6 電動マーカ両出しのしかた

電動マーカ切替スイッチを「両出し」にすると、左右の電動マーカが同時に出るようになります。
このとき、電動マーカモニターランプが左右とも点灯します。

**補　足**

- **フィンガーレバーを「上昇」に操作するか、電動マーカ切替スイッチを「切」にすると、両側の電動マーカは出ません。**



PZ-0015H

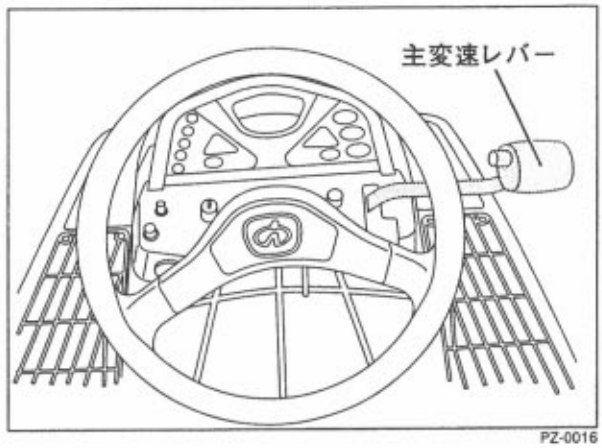
# 6.3.7 バックリフトの使いかた

(1) 植付部が下降状態のとき、主変速レバーをバック操作（「後進」位置）すると、植付部が上昇します。

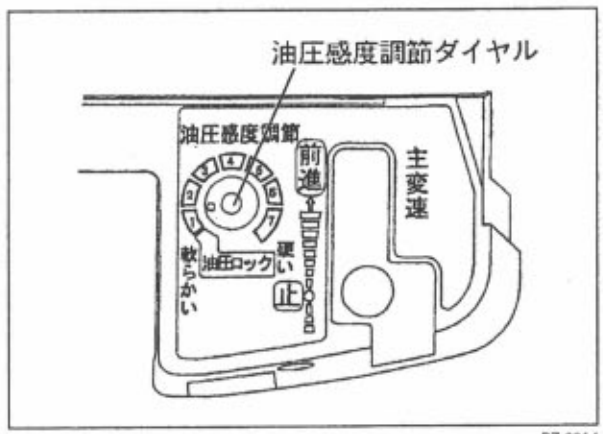
(2) 油圧感度調節ダイヤルを油圧ロック位置にしているとバックリフトしません。

**補 足**

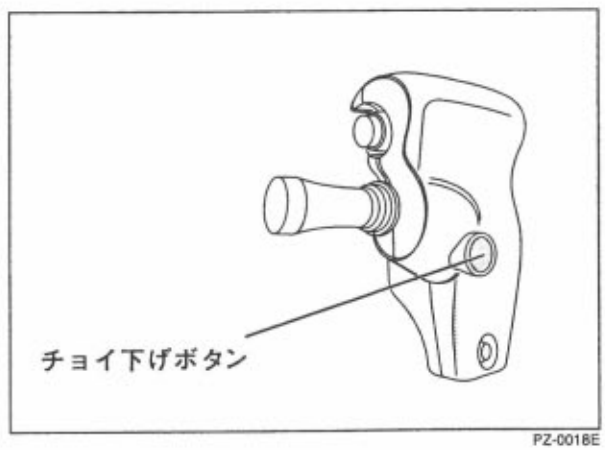
- **バックしていても、チョイ下げボタンの下げ操作で、バックリフトより優先して植付部を下降させることができます。**
- **さなえZターン自動スイッチを「切」にしていてもバックリフトは作動します。**



PZ-0016



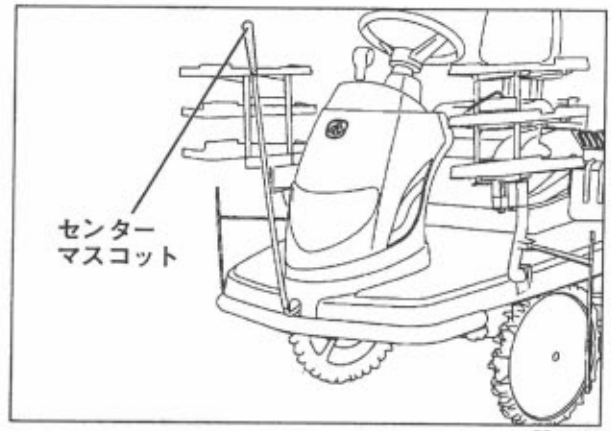
PZ-0014



PZ-0018E

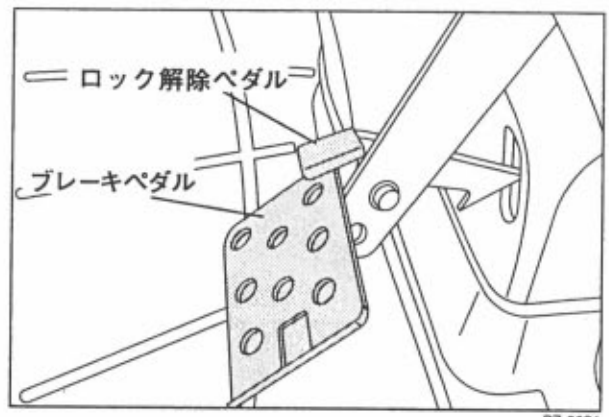
# 6.3.8 苗の補給

**1** 苗が一定量まで減少すると、センターマスコットが点滅します。



PZ-0012A

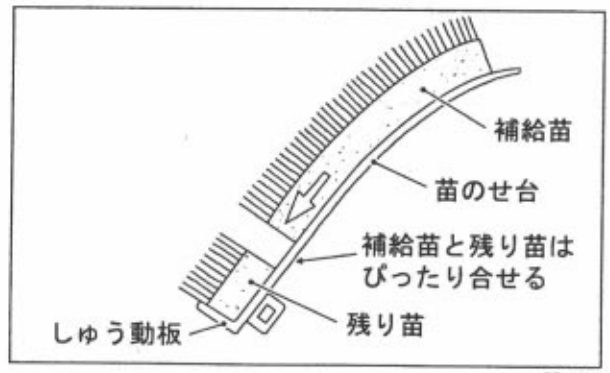
**2** ブレーキペダルを踏み込み、ペダルを固定します。



PZ-0021

**3** 補助苗を苗取り板で取り、上の方からゆっくりと苗のせ台にすべりこませてください。

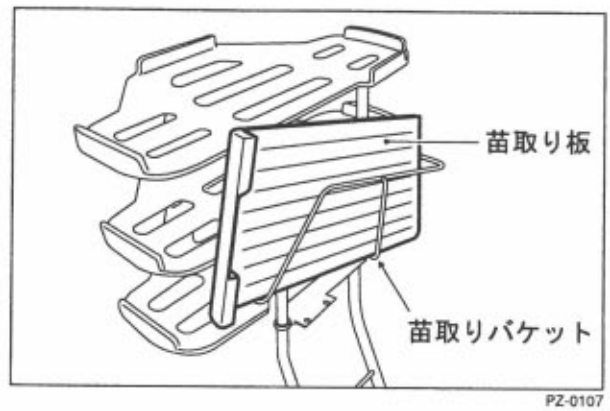
**4** 苗補給が終ったら、ブレーキペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、足を離して主変速レバーをゆっくり操作し発進してください。



PZ-0106

**補　足**

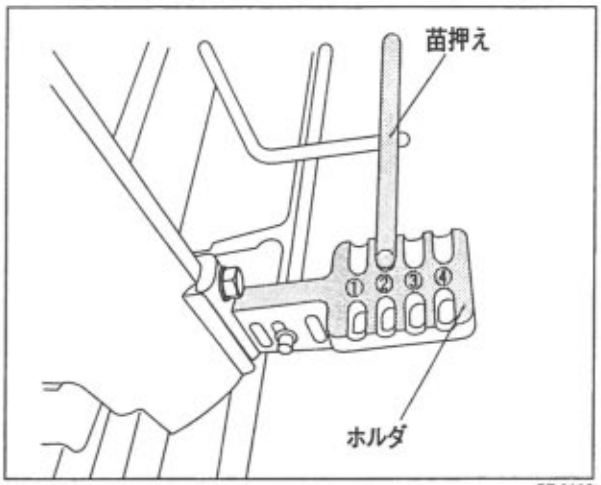
- **苗補給するときには、残り苗と補給苗がぴったり合うように注意してください。**
- **苗補給後の苗取り板は苗取りバケットに入れてください。**



PZ-0107

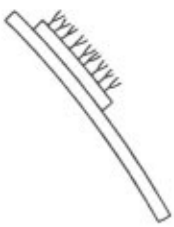
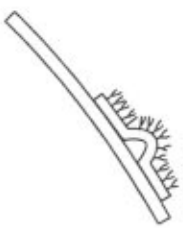
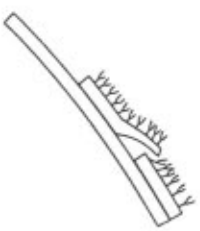
# 6.3.9 苗押えの調節

使用する苗の条件により、苗押えの調節をしてください。
苗押えの標準（出荷）位置は②の位置です。



PZ-0108

標準位置で試し植えをして、不調時は、下記要領で調節してください。

| 不調な場合の現象 | | 苗押えの位置 |
|---|---|---|
| ●苗のせ台にのせた苗がすべらず落ちていかない。 |  | ③又は④ |
| ●苗がめくれてつぶれる。 |  | ① |
| ●つぎ足した苗が重なる。 |  | ① |

PZ-0109

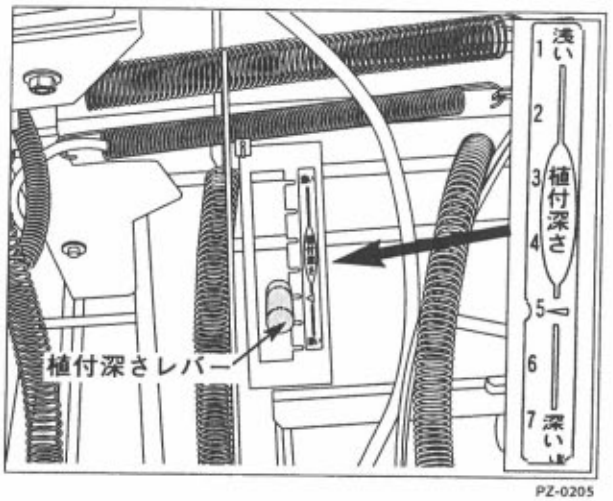
## 6.3.10 ロータの動かしかた

1) ロータ高さ調節レバーを植付深さレバーの番号と同じ番号に合わせ、ロータの均平深さを決めます。

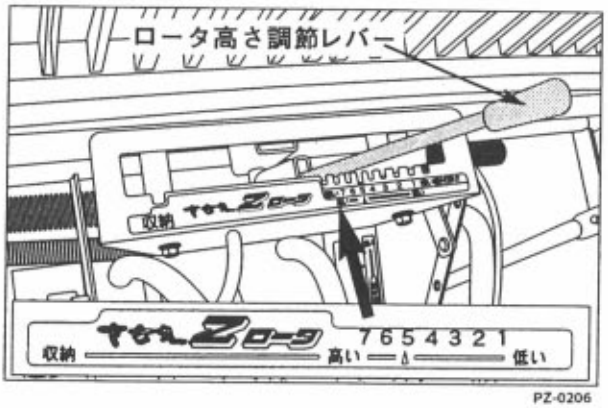
2) ロータは後車輪と連動しているため、後車輪が回ると、ロータも回転します。

3) ロータの駆動は植付部の昇降に連動してクラッチの「入」「切」をします。植付部が下るとロータが回り、上るとロータは止まります。

4) ロータを使用しない場合は、ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にして作業してください。



PZ-0205



PZ-0206

**補 足**

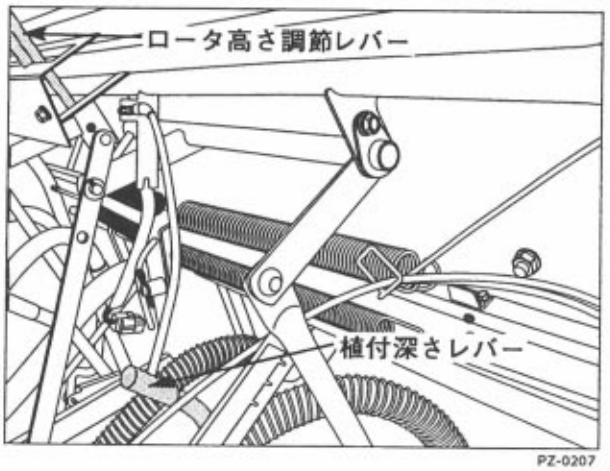
- **ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にすると、ロータは回りません。**

## 6.3.11 ロータの高さ調節

1) 植付深さを調節する時はロータ高さも同時に調節してください。
2) ロータ高さ調節レバーは植付深さ調節レバー位置の番号と同一番号で使用し、表面の仕上がり状態を見ながら、状態の悪いときはその位置を基準に「高い」「低い」側に調節してください。

**補 足**

- **ロータがフロートに対し深くなりすぎると泥押しが多くなり隣接苗を押し倒すことがあります。**
- **ロータがフロートに対し浅くなりすぎると、整地性能が悪くなり、浮き苗になることがあります。**
- **表土の柔かいほ場でロータを使うと苗が浮いたり、流れたりすることがあります。その場合はロータを「収納」にしてください。**



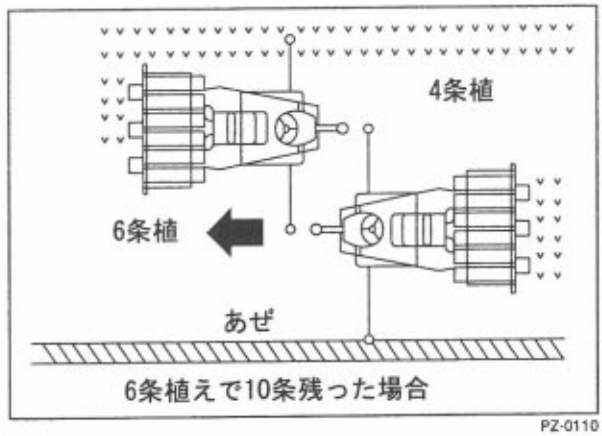
PZ-0207

# 6.3.12 植えじまい

植付の最終行程（あぜ際での植付）を使用機械の条数に合せるためには、前行程で植付条数の調整をする必要があります。
任意の条数を植えたいときは、畦クラッチレバーと苗ストッパを使って行ってください。

**補 足**

- **苗の葉を両手で持つと苗がくずれるような弱い苗で、長い距離を特定条のみ植付停止する場合は、苗ストッパを使用してください。**
  **畦クラッチレバーを使用すると、停止条の苗がくずれ植付再開時、欠株を生じる場合があります。**



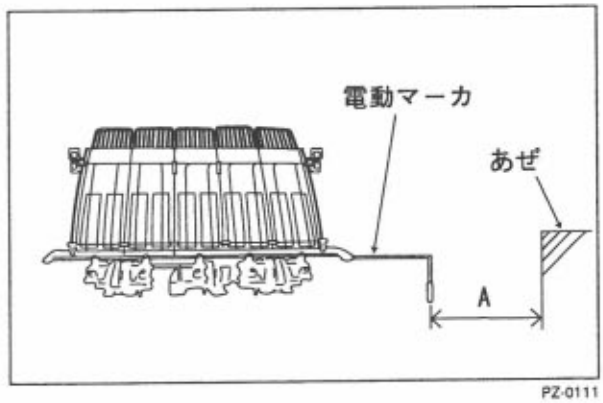
PZ-0110

## ■最終行程での植付条数の決めかた

センターマスコットと隣接マーカで条合せした後、電動マーカを出し植付条数を決めてください。

(1) PZ50（5条）

| Aの距離 | |
|---|---|
| 90 cm程度のとき | 5条植え |
| 60 cm程度のとき | 4条植え |
| 30 cm程度のとき | 3条植え |
| 0 cm程度のとき | 2条植え |
| あぜへ30 cm程度のり上げるとき | 1条植え |



PZ-0111

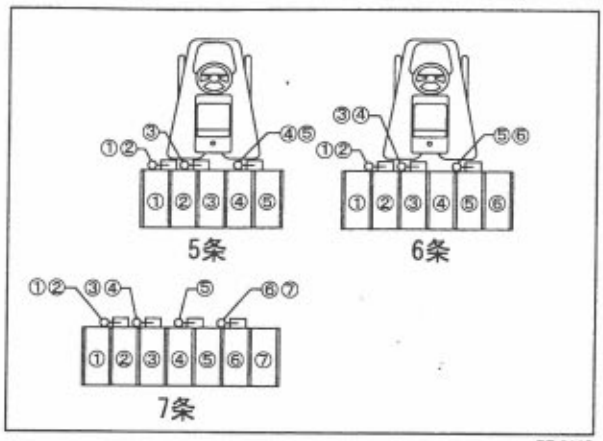
(2) PZ60（6条）

| Aの距離 | |
|---|---|
| 105 cm程度のとき | 6条植え |
| 75 cm程度のとき | 5条植え |
| 45cm程度のとき | 4条植え |
| 15cm程度のとき | 3条植え |
| あぜへ15 cm程度のり上げるとき | 2条植え |
| あぜへ45 cm程度のり上げるとき | 1条植え |

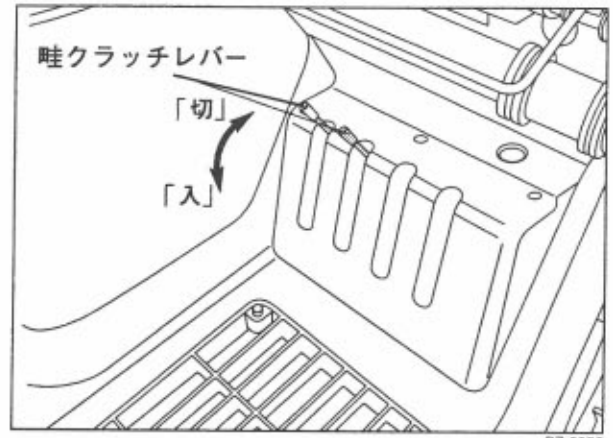
(3) PZ70（7条）

| Aの距離 | |
|---|---|
| 120 cm程度のとき | 7条植え |
| 90 cm程度のとき | 6条植え |
| 60cm程度のとき | 5条植え |
| 30cm程度のとき | 4条植え |
| 0cm程度のとき | 3条植え |
| あぜへ30 cm程度のり上げるとき | 2条植え |
| あぜへ60 cm程度のり上げるとき | 1条植え |

畦クラッチレバーを「切」位置にすることにより、下図に示す条の植付を停止することができます。



PZ-0112

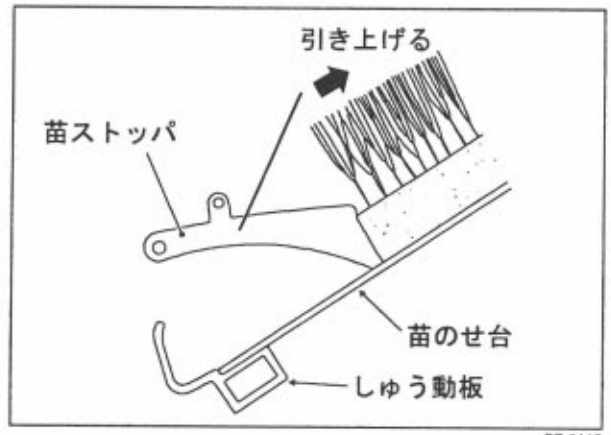


PZ-0026

**補　足**

- **畦クラッチレバーを「切」位置で使用した後は、必ず「入」位置に戻してください。**

1条単位で植付を停止したいときには、植付を止めたい条の苗を上に引き上げ、苗ストッパを右図のように取り付けてください。



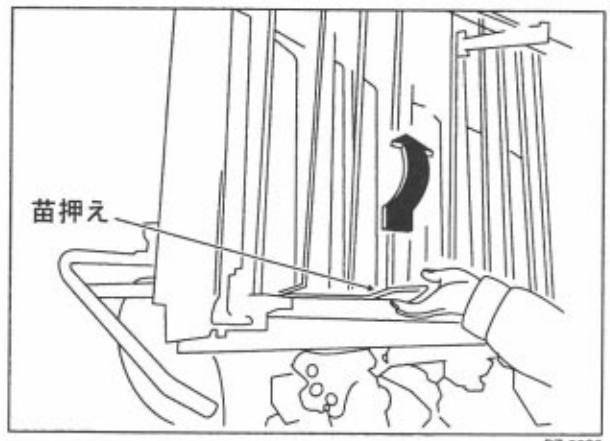
PZ-0113

## 6.3.13　残り苗の取り出し

植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、苗押えを上に引き抜き、ガイド穴から外し、上側に回してください。

**補　足**

- **苗の取り出しが終ったら、苗押えは必ず作業位置（ガイド穴）に戻してください。**



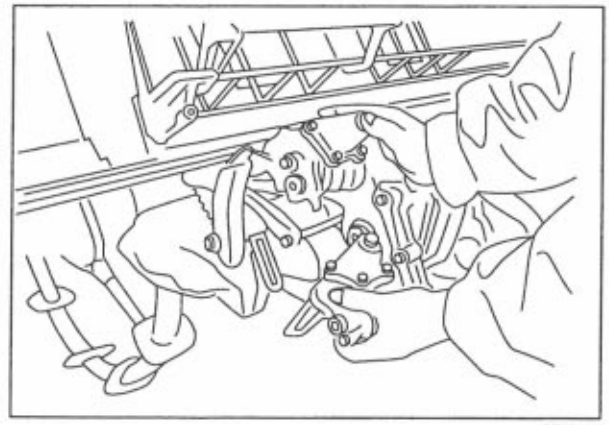
PZ-0029

# 6.3.14 安全クラッチが作動したとき

**⚠注意**

**安全クラッチの確認は、必ずエンジンを停止して行ってください。**
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

植付作業中、植込杆が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いています。次の処置をしてください。


PZ-0114

1 ただちにブレーキペダルを踏み込み、ロックさせます。

2 副変速レバーを「PTO」位置にし、植付入り切りスイッチで植付クラッチを「入」にし、エンジンを停止します。

3 苗取口と植付爪の間、植込杆とフロートの間等に石等をかんでいないか確認し、取り除いてください。

4 植込杆が軽く回動するか、しゅう動板との干渉はないか、植付爪は変形していないかを確認してから植付を再開してください。

5 植付爪が変形している場合には、交換してください。

**補 足**

- **植付爪が曲がったり破損したときは、お買い上げ先へご連絡ください。**

# 7. 点検整備

## 7.1 定期的な点検整備

### ⚠危険

**作業中は火気厳禁です。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

### ⚠警告

**取扱説明書に従って定期点検を実施してください。**
※ 田植機を長持ちさせるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。

**点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。**
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。**
※ 暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

**点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、植付部を降ろすか油圧感度調節ダイヤルで「油圧ロック」位置にしてから行ってください。**
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

**点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。**
※ 間に合せの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良により傷害事故を引き起こします。

**点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。**
※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。

**点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。**
※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。

**傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。**
※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

## ⚠警告

**エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。**
エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※　守らないと、やけど等の原因となります。

**ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。**
運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。
※　守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

**指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。**
※　守らないと、故障や事故の原因となります。

# 7.1.1　点検、給油、調整一覧表

○：点検　△：給油　×：交換

| | 点検・給油・調整項目一覧 | 点検時間 作業前後 | 50時間ごと | 100時間ごと | 不調時 | 備考 | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| エンジン部 | エンジンオイル | ○ | × | | | ヰセキ純正オイル10W30#または30#（SE級以上）<br>7条、6HG-1.2ℓ<br>6、5条-1.1ℓ | 105 |
| | オイルフイルタ | 200時間ごとに交換 | | | | | 107 |
| | エアクリーナエレメント洗浄 | | | ○ | | スポンジエレメントは25時間ごと | 111 |
| | 燃料フィルタの清掃 | | | ○ | | または毎シーズン始め | 114 |
| | 点火プラグの清掃 | | | | ○ | 毎シーズン始め | 112 |
| | ラジエータ冷却水 | ○ | | | | 1年1回交換（約2.2ℓ） | 108 |
| | ラジエータの清掃 | | | | ○ | 冷却水交換時 | 111 |
| 走行部 | チェンジミッション<br>ギヤボックス部（黒色キャップ） | 分解時給油 | | | ○ | "ヰセキハイポイドギヤーオイル80#<br>7、5条-8ℓ<br>6条-9ℓ | 49 |
| | 油圧サクションフィルタ | | | ○ | | オイル交換時清掃 | 115 |

| | 点検・給油・調整項目一覧 | 点検時間 作業前後 | 50時間ごと | 100時間ごと | 不調時 | 備考 | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 走行部 | チェンジミッション油圧タンク部（黄色キャップ） | | × 初回のみ30時間で交換 | | ○ | キセキU·T·Hオイル 5ℓ | 49 |
| | 油圧オイルフィルタ | | | × 初回のみ30時間で交換 | ○ | | 114 |
| | リヤミッションオイル | 分解時給油 | | | | キセキハイポイドギヤーオイル 80# 左右1.3ℓ | 116 |
| | 植付クラッチケースオイル | 分解時給油 | | | | キセキハイポイドギヤーオイル 80# 0.5ℓ | 117 |
| | ブレーキペダルの点検 | ○ | | | | 毎シーズン始め | 35 |
| | 注油指定箇所 | △ | | | | 注油 | 52〜54 |
| | バッテリーの点検 | ○ | | | | 毎シーズン始め | 118 |
| 植付部 | 植付部フレーム | 分解時給油 | | | | キセキハイポイドギヤーオイル 80# 0.3ℓ | 44 |
| | サイドフレーム | 分解時給油 | | | | キセキハイポイドギヤーオイル 80# 各0.4ℓ | 44 |
| | ロータリーケース | 分解時給油 | | | | ユニループ00#各100g | 44 |
| | 植込杆 | | ○ | | | ウエコミカングリス各17.5g (ワンルーバーMP1#) | 50 |
| | フィンガ13.5/Z (植付爪) 交換調整 | ○ | | | × | 摩耗、変形時 毎シーズン始め点検 | 122 |
| | リードメタル | | ○ | | | ウエコミカングリス10g (ワンルーバーMP1#) | 50 |
| | 注油指定箇所 | △ | | | | 注油 | 52〜54 |
| その他 | 電気配線の接続部（カプラ）のゆるみ、損傷、ヒューズ等の点検 | | | | ○ | 毎シーズン終了後 | 118〜121 |
| | 各ワイヤの点検調整 | | | | ○ | 毎シーズン始め | |

| 点検項目 | | 部　所 | シーズン前 | 運転前 | シーズン後(格納時) | 整備内容 | 備　考 | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ロータ | 各摺動部のガタ、ゆるみ | ロータ部<br>ロータ支持フレーム部 | ○ | ○ | | 調　整 | | 41 |
| | 摩　耗 | ロータ | ○ | ○ | ○ | 点検、交換 | | 41 |
| | 給油箇所 | P41参照 | ○ | ○ | ○ | 給　油 | | 54 |
| | 給油箇所 | ロータケース | 分解給油時 | | | 調　整 | グリス150cc | |
| | | チェーンケース（右側） | | | | | ギヤーオイル300cc | |
| | | チェーンケース（左側） | | | | | ギヤーオイル350cc | |

# 7.1.2 エンジンオイルの交換

**⚠危険**

**オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

**作業中は火気厳禁です。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

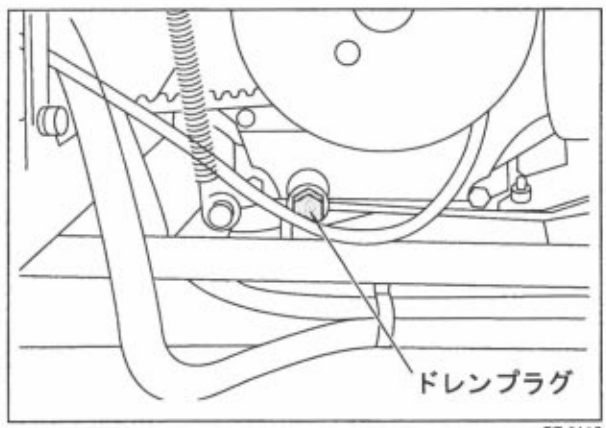
**補 足**

- **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。**
  **お買い上げ先にご相談ください。**

## ■PZ50、60（HV型）

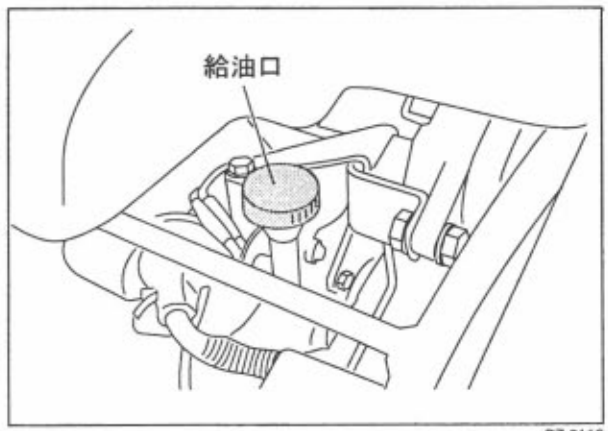
**1** エンジンを暖機運転後、ドレンプラグを外しオイルを抜いてください。

**2** ドレンプラグを締め付けてください。



PZ-0115

**3** 給油口からエンジンオイルを給油してください。（☞ 46ページ）



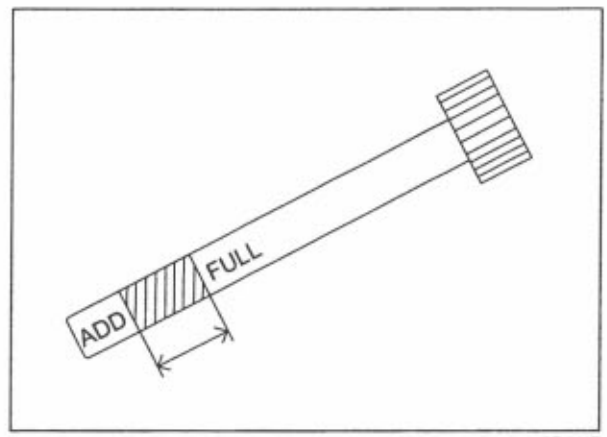
PZ-0116

**4** オイルレベルゲージ（給油栓）の上下刻線の間に油量があるか調べます。
適量入っていればオイルレベルゲージ（給油栓）を確実に閉めてください。

| 機種 | 搭載エンジン | オイル量 |
|---|---|---|
| PZ50<br>PZ60<br>(HC型) | FJ400D | 1.1 ℓ<br>(オイルフィルタ交換時<br>1.3 ℓ) |

**補　足**

- **オイルレベルゲージ（給油栓）をねじこまずに点検してください。**

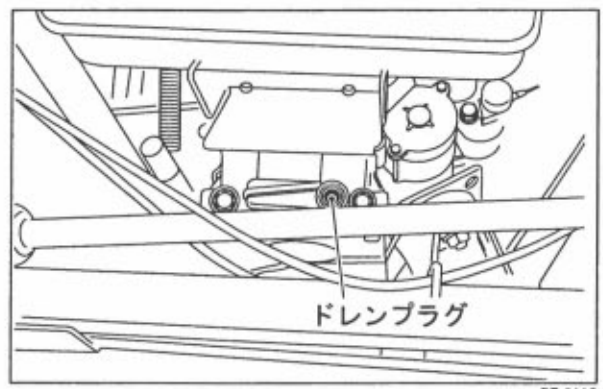


PZ-0117

## ■PZ70、60HG型

**1** エンジンを暖気運転後、ドレンプラグを外しオイルを抜いてください。

**2** ドレンプラグを締め付けてください。



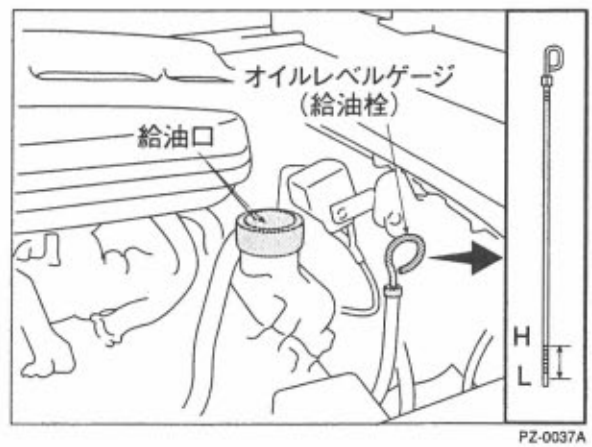
PZ-0118

**3** 給油口からエンジンオイルを給油してください。
（☞ 46ページ）

**4** オイルレベルゲージ（給油栓）の上下刻線の間に油量があるか確認してください。

| 機種 | 搭載エンジン | オイル量 |
|---|---|---|
| PZ70、60HG型 | FD501D | 1.2 ℓ<br>(オイルフィルタ交換時<br>1.5 ℓ) |

**5** オイルレベルゲージ（給油栓）を閉めてください。
ドレンプラグを締め付けてください。



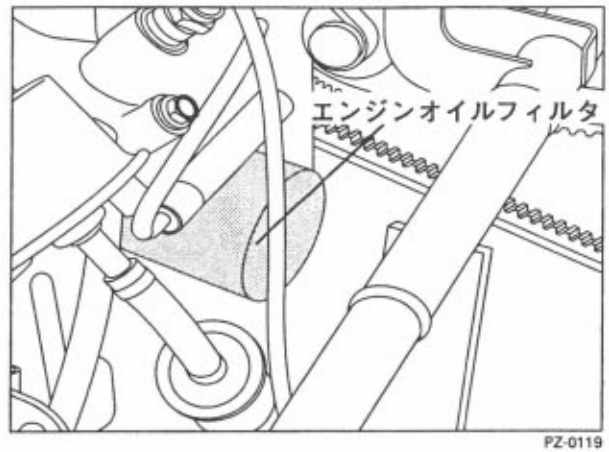
PZ-0037A

# 7.1.3 エンジンオイルフィルタの交換

**1** オイルフィルタを反時計方向にねじって外します。

**2** 新しいフィルタと交換し、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬってください。

**3** 元どおりに締め付けてください。




| 交換用フィルタ | |
|---|---|
| 部品コード | 品 名 |
| 5490-652-071-×× | オイルフィルタ |

**補 足**

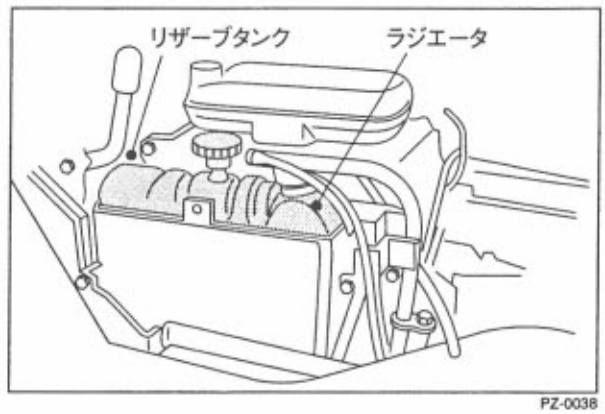
- **交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけオイルが減ります。規定量までオイルを追加してください。**

# 7.1.4 冷却水の点検

## ■リザーブタンクの点検(PZ70、60HG型)

**1** エンジンカバーを開けてください。
(☞ 46ページ)

**2** エンジン後部にあるリザーブタンクのキャップを外してください。



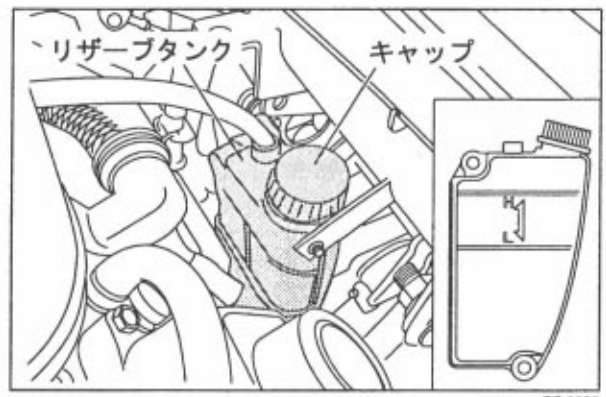
PZ-0038

**3** リザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内(H⇔L)にあるかどうか点検し、少ない場合はHラインまで補給してください。

**補 足**

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**

**4** 点検後リザーブタンクのキャップを確実に閉め、エンジンカバーを閉じてください。



PZ-0039

## ■ラジエータの点検(PZ70、60HG型)

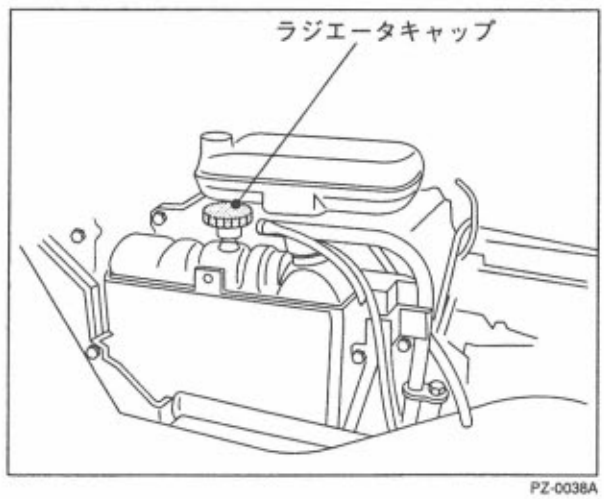
**1** ラジエータキャップを外してください。

**2** 「口元」まで入っているかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

**補 足**

- **冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。**

| 不凍液 |
|---|
| モービル石油:モービルロングライフクーラント<br>シェル石油 :アンチフリーズ<br>他有名メーカ品を使用 |



PZ-0038A

**3** ラジエータキャップを閉めてください。

# 7.1.5 ラジエータホース（PZ70、60HG型）

## ⚠注意

**ラジエータホースは使わなくても劣化します。シーズン前には、締付バンドのゆるみ、ホースの傷を必ず点検し、2年ごとに交換してください。**

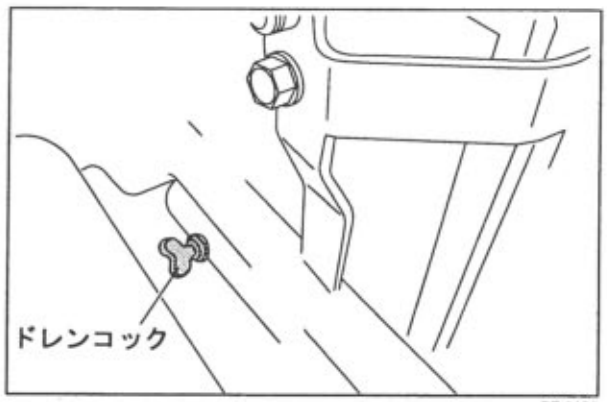
※ ラジエータホースが運転中に破損すると、熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

### ■交換

**1** エンジン右側のドレンコックを開けて冷却水を抜きます。

**補 足**

- **ラジエータキャップを同時に開けると、冷却水は勢いよく排出されます。**



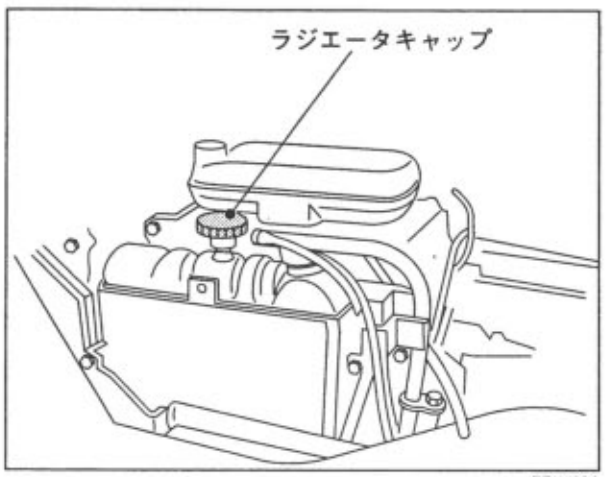
PZ-0120

**2** 水道水でラジエータ内部をよく洗浄してください。

**3** 冷却水は不凍液濃度50%のものを約2.2ℓ 用意してください。

**4** ドレンコックを閉じてください。

**5** 冷却水を注入し、ラジエータキャップを確実に締めてください。



PZ-0038A

**6** エンジンを始動してください。

**7** 約5分間ほどアイドリング回転で運転し、再度冷却水の量を確認し不足していれば補給してください。

## ■不凍液の使い方

**注 意**

**冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。**
※ 冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。

(1) 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
(2) 不凍液の混合は、不凍液メーカや気温により異なります。不凍液メーカの説明書に従ってください。
(3) 不凍液は水とよく混合し、注入してください。
(4) 不凍液の補給
  (a) 蒸発の場合
    冷却水が減った分だけ、水を補給してください。
  (b) ブリーザより漏れた場合
    同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

**補 足**

- **不凍液は産業廃棄物にあたります。河川、土壌への廃棄は行わないでください。廃棄するときはお買い上げ先にご連絡ください。**

## ■ラジエータコアの清掃

**注 意**

**強い圧力水をかけないでください。**
※ 守らないと、フィンが変形することがあります。

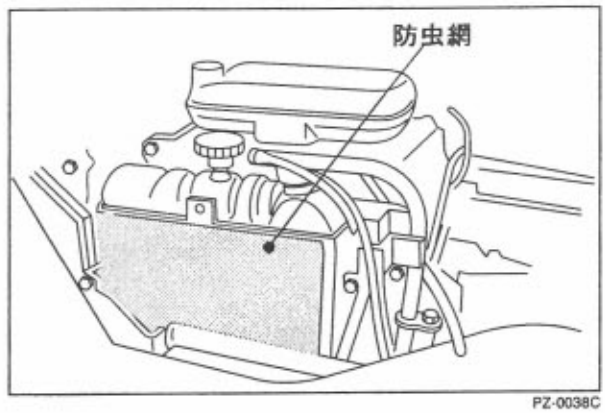
**エンジンのまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。**
※ 守らないと、故障の原因となります。

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は、水道水で流してください。

# 7.1.6 ラジエータの清掃（PZ70、60HG型）

## ■防虫網の清掃

夜間の走行をすると、ラジエータに虫が付着し詰まることがあります。
防虫網を引き出して清掃してください。



PZ-0038C

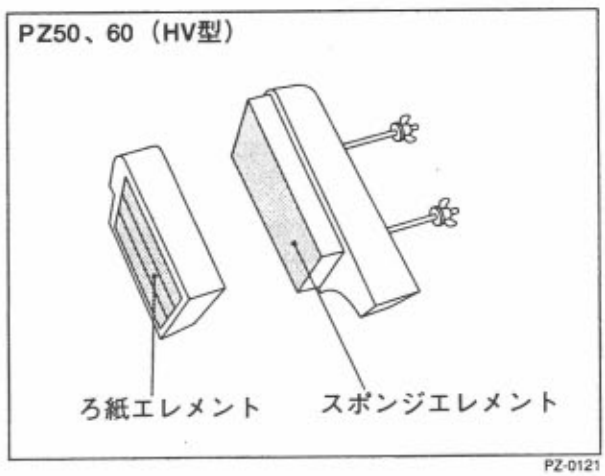
# 7.1.7 エアクリーナエレメントの洗浄

## ■スポンジエレメント

25時間ごとに清掃してください。

1 石けん液で洗浄した後、水洗いし、よく乾燥させてください。

2 エンジンオイルに浸して固く絞ってから取り付けてください。



PZ-0121

## ■ろ紙エレメント

100時間ごとに清掃してください。

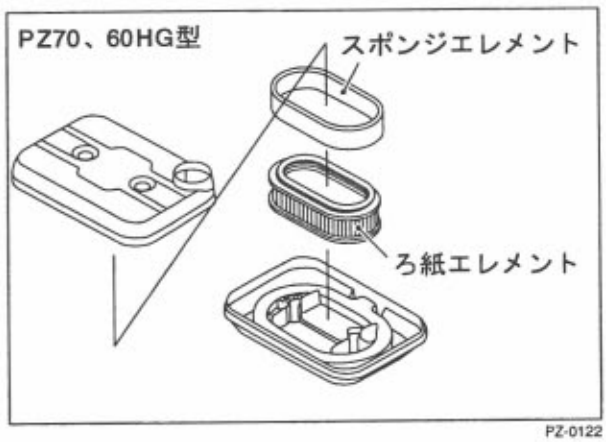
1 軽く叩いてホコリを落としてください。

2 汚れのひどい場合は新品に交換するか、石けん液で洗浄した後、水洗いしてください。

3 よく乾燥させてから取り付けてください。

**補　足**

- **ホコリの多い場所では運転前に点検し、早めに清掃してください。**

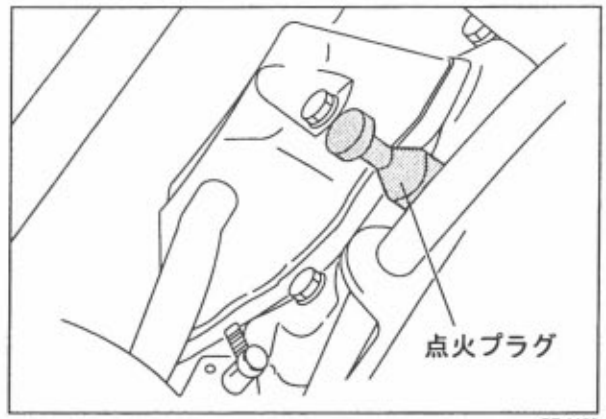


PZ-0122

# 7.1.8 点火プラグの清掃

## ■PZ50、60（HV型）

**1** 付属のボックスレンチで点火プラグを取り外してください。



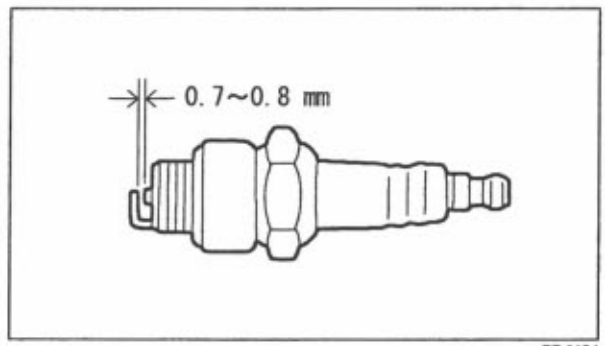
PZ-0123

**2** 点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7～0.8 mmに調整してください。

**補　足**

- **使用点火プラグはNGK BPR4ESです。**

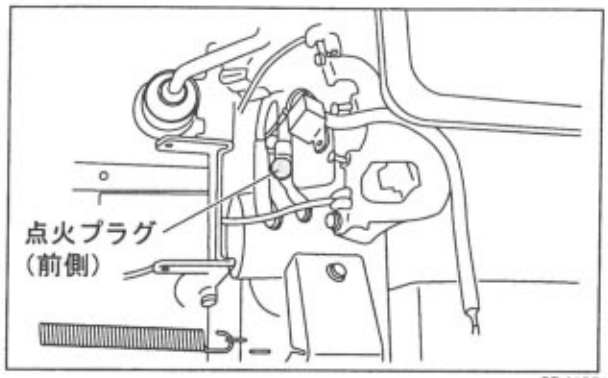
**3** 点火プラグを元のとおりに取り付けてください。



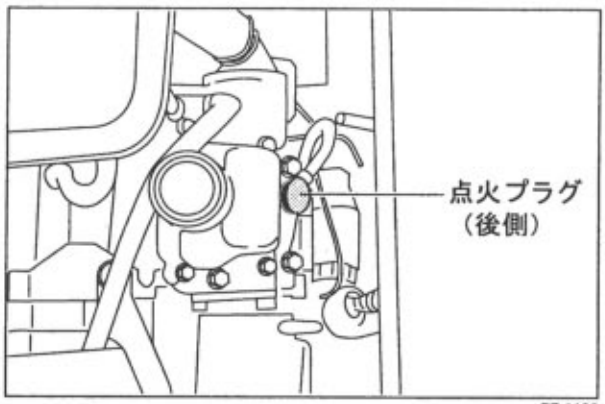
PZ-0124

## ■PZ70、60HG型

**1** 付属のボックスレンチで点火プラグ（前後2箇所）を取り外してください。



PZ-0125

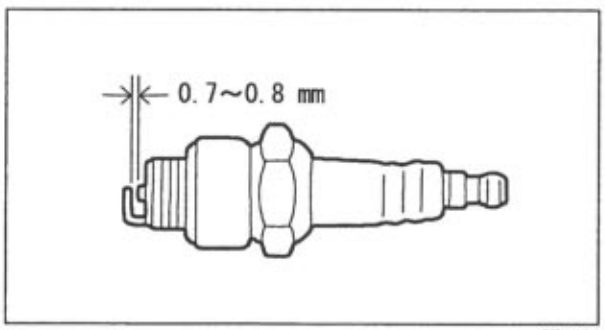


PZ-0126

**2** 点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7～0.8 mmに調整してください。

**補　足**

- **使用点火プラグはNGK BPR4ES（2個）です。**



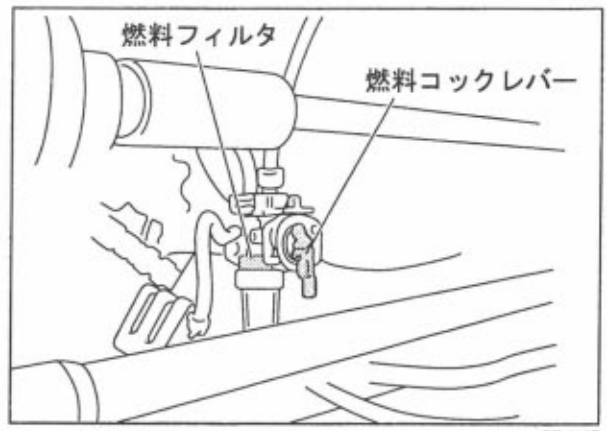
PZ-0124

**3** 点火プラグを元のとおりに取り付けてください。

# 7.1.9 燃料フィルタの清掃

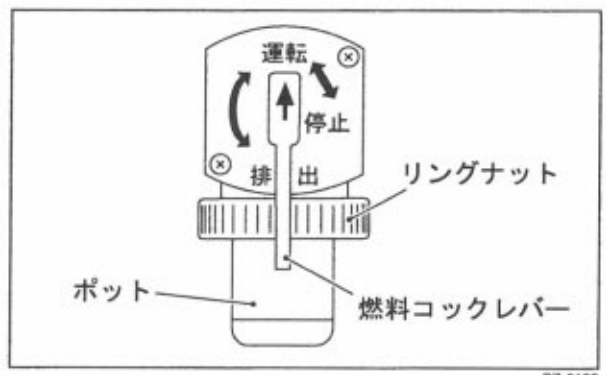
## ■PZ50、60（HV型）

**1** 燃料コックレバーを「停止」位置にしてください。



PZ-0127

**2** リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油・ガソリン等で洗浄し、元どおり組み付けてください。



PZ-0128

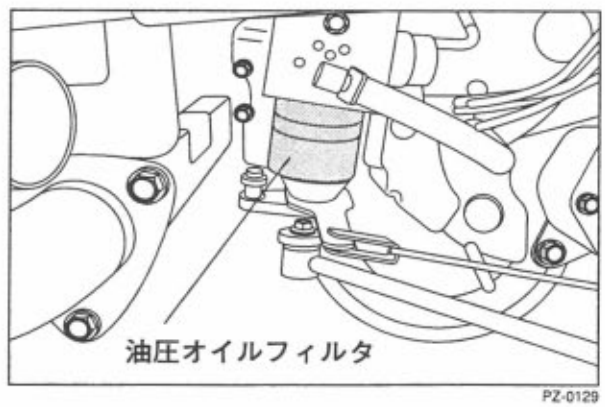
# 7.1.10 油圧オイルフィルタの交換

**1** オイルフィルタを反時計方向にねじって外します。

**2** 新しいフィルタと交換し、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬってください。

**3** 元のように締め付けてください。

| 交換用フィルタ | |
|---|---|
| 部品コード | 品名 |
| 1608-206-260-00 | カートリッジASSY |



PZ-0129

**補　足**

- **交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量まで油圧オイルを追加してください。（オイルの種類・検油のしかた等 ☞ 132ページ）**

# 7.1.11 油圧サクションフィルタの清掃

**⚠危険**

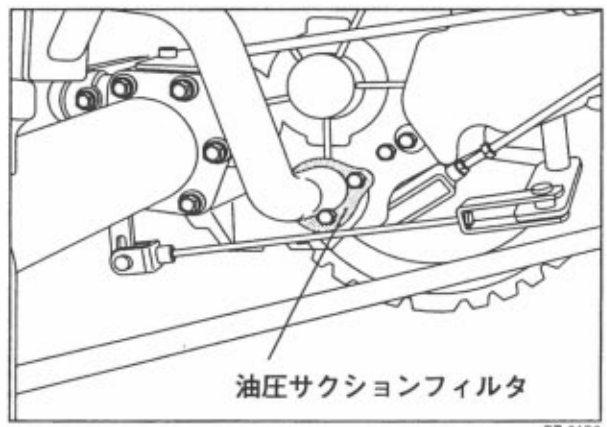
**オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

**作業中は火気厳禁です。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

**補 足**

- **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。**
  **お買い上げ先にご相談ください。**

オイル交換時に、2本のボルトを外して引き抜き、点検・清掃してください。



PZ-0130

# 7.1.12 リヤミッションオイルの給油

**⚠危険**

**オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

**作業中は火気厳禁です。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

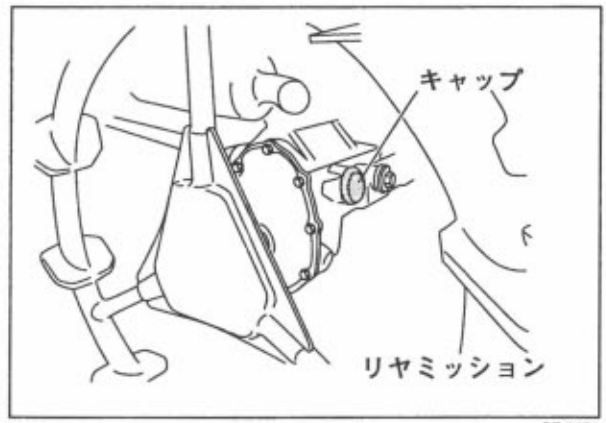
**補 足**

- **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。**
  **お買い上げ先にご相談ください。**

リヤミッション分解時に、キャップを外してオイル（ヰセキハイポイドギヤーオイル80#）を給油してください。

| | |
|---|---|
| 5、6、7条 | 左右各 1.3 ℓ |

給油後はキャップを閉めてください。



PZ-0131

# 7.1.13 植付クラッチケースの給油

**⚠危険**

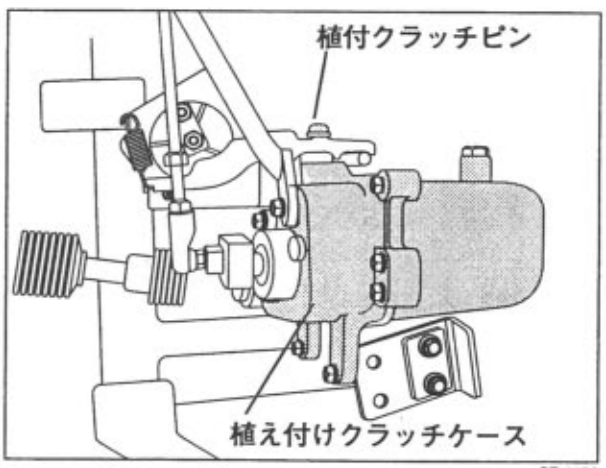
**オイル交換は、エンジンを停止して行ってください。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

**作業中は火気厳禁です。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

**補 足**

- **オイル交換による廃油を下水や土壌に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。**
  **お買い上げ先にご相談ください。**

植付クラッチ分解時に、植付クラッチピンを外してオイル（ヰセキハイポイドギヤーオイル80# 0.5ℓ ）を給油してください。
給油後は植付クラッチを元どおりにしてください。



PZ-0132

# 7.1.14 バッテリーの点検と交換

## ⚠危険

**バッテリー液を身体や衣服につけないようにしてください。**
バッテリー液は希硫酸（劇物）です。
※ 万一身体や衣服についた場合は、すぐ多量の水で洗ってください。

**バッテリーを外すときは、必ず⊖コードから外してください。**
※ ショートによる火災の原因になります。

**バッテリーを取り付けるときは、⊕コード、⊖コードを確認して間違わないようにし、必ず⊕コードから取り付けてください。**
※ ショートによる火災の原因になります。

**充電や使用は通風のよいところで行い、火気を近づけないでください。**
※ 引火爆発のおそれがあります。

**ハイドロメータの色が透明のとき、補充電をした場合はすぐにエンジンを始動させないでください。**
※ 引火爆発のおそれがあります。

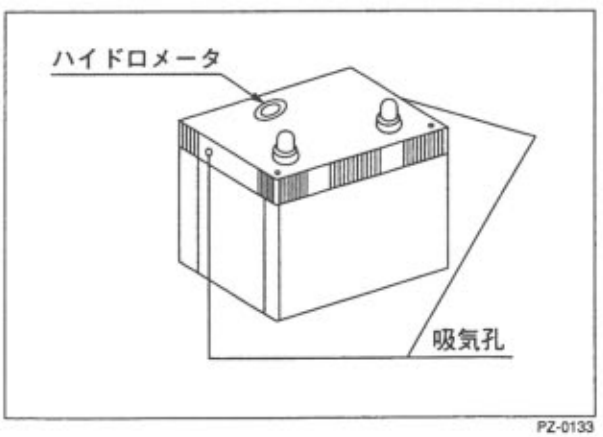
## ⚠警告

**バッテリーを乾いた布なので掃除しないでください。**
※ 静電気により引火爆発のおそれがあります。

バッテリは、シーズン前に、点検してください。

**補 足**

- **バッテリの状態は、ハイドロメータの色で表されます。ハイドロメータを見るときは、機体が水平となる場所で、真上から見てください。ハイドロメータの色が、透明、または薄い緑のときは、念のため軽くたたいて、気泡がついていないか確かめてから再度見てください。**



## ■点検と取り扱い

(1) 本機に使用しているバッテリは、補水の必要がないバッテリです。(密閉形では寿命まで補水不要)
(2) 気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬季は特にバッテリの管理に注意してください。
(3) バッテリは使用しなくても自己放電しますから、ハイドロメータの色が黒色のときは、補充電を行います。
(4) 田植機を長期格納する場合は、バッテリを外し日光の当たらない乾燥した場所に保存してください。どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側(㊀側)を外します。
(5) 新品のバッテリと交換する場合は必ず指定した型式(32A19L)のバッテリを使用します。

| ハイドロメータの色 | 充電状態 | 必要処置 |
|---|---|---|
| 緑 | 正　常 | 使用可能 |
| 黒 | 放電している | 補充電が必要 |
| 透　明 | 液減り | 寿命ですので、バッテリを交換してください。 |

# 7.1.15 ヒューズの交換

## ⚠注意

**部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。**
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

### ■全型式

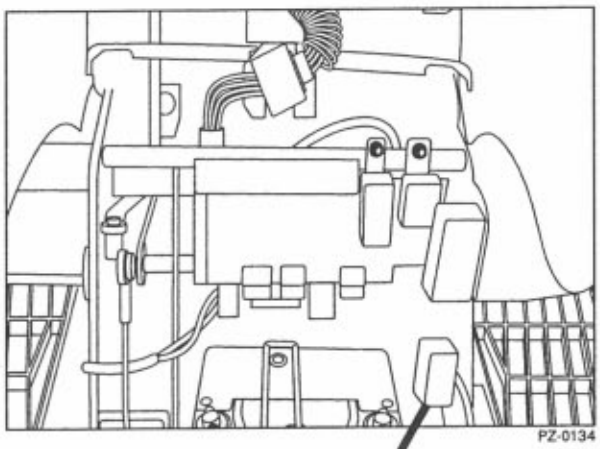
**1** ボンネットを開け、ヒューズケースを開いてください。
中にヒューズが入っています。

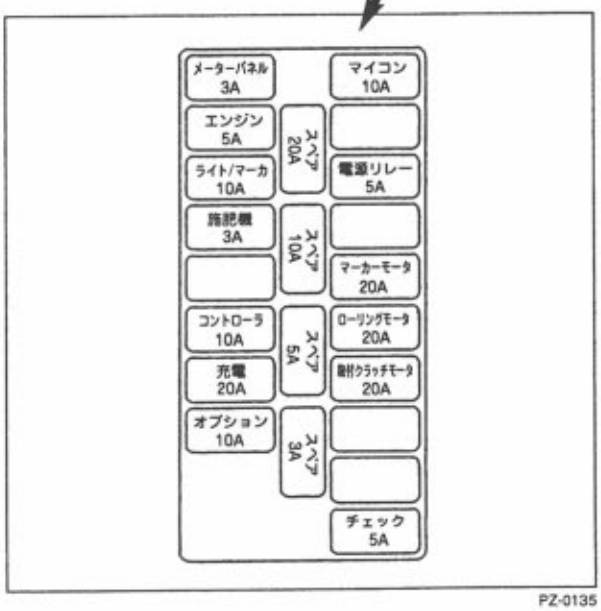
**2** 切れたヒューズを外します。
(3A、5A、10A、20A)

**3** 同容量のヒューズと交換してください。
**補 足**

- **ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買い上げ先へご相談ください。**

**4** ヒューズケースを閉じ、ボンネットを閉じてください。


PZ-0134



PZ-0135

# 7.1.16 スローブローヒューズの交換

**⚠注 意**

**部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。**
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

**補 足**

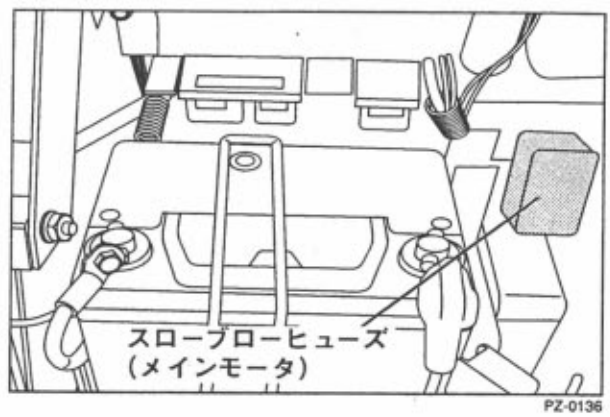
- **スローブローヒューズが焼損した場合は、お買い上げ先へご相談ください。**

## ■全型式

1 ボンネットを開けてください。

2 バッテリー⊕端子部にスローブローヒューズがあります。焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

| 部品コード | 品名 | 容量 |
|---|---|---|
| 1650-650-222-00 | ヒューズ (スローブロー) | 40A |



PZ-0136

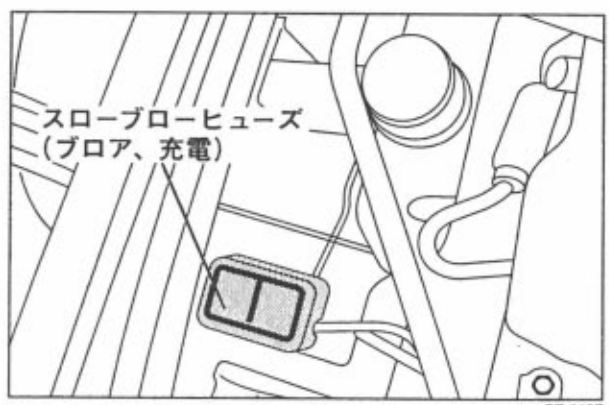
3 ボンネットを閉じてください。

## ■F型

1 エンジンカバーを開けてください。

2 エンジン後部にスローブローヒューズがあります。
焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

| 部品コード | 品名 | 容量 |
|---|---|---|
| 1650-650-222-00 | ヒューズ (スローブロー) | 40A |
| 1614-690-202-00 | ヒューズ (スローブロー) | 50A |



PZ-0137

3 エンジンカバーを閉めてください。

# 7.1.17 ランプの交換

ランプを外し、同型のランプと交換してください。

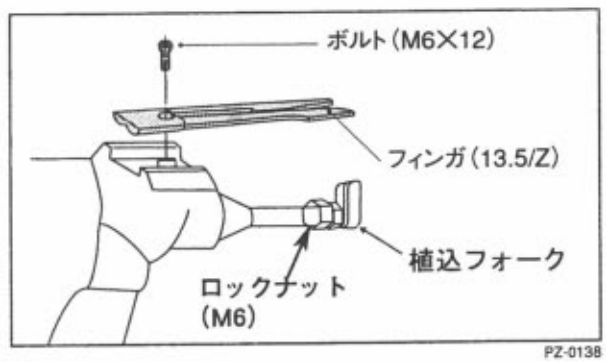
**補 足**

- **ランプが切れた場合は、お買い上げ先でご注文ください。**

| 部品コード | 品 名 | 使用場所 |
|---|---|---|
| 2204-532-203-00 | バルブ（12V 21W） | ヘッドランプ |
| 2132-524-204-10 | バルブ（ランプ12V 8W） | センターマスコットランプ |
| 1614-670-281-00 | バルブ（ランプ12V 1.7W） | 燃料モニタのみ |
| 3650-270-214-00 | バルブ（ランプ12V 3.4W） | 燃料モニタ以外のモニターランプ |

# 7.1.18 フィンガ（13.5/Z）

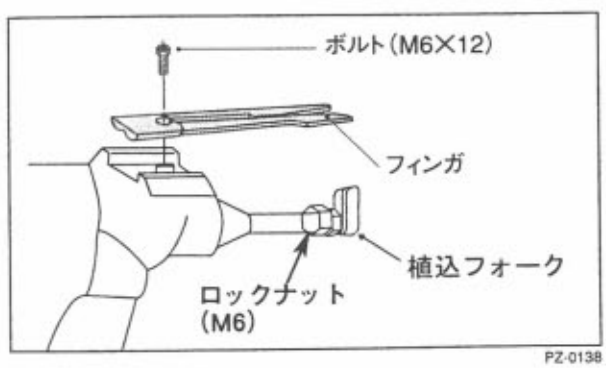
フィンガが摩耗または変形すると植付姿勢が悪くなります。
フィンガを交換してください。



PZ-0138

# 7.1.19 植込フォークの点検・交換

植込フォークが摩耗または変形すると植付姿勢が悪くなります。
植込フォークを交換してください。



PZ-0138

# 8. 格納時の手入れ

## 8.1 日常の格納

### ⚠警告

**洗車をするときは、電装品、給油口、安全表示ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。**
※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、安全表示ラベルのはがれを起こしたりします。

**作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。**
※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

**田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。**
※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

### ⚠注意

**点検・整備・清掃をするときは、必ずエンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから行ってください。**
※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

1 その日の内に水洗いし、回転部等に巻き付いたゴミ等をきれいに取り除いてください。

2 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

3 回転部、摺動部にたっぷり油を差し、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。
(☞52、53、54ページ)

## 8.2 長期格納

### ⚠危険

**燃料を放置しないでください。**
※ 放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となるおそれがあり、大変危険です。

**燃料抜取時は火気厳禁です。**
※ 守らないと、火災の原因となります。

## 8. 格納時の手入れ

### ⚠警告

**作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、加熱部分が完全に冷えてから行ってください。**
※　熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

**田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。**
※　点検や移動等のとき、暗い所で行っていると思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

**1** 水洗いし、回転部等に巻き付いたゴミ等をきれいに取り除いてください。

**2** 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

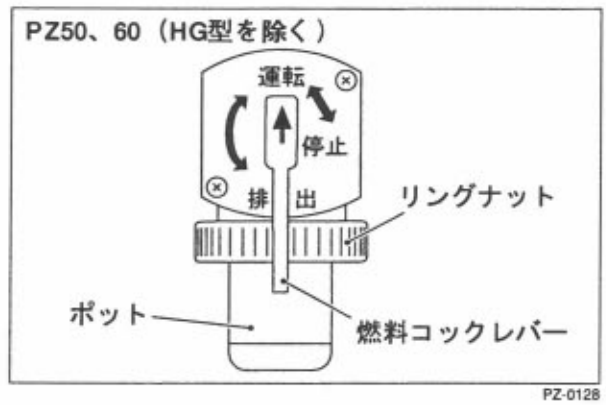
**3** 回転部、摺動部にたっぷり油を差し、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。
(☞52、53、54ページ)

**4** 燃料を抜き取ってください。

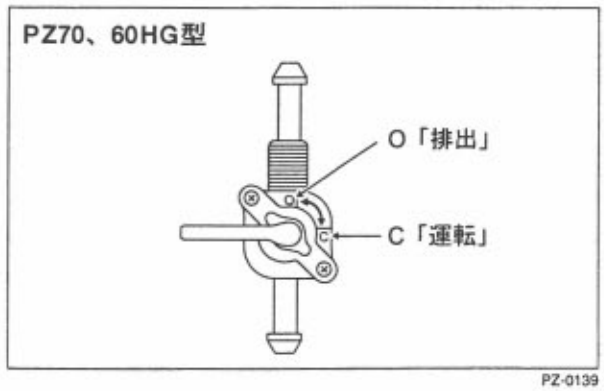
(a) 燃料タンク、気化器

- PZ50、60（HV型）
  燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」位置にしてください。
- PZ70、60HG型
  ワンタッチドレンコックを「O」位置にして、気化器の燃料を抜き取り、抜き取り後「C」位置に戻してください。
  燃料タンク下側のホースを外し、燃料を抜き取り、抜き取り後元に戻してください。

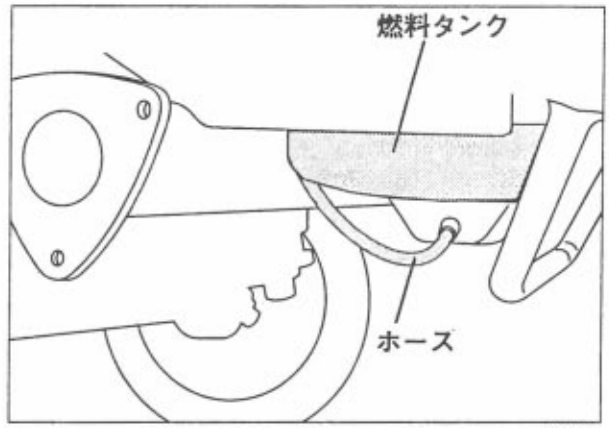
(b) ポット
リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油、ガソリン等で洗浄し、元どおり組み付けてください。



PZ-0128

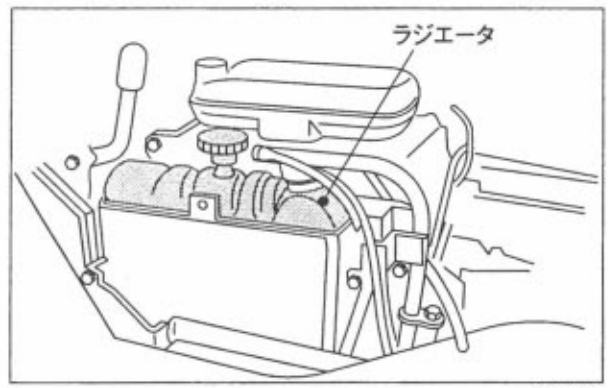


PZ-0139



PZ-0140

**5** ラジエータの冷却水を抜いてください。
（PZ70、60HG型）排水後「水なし」と書いた札をステアリング（ハンドル）にかかげてください。



PZ-0138C

**6** 植付部は降してください。

**7** ブレーキペダルは踏み込みロックしてください。

**8** バッテリーは取り外し、補充電を行い日光の当らない乾燥した場所に保管してください。
どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（㊀側）を外してください。

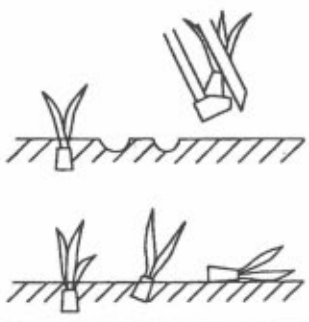
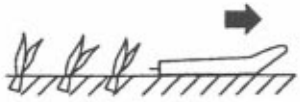
**補　足**

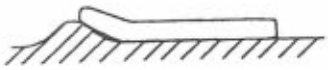
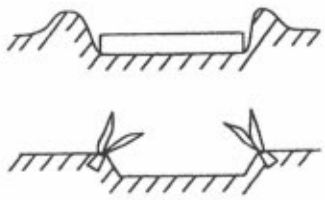
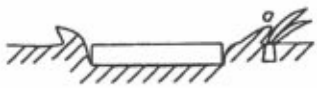
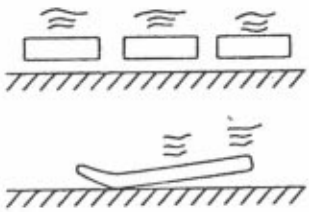
- **夏期には2ケ月、冬期には3ケ月以内に補充電をするとバッテリーが長く使用できます。**

**9** 格納場所は直射日光の当らない風通しの良い場所を選定し、シートを掛けてください。

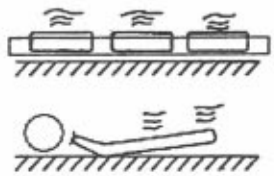
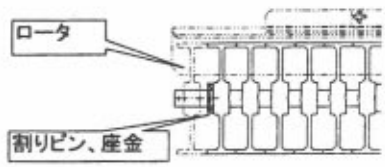
# 9. 不調時の処置

## 9.1 不調と処置

| 不調の内容 | 原　因 | 処置方法 |
|---|---|---|
| 苗がバラけて植わる。<br> | ● 苗の根張りが悪い。<br>● 苗の床上が砂質で苗床に粘りがない。 | ● 苗に水をかける。<br>● 植付速度を遅くする。 |
| | ● 苗の床土が乾いている。 | ● 苗に水をかける。 |
| | ● 植付速度が速すぎる。 | ● 植付速度を遅くする。 |
| 苗が一本、二本だけ離れ植付が乱れる。<br> | ● 苗の根張りが悪い。<br>● 苗の床土が砂質で苗床に粘りがない。 | ● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞84ページ）<br>● 苗に水をかける。 |
| | ● 抵抗棒のセット位置が悪い。 | ● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞84ページ） |
| | ● 苗の床土が乾いている。 | ● 苗に水をかける。 |
| 爪であけた穴がふさがらず、水を入れると浮き苗となる。<br> | ● ほ場が硬い。<br>● 砂質系のほ場。 | ● 水を1～2 cm入れ、ほ場の表土を軟らかくして植える。<br>● 代かき直後に植える。 |
| 苗が植付爪より離れず欠株または苗がころぶ。<br>  | ● 苗床が粘土質で粘りが強い。<br>● 粘土質のほ場で水が少ない。<br>● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗のかけすぎ）<br>● 植込フォークの押し出しが遅い。 | ● 苗床に十分水が含むよう、水をかける。<br>● ほ場に1～2 cm程水を入れる。<br>● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞84ページ） |
| 前進方向に傾き植わる。<br>  | ● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗のかけすぎ） | ● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞84ページ） |
| 前進方向と反対側に傾き植わる。<br> | ● 抵抗棒のセット位置が悪い。（抵抗が弱い） | ● 抵抗棒のセット位置を変える。（☞84ページ） |

| 不調の内容 | 原　因 | 処置方法 |
|---|---|---|
| フロートで泥を押す。<br>  | ● 油圧感度調節が田んぼの硬さに合っていない。<br>● 田んぼの表土が軟らかい。 | ● 油圧感度調節ダイヤルを「軟らかい」方向に泥を押さなくなるまで調節する。 |
| フロートが沈み跡が深く付く、または苗が内側に倒れ込む。<br>  | ● 植付速度が速すぎる。<br>● 田んぼの表土がトロトロで軟らかい。 | ● 植付速度を遅くする。<br>● 水を落し表土を硬くする。または硬くなるまで植付を延期する。 |
| サイドフロートで泥を押し隣接苗を倒す。<br>  | ● 苗を多くのせすぎている。 | ● 苗のせ台に苗を多く（2枚）のせない。 |
| フロートが浮き上がる。<br>  | ● 油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。<br>● 油圧感度調節ダイヤルが「油圧ロック」位置になっている。 | ● 油圧感度調節ダイヤルを「硬い」方向にフロートが浮き上がらなくなるように調節する。<br>● 油圧感度調節ダイヤルを植付できる適正な位置に調節する。 |
| 植付部全体がバタバタする。<br> | ● 油圧感度調節が「軟らかい」側によりすぎている。<br>● エンジン回転数が高すぎる。<br>● 田んぼの耕盤が凸凹している。<br>● 土のかたまりの上にセンターフロートが乗っている。 | ● 油圧感度調節ダイヤルを「硬い」方向にバタつきがなくなるように調節する。<br>● 植付速度を遅くする。<br>● 植付速度を遅くする。<br>● そのまま前進する。 |
| サイドフロートの片方だけが浮き上がる。<br> | ● 植付部の左右のバランスがとれていない。 | ● バランススプリングの張りを替え左右のバランスを取る。<br>（お買い上げ先にご相談ください。） |

## 9.2 ロータ仕様機の不調と処置

| 不調の内容 | 原　因 | 処置方法 |
|---|---|---|
| ロータで泥を押す。<br> | 1) ロータ高さが田んぼの硬さにあっていない。<br>2) 油圧感度調節が田んぼの硬さに合っていない。 | 1) ロータ高さ調節レバーを「高い」側に調節する。<br>2) 油圧感度調節ダイヤルを「軟」方向に泥を押さなくなるまで調節する。 |
| 凸凹跡が消えない<br>  | 1) ロータ高さが田んぼの硬さにあっていない。<br>2) 油圧感度調節が田んぼの硬さに合っていない。 | 1) ロータ高さ調節レバーを「低い」側に調節する。<br>2) 油圧感度調節ダイヤルを「硬」方向にフロートが浮き上がらなくなるまで調節する。 |
| 隣接条へ泥を押し、苗を倒す。<br> | 1) 田んぼの表土が柔らかすぎる。<br>2) 苗を多くのせすぎている。 | 1) 両端のロータを一個ずつ外す。<br>  <br>端のロータを外し、割ピン、座金を差し替える。<br>2) 苗のせ台に苗を多く（2枚）のせない。 |
| ロータが回らない。 | 1) ロータ高さ調節レバーが「収納」位置になっている。<br>2) 植付部のフロート底面高さが400mm以上になっている。<br>3) 田植機が止まっている。<br>4) ケーブルの調整不良。 | 1) ロータ高さ調節レバーを「収納」位置以外の位置にする。<br>2) 植付部を下降させる。<br>3) 田植機を前進させる。<br>4) ケーブルを調整する。 |
| ロータが止まらない。 | 1) ロータ高さ調節レバーが「収納」以外の位置になっている。<br>2) 植付部が上がっていない。<br>3) ケーブルの調整不良。 | 1) ロータ高さ調節レバーを「収納」位置にする。<br>2) 植付部が上昇させる。（400mm以上）<br>3) ケーブルを調整する。 |

# 9.3 植付部ローリングの応急処置（R型）

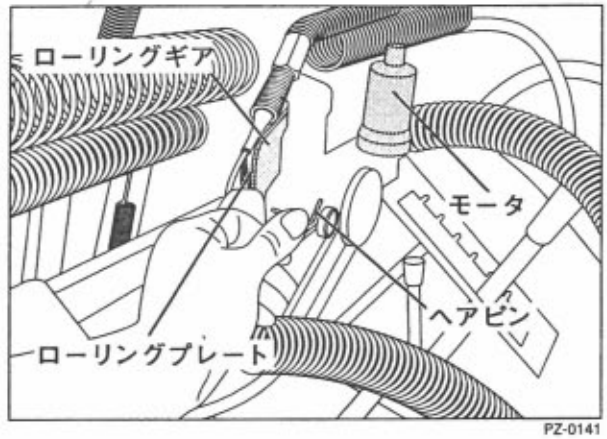
植付部ローリングが正常に作動しなくなった場合は、
下記の要領で応急処置をしてください。

**1** 植付部ローリング部のヘアピンを抜いてください。

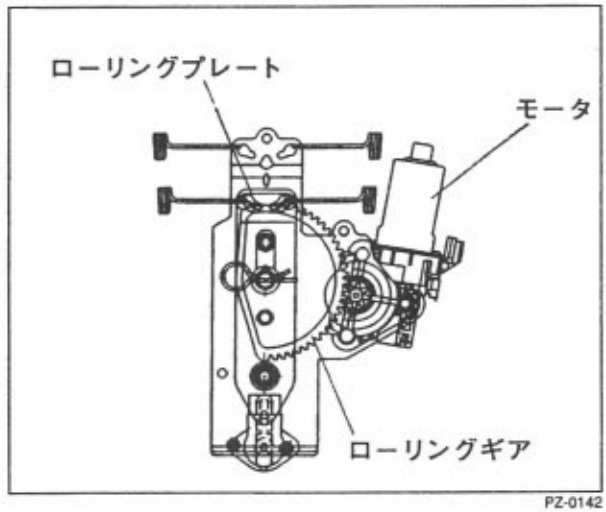
**2** ローリングギアを機体後方にずらし、モータとのかみ合いをはずしてください。

**補　足**

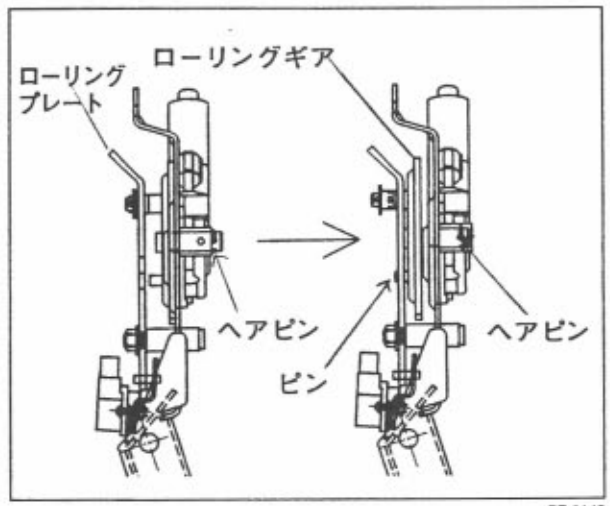
- **センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられます。お買い上げ先にご連絡ください。**



PZ-0141



PZ-0142



PZ-0143

# 9.4 コントローラによる設定変更と異常表示について

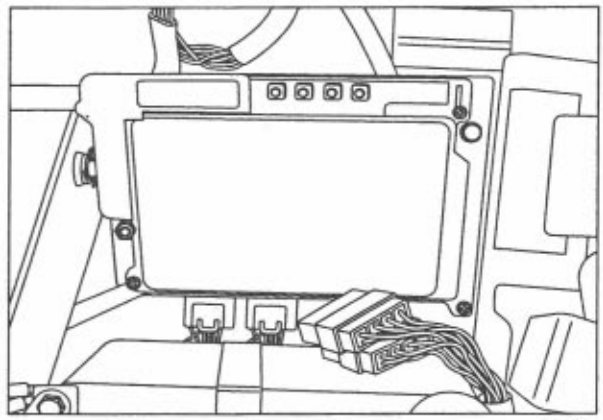
**⚠ 警 告**

**設定変更や点検をおこなうときは、エンジンを必ず止めてください。**
※ 守らないと、衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。

ボンネット内にあるコントローラを使って設定の変更やモニタパネルのマイコンチェックのランプが点灯しているときに異常の内容を確認できます。

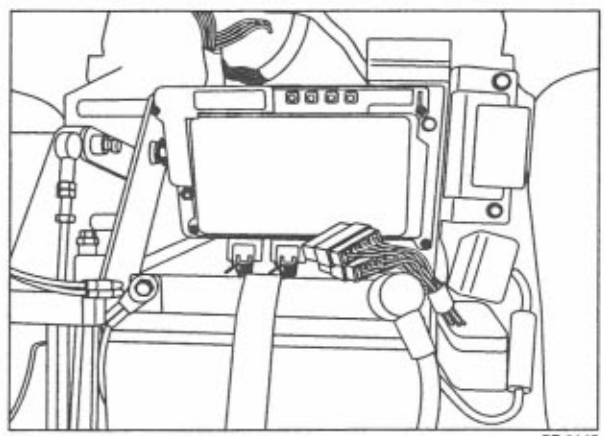
**補 足**

- **コントローラの表示部には通常はアワメータが表示されています。**


PZ-0144

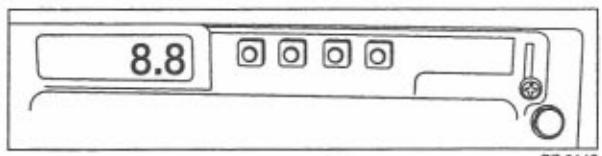
## ■設定変更

(1) コントローラの選択ボタンを1回長押しします。(約1秒)
(2) 表示が“CP”のついた設定変更の画面に変わります。
(3) “選択”ボタンで設定の種類を選びます。
(4) “▼▲”ボタンで設定の変更の度合いを選び“決定”ボタンで決定してください。
設定変更ができる項目は以下のものがあります。


PZ-0145

**補 足**

- **7条の後輪トレッドを5条またぎに変更した時、外付補助車輪を装着した際は必ず次頁の3または4の設定変更をおこなってください。**



PZ-0146

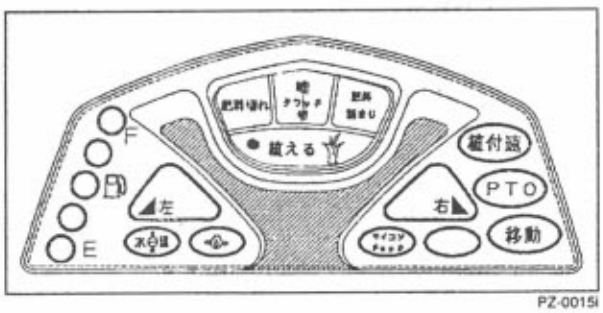
| 設定の種類 | | | 内容 | 初期値 | 調整範囲 |
|---|---|---|---|---|---|
| 植付ローリング | 傾き調節 | 1. | 水平基準値を変更できます。<br>▲（＋）：右下がり | 000 | −10 ～ 010 |
| | 入り、切り | 2. | ローリングの「入」「切」を選択できます。<br>「0」切り、「1」入り | 001 | 000又は 001 |
| さなえZターン | 外付け補助車輪の有無 | 3. | 外付け補助車輪装着時に選択してください。<br>「0」無し、「1」有り | 000 | 000又は 001 |
| | 後輪トレッド変更（7条のみ） | 4. | 後輪トレッドが５条またぎで補助車輪無しのとき「5」、それ以外は「3」 | 003 | 003又は 005 |
| | 植え始め調節の基準値変更 | 5. | 植え始めタイミングを変更できます。<br>▲（＋）：早く<br>（調節ノブ1クリック分ずつ） | 000 | −10 ～ 010 |
| | 旋回時植付部上昇ポイント変更 | 6. | 植付部の上昇タイミングを変更できます。<br>▲（＋）：早く（ハンドル角度6°ずつ） | 000 | −10 ～ 010 |
| 油圧感度調節 | センサフロート感度不感帯幅変更 | 7. | 油圧感度を敏感、鈍感に変更できます。<br>▲（＋）：鈍感 | 010 | 005 ～ 015 |
| | 車速による感度補正幅変更 | 8. | 感度補正幅の変更ができます。<br>▲（＋）：鈍感 | 005 | 003 ～ 007 |

## ■エラー表示

(1) モニタパネルのマイコンチェックのランプが点灯した場合はコントローラの表示部に表示されている文字を販売店にご連絡ください。

**補　足**

- **コントローラの表示部にはアワメータとエラー表示が交互に表示されます。**
- **E.204とE.501が表示される場合はマイコンチェックランプは点灯しません。**



PZ-0015I

| | 表　示 | 表　示 |
|---|---|---|
| エラー表示 | E.101 | Zシフトクリップ異常 |
| | E.201 | さなえZターン異常（ステアリングセンサ異常） |
| | E.202 | さなえZターン異常（回転センサ左異常） |
| | E.203 | さなえZターン異常（回転センサ右異常） |
| | E.204 | 植え始め調節ノブ異常 |
| | E.301 | 植付ローリング異常（水平センサ異常） |
| | E.302 | 植付ローリング異常（ポテンショメータ異常） |
| | E.401 | 電動マーカ異常 |
| | E.501 | 感度調節ノブ異常 |
| | E.502 | センサフロートポテンショメータ異常 |
| | E.601 | オートリターン異常（リンクスイッチ異常） |

# 10. 付表

## 10.1 推奨潤滑油一覧表

| 区分 | | メーカ名 | 商品名 |
|---|---|---|---|
| エンジンオイル | | 井関農機 | ヰセキ純正オイル10W30#<br>20リットル缶：7019-009-300-00<br>4リットル缶：7019-009-400-00 |
| ギヤーオイル | チェンジミッションオイル（ギヤーボックス部） | 井関農機 | ヰセキハイポイドギヤーオイル80#<br>20リットル缶：7019-001-300-00<br>4リットル缶：7019-001-400-00 |
| | リヤミッションオイル | | |
| | 植付クラッチケースオイル | | |
| | 植付部フレーム | | |
| | サイドフレーム | 他有名メーカのグレードGL-4以上使用 | |
| 主変速オイル | チェンジミッションオイル（油圧タンク部）（油圧無段変速機オイル） | 井関農機 | ヰセキU·T·Hオイル<br>20リットル缶：7019-019-300-00<br>4リットル缶：7019-019-400-00 |
| グリース | 一般グリース | | エトライトNo.2 |
| | ロータリーケース | | ユニループ00# |
| | 植込杆・リードメタル | | ウエコミカングリス<br>（ワンルーバーMP1#） |
| 燃料 | | 有名メーカ品 | 自動車用無鉛ガソリン |
| 不凍液 | | モービル石油<br>シェル石油<br>他有名メーカ品を使用 | モービルロングライフクーラント<br>アンチフリーズ |

## 10.2 主要諸元

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 販売型式名 | | | PZ70 | | | |
| 型式名 | | | P0387 | | | |
| 仕様区分 | | | HG | HGR | HGRL | HGRA |
| 機体寸法 | 全長 (mm) | | 2,960 | | 3,010 | 2,960 |
| | 全幅 (mm) | | 2,140 | | | 2,200 |
| | 全高 (mm) | | 1,700 | | | |
| | 最低地上高 (mm) | | 400 | | | |
| 重量 (kg) | | | 551 | 556 | 618 | 576 |
| エンジン | 型式名 | | FD501D | | | |
| | 種類 | | 水冷4サイクルV型2気筒OHVガソリンエンジン | | | |
| | 総排気量 (ℓ) | | 0.437 | | | |
| | 出力/回転速度(kw{PS}/rpm) | | 8.3 {11.3} /3600 (最大11.8 {16.0} /4000) | | | |
| | 使用燃料 | | 自動車用無鉛ガソリン | | | |
| | 燃料タンク容量 (ℓ) | | 18 | | | |
| | 始動方式 | | セルモーター式 | | | |
| 走行部 | かじ取り方式 | | センターヨーク式 | | | |
| | 車輪 種類個数 | 前輪 | ノーパンクタイヤ×2 | | | |
| | | 後輪 | 細リムラグ車輪×2 | | | |
| | 車輪 外径(mm) | 前輪 | 650 | | | |
| | | 後輪 | 900 | | | |
| | 変速段数 (段) | | 前進2、後進2 | | | |
| 植付部 | 植付部の位置 | | 後部 | | | |
| | 植付部の昇降方式 | | 油圧式 | | | |
| | 植付部の装着方式 | | 4点リンク | | | |
| | 植付方式 | | ロータリー | | | |
| | 植付条数 (条) | | 7 | | | |
| | 植付条間 (cm) | | 30 | | | 33 |
| | 植付株数 (株/3.3 m²) | | 80,70,60,50,42,37 | | | 75,65,55,45,40,35 |
| | 植付深さ (cm) | | 2.0~5.0 (7段) | | | |
| | 一株本数調節方法 | | 横送り11.7, 14.0mm、縦かき取り8~18mm/株 (A型：横送り11.7、14.0、15.6mm、縦かき取り8~18mm/株) | | | |
| 植付速度 (m/秒) | | | 1.4 | | | |
| 作業能率 (分/10a) | | | 9 | | | 8 |
| 苗条件 | 苗の種類 | | マット苗 | | | |
| | 草丈 (cm) | | 10~25 | | | |
| | 葉令 (葉) | | マット苗2~4 | | | |
| 予備苗搭載数 (箱) | | | 8 | | | |
| 型式検査合格番号 | | | — | | | |
| 安全鑑定適合番号 | | | 31,006 | | (受検申込中) | 31,006 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 販売型式名 | | | | PZ60 | | | |
| 型式名 | | | | P0406 | | | P0416 |
| 仕様区分 | | | | HVR | HVRL | HVRA | HVRAS | HVC |
| 機体寸法 | 全長 (mm) | | | 2,960 | 3,010 | 2,960 | | 2,810 |
| | 全幅 (mm) | | | 2,020 | | 2,200 | | 2,020 |
| | 全高 (mm) | | | 1,560 | | 2,140 | | 1,535 |
| | 最低地上高 (mm) | | | 400 | | | | 375 |
| 重量 (kg) | | | | 481 | 524 | 491 | 491 | 483 |
| エンジン | 型式名 | | | FJ400D | | | | |
| | 種類 | | | 空冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン | | | | |
| | 総排気量 (ℓ) | | | 0.401 | | | | |
| | 出力/回転速度(kw{PS}/rpm) | | | 7.0 {9.5} /3300 (最大10.0 {13.5} /3800) | | | | |
| | 使用燃料 | | | 自動車用無鉛ガソリン | | | | |
| | 燃料タンク容量 (ℓ) | | | 11 | | | | |
| | 始動方式 | | | セルモーター式 | | | | |
| 走行部 | かじ取り方式 | | | センターヨーク式 | | | | |
| | 車輪 | 種類個数 | 前輪 | ノーパンクタイヤ×2 | | | | |
| | | | 後輪 | 細リムラグ車輪×2 | | | | |
| | | 外径(mm) | 前輪 | 650 | | | | 600 |
| | | | 後輪 | 900 | | | | 850 |
| | 変速段数 (段) | | | 前進2、後進2 | | | | |
| 植付部 | 植付部の位置 | | | 後部 | | | | |
| | 植付部の昇降方式 | | | 油圧式 | | | | |
| | 植付部の装着方式 | | | 4点リンク | | | | |
| | 植付方式 | | | ロータリー | | | | |
| | 植付条数 (条) | | | 6 | | | | |
| | 植付条間 (cm) | | | 30 | | 33 | | 30 |
| | 植付株数 (株/3.3 m²) | | | 80,70,60,50,42,37 | | 75,65,55,45,40,35 | 90,85,80,75,70,65 | 80,70,60,50,42,37 |
| | 植付深さ (cm) | | | 2.0~5.0 (7段) | | | | |
| | 一株本数調節方法 | | | 横送り11.7, 14.0mm、縦かき取り8~18mm/株 (A型：横送り11.7、14.0、15.6mm、縦かき取り8~18mm/株) | | | | |
| 植付速度 (m/秒) | | | | 1.4 | | | | 1.35 |
| 作業能率 (分/10a) | | | | 10 | | 9 | 9 | 11 |
| 苗条件 | 苗の種類 | | | マット苗 | | | | |
| | 草丈 (cm) | | | 10~25 | | | | |
| | 葉令 (葉) | | | マット苗2~4 | | | | |
| 予備苗搭載数 (箱) | | | | 6 | | | 12 | 6 |
| 型式検査合格番号 | | | | − | | | | |
| 安全鑑定適合番号 | | | | 31,008 | | | | 31,009 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 販売型式名 | | | PZ60 | | | PZ50 | | |
| 型式名 | | | P0396 | | | P0425 | | |
| 仕様区分 | | | HGR | HGRL | HGRA | HV | HVR | HVRL |
| 機体寸法 | 全長 (mm) | | 3,060 | 3,110 | 3,060 | 2,960 | | 3,010 |
| | 全幅 (mm) | | 2,020 | | 2,200 | 1,755 | | |
| | 全高 (mm) | | 1,560 | | 2,140 | 1,560 | | |
| | 最低地上高 (mm) | | 400 | | | | | |
| 重量 (kg) | | | 514 | 557 | 524 | 458 | 463 | 505 |
| エンジン | 型式名 | | FD501D | | | FJ400D | | |
| | 種類 | | 水冷4サイクルV型2気筒OHVガソリンエンジン | | | 空冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン | | |
| | 総排気量 (ℓ) | | 0.437 | | | 0.401 | | |
| | 出力/回転速度(kw{PS}/rpm) | | 8.3{11.3}/3600 (最大11.8{16.0}/4000) | | | 7.0{9.5}/3300 (最大10.0{13.5}/3800) | | |
| | 使用燃料 | | 自動車用無鉛ガソリン | | | | | |
| | 燃料タンク容量 (ℓ) | | 18 | | | 11 | | |
| | 始動方式 | | セルモーター式 | | | | | |
| 走行部 | かじ取り方式 | | センターヨーク式 | | | | | |
| | 車輪 種類個数 | 前輪 | ノーパンクタイヤ×2 | | | | | |
| | | 後輪 | 細リムラグ車輪×2 | | | | | |
| | 車輪 外径(mm) | 前輪 | 650 | | | | | |
| | | 後輪 | 900 | | | | | |
| | 変速段数 (段) | | 前進2、後進2 | | | | | |
| 植付部 | 植付部の位置 | | 後部 | | | | | |
| | 植付部の昇降方式 | | 油圧式 | | | | | |
| | 植付部の装着方式 | | 4点リンク | | | | | |
| | 植付方式 | | ロータリー | | | | | |
| | 植付条数 (条) | | 6 | | | 5 | | |
| | 植付条間 (cm) | | 30 | | 33 | 30 | | |
| | 植付株数 (株/3.3 m²) | | 80,70,60,50,42,37 | | 75,65,55,45,40,35 | 80,70,60,50,42,37 | | |
| | 植付深さ (cm) | | 2.0～5.0 (7段) | | | | | |
| | 一株本数調節方法 | | 横送り11.7, 14.0mm、縦かき取り8～18mm/株 | | | (A型：横送り11.7、14.0、15.6mm、縦かき取り8～18mm/株) | | |
| 植付速度 (m/秒) | | | 1.6 | | | 1.4 | | |
| 作業能率 (分/10a) | | | 9 | | | 12 | | |
| 苗条件 | 苗の種類 | | マット苗 | | | | | |
| | 草丈 (cm) | | 10～25 | | | | | |
| | 葉令 (葉) | | マット苗2～4 | | | | | |
| 予備苗搭載数 (箱) | | | 6 | | | | | |
| 型式検査合格番号 | | | ― | | | | | |
| 安全鑑定適合番号 | | | 31,007 | | | 31,010 | | |

## 10.3 ロータ仕様

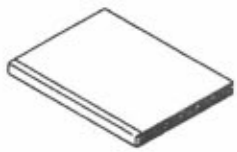
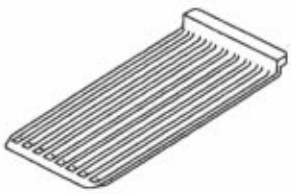
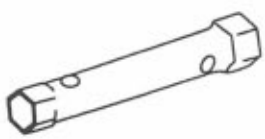
| 型式 | L | L | L |
|---|---|---|---|
| 装着田植機型式 | 5条型 | 6条型 | 7条型 |
| ロータ径 (mm) | φ140 | | |
| ロータ幅 (mm) | 1500 | 1800 | 2100 |
| ロータ高さ調節 | 9段＋収納 | | |

○仕様は改良のため変更することがあります。

# 10.4 機能装備一覧表

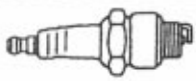
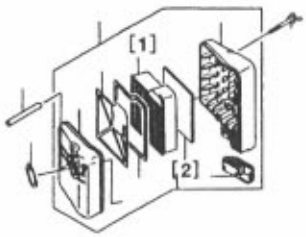
| | | PZ70 | | | | PZ60 | | | | | | | | PZ50 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | HG | HGR | HGRL | HGRA | HGR | HGRL | HGRA | HVR | HVRA | HVRAS | HVRL | HVC | HV | HVR | HVRL |
| エンジン | 16.0PS | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | 13.5PS | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 変速 | 主変速 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| パワーステアリング | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 前輪ノーパンク | φ650 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | φ600 | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| 後輪細リムラグ | φ900 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | φ850 | | | | | | | | | | | | ○ | | | |
| パネルモニタ | 燃料計 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| マイコン | さなえZシフト | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ローリング | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| | バックリフト | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 自己診断 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| さなえZターン | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| オートアクセル | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| フロントホイルキャップ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 前輪デフロック | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 後輪ローリング | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ワンタッチ横送り2段 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ワンタッチ横送り3段 | | | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | | | | |
| ロング苗タンク | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| フロート間均平レーキ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| あぜクラッチレバー手元化 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 両側線引電動水車マーカ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| さなえロータ | | | | | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 補助苗搭載量（箱） | | 8 | 8 | 8 | 8 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 12 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 苗取板枚数（枚） | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 条間（cm） | | 30 | 30 | 30 | 33 | 30 | 30 | 33 | 30 | 33 | 33 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| ホイルベース(mm) | | 1100 | 1100 | 1100 | 1100 | 1200 | 1200 | 1200 | 1100 | 1100 | 1100 | 1100 | 1100 | 1100 | 1100 | 1100 |

## 10.5 標準付属品一覧表

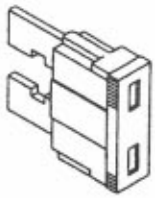
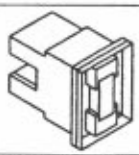
| 形　状 | 型　式 | 品　名 | 部品コード | 個数 |
|---|---|---|---|---|
|  | 全型式 | マニュアル<br>（オペレーション） | 2204-971-001-00 | 1 |
|  | 全型式 | ナエトリイタ | 2161-971-004-00 | 1 |
| | 全型式 | ナエトリクチゲージ | 2144-930-002-10 | 1 |
| | 全型式 | フォークピース<br>（ＰＺ） | 2204-738-080-00 | 条数<br>×2 |
|  | 全型式 | ツール（レンチ）<br>19×21 | 92110-2051 | 1 |

PZ-0147

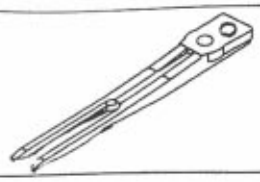
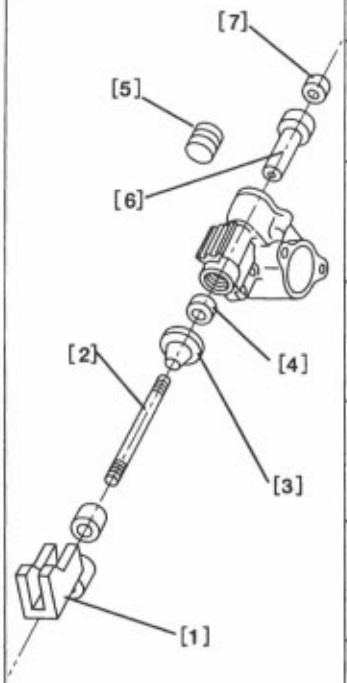
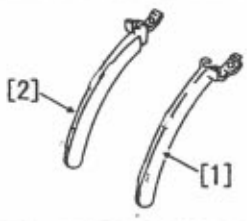
# 10.6 主な消耗部品一覧表

| 形状 | 型式 PZ70 | PZ60 | PZ50 | 品名 | 部品コード | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
|  | ○ | ○ | ○ | プラグ(NGK BPR4ES) | 5920-702-112-×× | |
| 〈エンジンオイル用〉 | ○ | ○ | ○ | オイルフィルタ | 5490-652-071-×× | 200時間ごとに交換 |
|  | | ○ | ○ | [1] エレメント（エアフィルタ）<br>[2] エレメント（エア）（エアフィルタ） | 5110-132-159-××<br>11013-2154<br>5490-642-077-××<br>11013-2155 | |
| | ○ | ○ HG型 | | [1] エレメント（エアフィルタ）<br>[2] フィルタ（エアフィルタ） | 5110-132-161-××<br>5110-132-162-×× | |
| | ○ | ○ | ○ | バッテリー（32A19L） | 2204-541-200-00 | |
| エンジンベルト | ○ | | | ベルト（VB048） | 2204-131-007-00 | |
| | | HG | | ベルト（VB047） | 2204-131-004-00 | |
| | | HV | | ベルト（VB046） | 2204-131-003-00 | 亀裂・摩耗時交換 |
| | | HC | | | | |
| | | | ○ | | | |
| ゼネレータベルト（F型用） | | ○ | ○ | ベルト（VB023） | 8838-121-002-00 | |
| | ○ | ○ HG型 | | ベルト（VA023/PF） | 8844-101-001-00 | |
| 〈変速オイル用〉 | ○ | ○ | ○ | カートリッジASSY | 1608-206-260-00 | 初期30時間以降100時間ごとに交換 |

PZ-0148

| 形　状 | 型式 PZ70 | PZ60 | PZ50 | 品　名 | 部品コード | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
|  | ○ | ○ | ○ | ヒューズ（ブレード/32V03A） | 2204-537-204-00 | ヒューズ切れ時交換 |
| | | | | ヒューズ（ブレード/32V05A） | 3824-247-202-00 | |
| | | | | ヒューズ（ブレード/32V10A） | 3821-262-202-00 | |
| | | | | ヒューズ（ブレード/32V20A） | 3821-262-204-00 | |
|  | ○ | ○ | ○ | ヒューズ（スローブロー）（40A） | 1650-650-222-00 | |
| | ○ | | | ヒューズ（スローブロー）（50A） | 1614-690-202-00 | |
| 〈ヘッドランプ用〉 | ○ | ○ | ○ | バルブ（12V　18W） | 2204-532-204-00 | ヒューズ切れ時交換 |
| 〈センターマスコット用〉 | ○ | ○ | ○ | バルブ（12V　8W） | 2132-524-204-10 | |
| 〈モニターランプ用〉 燃料モニタのみ | ○ | ○ | ○ | バルブ（ランプ/12V　1.7W） | 1614-670-281-00 | |
| 燃料モニタ以外 | ○ | ○ | ○ | バルブ（ランプ/12V　3.4W） | 3650-272-214-00 | |
| 〈しゅう動板スライダー〉 | ○ | ○ | ○ | スライダー | 2161-831-002-00 | 摩耗時交換 |
| | ○ | ○ | ○ | しゅう動板（マエイタ） | | |
| | ○ | ○ | ○ | ナエタンクローラ | 2142-9801-005-20 | |
| | ○ | ○ | ○ | 各ケーブル | | 作動が重くなったら交換 |

PZ-0149

| 形　状 | 型式 PZ70 | PZ60 | PZ50 | 品　名 | 部品コード | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
|  | ○ | ○ | ○ | フィンガ（13.5/Z） | 2204-738-311-00 | 摩耗時または変形時交換 |
|  | ○ | ○ | ○ | [1] フォーク（ウエコミ/E）COMP | 2204-738-240-00 | 摩耗時交換 |
| | ○ | ○ | ○ | [2] シャフト（ウエコミフォーク） | 2204-738-317-00 | |
| | ○ | ○ | ○ | [3] ダストミール（ウエコミフォーク） | 2186-738-048-10 | |
| | ○ | ○ | ○ | [4] グリスミール（ウエコミフォーク/7） | 2186-738-0478-10 | |
| | ○ | ○ | ○ | [5] クッション（アーム/PZ） | 2204-738-319-00 | |
| | ○ | ○ | ○ | [6] ブッシュ（8×18×35） | 2204-738-304-00 | |
| | ○ | ○ | ○ | [7] クッション | 2703-501-006-00 | |
| | | | | ローラクラッチ（FC-16） | 2150-760-302-00 | |
|  | | | | [1] ガイド（ナエアンナイ/LH/PZ） | 2204-803-015-00 | |
| | | | | [2] ガイド（ナエアンナイ/RH/PZ） | 2204-803-016-00 | |
| | | | | ナエトリィタ | 2161-971-004-00 | |

PZ-0150

## 10. 付表

| 形　　状 | 型　式 | 品　名 | 部品コード | 使用個数 | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 5条 | 6条 | 7条 | |
| | L型 | ロータ | 2204-582-002-00 | 31 | 38 | 43 | 摩耗時<br>交　換 |

# 10.7 注文部品一覧表

| No. | 区分 | | | 形状 | SET品名 | 部品コード | 対象型式 | 参考情報 資料 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 植付部 | 植付爪 | | 24回取用 | ブンリバリ（PG） | 2186-738-052-00 | 全 | |
| 2 | | | | 20回取用 | ヒロハバブンリバリ（PG） | 2186-738-053-10 | 全 | |
| 3 | | | | 取付板 | ブンリバリトリツケイタ（PG） | 2186-738-051-00 | ブンリバリまたはヒロハバブンリバリとセットでご使用ください | |
| | | | | 24回取用 | フィンガ（13／G） | 2186-738-033-00 | 全 | |
| | | | | 20回取用 | フィンガ（14／G） | 2186-740-033-00 | 全 | |
| 4 | | 苗詰まり防止関係 | | | フォーククリーナ | 2186-738-055-00 | ブンリバリまたはヒロハバブンリバリ装着機 | |
| 5 | | | | | | | | |
| 6 | | | | | フォーク（ŌPT） | 2204-740-001-00 | 全 | 条数×2個使用 |
| 7 | | グリス | | | ウエコミカングリス（150G）ASSY | 8849-001-300-01 | 全 | |
| 8 | 補助車輪（後輪） | 外付車輪 | 太リム車輪 | φ870 | シャリン（870/PG/OUT）SET | 8822-001-200-00 | PZ60，50（HVC除く） | |
| 9 | | | 太リムラグ車輪 | φ850 | シャリン（850/PG/OUT）SET | 8822-002-200-00 | PZ70 | |
| 10 | | | レーキ | | レーキ（PZ）SET | 8822-020-700-00 | PZ50，60外付け補助車輪装着機 | |
| 11 | | 内付車輪 | 太リム車輪 | φ870 | シャリン（870/PG/IN）SET | 8822-004-200-00 | PZ70 | |
| 12 | | | 太リム車輪 | φ870 | シャリン（870/PZ/IN）SET | 8822-020-200-00 | PZ60（HVC除く） | |
| 13 | | | 太リム車輪 | φ820 | シャリン（820/PZ/IN）SET | 8822-020-300-00 | PZ60，HVC | |
| 14 | | | 鉄車輪 | φ870 | テツシャリン（870/PZ/IN）SET | 8822-020-450-00 | PZ60（HVC除く） | |
| 15 | 湿田用車輪 | | 後輪 | φ900 | シャリン（900/7/PZ）SET | 8822-020-500-00 | PZ70 | |
| 16 | | | | φ900 | シャリン（900/PZ）SET | 8822-020-400-00 | PZ60，50（HVC除く） | |
| 17 | 広幅車輪 | | 前輪 | φ650×90 | タイヤ（フロント×650）SET | 8822-020-600-00 | PZ70，60（HVC除く） | |
| 18 | レインバイザー | | | | レインバイザー | 9638-214-0000-00 | 全 | |
| 19 | サンバイザー | | | | サンバイザー | 9638-213-0000-00 | 全 | |
| 20 | 除草剤散布機 | 粒材 | | | こまきちゃん（SCS-10Z） | 7022-095-0130-00 | 全 | |
| 21 | | | | | イノベーターⅡ（MGT-50A-51） | 7022-093-8907-05 | 全 | 関東甲信越以西 |
| 22 | | | | | イノベーターⅡ（MGT-51A-DX51） | 7022-093-8908-02 | 全 | ↑ |
| 23 | | | | | イノベーターⅡ（MGT-50A-75） | 7022-093-8907-04 | 全 | 東北・北海道 |
| 24 | | | | | イノベーターⅡ（MGT-51A-DX75） | 7022-093-8908-01 | 全 | ↑ |
| 25 | | 液剤 | | | 中セキ滴下マン（ILS-65PZ） | 7022-096-0000-00 | 全 | |

## 純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

**取扱い方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、購入先へご相談ください。**

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

| | | |
|---|---|---|
| 購入先名 | 担当者名 | 電話<br>(　　)　　－ |
| 御購入日<br>平成　　年　　月　　日 | 型式 | 区分 |
| 車台番号（本機番号） | エンジン番号 | 同時購入作業機 |

人と大地のハーモニー ISEKI

# 井関農機株式会社

## ISEKI & CO., LTD.

| | | | |
|---|---|---|---|
| 営業本部 | 〒116-8541 | 東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号 | ☎ 03-5604-7618 |
| 東日本サービスセンター | 〒300-2346 | 茨城県つくばみらい市青木560 | ☎ 0297-58-5131 |
| 西日本サービスセンター | 〒523-0016 | 滋賀県近江八幡市千僧供町大橋602-1 | ☎ 0748-37-3831 |
| 部品部 | 〒799-2692 | 愛媛県松山市馬木町700 | ☎ 089-979-4114 |

# 販売会社

| | | | |
|---|---|---|---|
| ㈱ヰセキ北海道 | 〒068-0005 | 北海道岩見沢市5条東12丁目7番地 | ☎ 0126-22-3388 |
| ㈱ヰセキ東北 | 〒989-2421 | 宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2 | ☎ 0223-24-1111 |
| ㈱ヰセキ関東 | 〒300-0331 | 茨城県稲敷郡阿見町大字阿見4818 | ☎ 0298-87-6131 |
| 群馬ヰセキ販売㈱ | 〒379-2154 | 群馬県前橋市天川大島町116 | ☎ 0272-63-3211 |
| ㈱石川商会 | 〒289-2516 | 千葉県旭市ロ-1247 | ☎ 0479-63-3115 |
| 柳田ヰセキ販売㈱ | 〒243-0001 | 神奈川県厚木市東町7-2 | ☎ 0462-21-2721 |
| ㈱ヰセキ信越 | 〒950-1237 | 新潟県新潟市南区北田中字堀留780-12 | ☎ 025-362-1161 |
| ㈱ヰセキ北陸 | 〒920-0806 | 石川県金沢市神宮寺2丁目20-8 | ☎ 076-252-5246 |
| ㈱ヰセキ東海 | 〒444-1221 | 愛知県安城市和泉町大北61 | ☎ 0566-92-7221 |
| 三重ヰセキ販売㈱ | 〒514-0821 | 三重県津市垂水字中境499番地 | ☎ 059-225-2811 |
| ㈱ヰセキ関西 | 〒675-0103 | 兵庫県加古川市平岡町高畑348-1 | ☎ 079-424-5357 |
| 奈良ヰセキ販売㈱ | 〒635-0014 | 奈良県大和高田市三和町17-29 | ☎ 0745-22-8771 |
| ㈱ヰセキ中国 | 〒739-0024 | 広島県東広島市西条町御薗宇727-2 | ☎ 082-423-9881 |
| ㈱ヰセキ四国 | 〒799-3101 | 愛媛県伊予市八倉120-1 | ☎ 089-983-5677 |
| ㈱西岡商会 | 〒773-0016 | 徳島県小松島市中郷町前田105-1 | ☎ 0885-32-3339 |
| ㈱ヰセキ九州 | 〒861-2212 | 熊本県上益城郡益城町平田深迫2550 | ☎ 096-286-0303 |

再生紙を使用しています

PRINTED WITH SOY INK

2204-971-001-1C